

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 日本国憲法		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 永松 正則		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター	卒業必修
☐ 実務経験						
[授業の目的・ねらい] 子どもと子育てにやさしい社会を作るために、社会の仕組み、とくに基本的人権、法制度を理解し説明できる。						主に対応するD P 3+4
[授業全体の内容の概要] 生命身体を守り、個人の自己決定を尊重する福祉の実現のために、憲法が保障する基本的人権（私人間における人権問題を含む）と統治機構について学びます。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 憲法が保障する基本的人権について、とくに子どもや保護者の権利という視点から、また保育士、幼稚園教諭という視点から説明できる。 人権侵害、権利自由の侵害に関する司法的・行政的救済場面において、論理的に自分の考えを展開することができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 憲法総論 憲法の学習を始める上で必要となる近代憲法史、憲法の基本原理である「立憲主義」、「国民主権」、「平和主義」、「基本的人権の尊重」などを概観し、授業の射程を明らかにします。						
2) 基本的人権総論 個々の人権規定に共通する以下のテーマについて解説します。（１）人権享有主体、（２）人権の分類※小テストあり。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
3) 幸福追求権 「新しい人権」の源となっている幸福追求権について解説します。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
4) 法の下での平等 何が憲法が要求する「平等」なのか。尊属殺重罰規定、女性の再婚禁止期間規定、夫婦別姓制度など具体的な裁判例を通じて明らかにしていきます。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
5) 自由権 思想良心の自由、信教の自由、職業選択の自由などの自由権について解説します。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
6) 表現の自由 自由権の中でもとりわけ重要な表現の自由について解説します。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
7) 生存権 何が「健康で文化的な最低限度の生活」なのか、朝日訴訟などの裁判を通じて明らかにします。また生存権を具体化している諸法律について紹介します。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
8) 社会権 教育を受ける権利、労働基本権などの社会権について解説します。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
9) 受益権（国務請求権）、参政権 第3回から第8回までで扱わなかった人権について、最高裁判所の違憲判決を通じて解説します。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
10) 基本的人権のまとめ 第9回までの内容をまとめ、人権の限界について考えます。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
11) 立法と国会 国会の仕組みと権能などを明らかにします。				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1 時間）		
12) 行政と内閣 議院内閣制と大統領制の違い、内閣の組織・権限、内				〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料		

閣総理大臣の権限などについて解説します。	中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
13) 司法と裁判所 日本の裁判制度と裁判組織などについて解説します。	〔事前事後学習〕 担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
14) 違憲審査制 最高裁判所の違憲判決を通じて、日本の違憲審査制の特徴について解説します。	〔事前事後学習〕 担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
15) 到達度の確認	〔事前学習〕 授業内で配布した資料・小テストを確認する。(1時間)
[使用テキスト] 授業で扱う裁判例がコンパクトに解説されている野中・江橋『憲法判例集(第12版)』(有斐閣新書・2022)を指定します。 ※授業は担当者が用意する資料にそって行います。	
[参考文献] 定評のある教科書として多くの大学で指定されている芦部信喜『憲法(第7版)』(岩波書店・2019)があります。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(100%)	第15回授業内で講義内容の理解度を確認(筆記)し、成績評価します。
②実技・作品発表等()%	
【定期試験】	
①筆記試験()%	
②レポート()%	
③実技試験()%	
④面接試験()%	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 全授業終了後、正答を開示します。	
[備考] GoogleClassroom を用いて小テストを行います。ログイン可能な機器(パソコンやスマートフォン)を持参すること。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-34-01

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 統計基礎		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育に関する様々な数値的データから、現象や実態を読み解くために必要な統計の知識や手法を身に付ける。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 統計手法を正しく解釈する力を身に付けるために、知識の習得だけでなく、簡単なデータから統計の作成をおこなう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. データ上の数値の特性について、その意味を理解し、自ら統計情報を適切な図表や数値で表現できる。 2. 図表から情報を正確に読み解くことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 統計を学ぶ意義／データ毎の尺度の種類を理解する。					
2) グラフの種類と役割／平均とパーセント／変化量と変化率					
3) データの代表値とばらつき、データから代表値を求める。				授業で示したデータを整理する (1 時間)	
4) 統計の中の関係 (因果関係と相関関係、見かけ上の相関)					
5) データの信頼性／定義と数値の関係					
6) 母集団と標本／正規分布					
7) 調査における質問の仕方				質問項目の検討 (2 時間)	
8) 統計における仮説の考え方と危険率					
[使用テキスト]					
[参考文献] 宮城重二, 『改訂やさしい実践統計学 数式を使わない「エクセル」併用書』, 2002, 光生館。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (%)					
② 実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)		到達目標の内容に関して問う問題で評価する。			
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 試験の解説を google classroom で示します。					
[備考] ・大学の配布するアカウントで google classroom にログインできる状態で授業に臨んでください。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-03

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 文章表現		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 橋本 祐治	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☒ 実務経験	元小学校教員としての経験を活かし、多様な文章の書き方について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 社会人としての日本語についての知識・教養と、表現する力を高めるために、自ら感じたことや考えたことを自覚し、それを目的に合わせて適切に文章で表現することができるようになる。					主に対応するD P 4
[授業全体の内容の概要] 継続的な短作文や俳句作り、日本語基礎知識の小問題をとおして文章表現に係る基盤を培うとともに、目的に応じた様々な種類の文章について解説し、それらを書くことができるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・日本語の基礎知識を身に付けるとともに、目的に応じた様々な種類の文章の書き方を説明する。 ・限られた字数の中で「保育者を目指す者としての意見文」を書く方法を理解し、実作する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業の達成課題、準備学習の内容、授業の進め方等について見通しを持つ。 ・「これまでの作文学習を振り返る」文章を書き、自分の文章表現力の現状を理解する。 ・200 字作文の意義及び次回のテーマと条件を理解し、実作する。(第 6 回まで)			・「これまでの作文学習を振り返る」文章を書く準備をする。(1 時間) ・200 字作文のテーマについて取材する。(30 分)		
2) 表現の基礎を理解する。その 1 ・印象のよい文章を書くために、表記と言葉づかいの基本を理解する。			・200 字作文のテーマについて取材する。(30 分) ・テキスト p.10~17 を読む。(30 分)		
3) 表現の基礎を理解する。その 1 ・たくさんの情報を整理し、見やすく示す方法を理解する。			・200 字作文のテーマについて取材する。(30 分) ・テキスト p.18~25 を読む。(30 分)		
4) 表現の基礎を理解する。その 1 ・重要な情報を確実に伝えるための効果的な方法を理解する。			・200 字作文のテーマについて取材する。(30 分) ・テキスト p.26~31 を読む。(30 分)		
5) 表現の基礎を理解する。その 1 ・メールや手紙の基本的な書式やマナーを理解し、作成する。			・200 字作文のテーマについて取材する。(30 分) ・テキスト p.32~37 を読む。(30 分)		
6) 表現の基礎を理解する。その 2 ・読みにくい文について、読みにくくなる理由を理解し、読みやすい文の書き方を理解する。			・200 字作文のテーマについて取材する。(30 分) ・テキスト p.40~45 を読む。(30 分)		
7) 表現の基礎を理解する。その 2 ・敬語の基本的な仕組み、場面や人に合った適切な表現方法を理解する。 ・「観察日記+俳句」の意義を理解し、実作する。(第 7. 8. 11~14 回)			・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30 分) ・テキスト p.46~51 を読む。(30 分)		
8) 表現の基礎を理解する。その 2 ・依頼のメールや手順の説明など、読んだ人がスムーズに行動できる文章の書き方を理解する。			・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30 分) ・テキスト p.52~59 を読む。(30 分)		
9) 表現の基礎を理解する。その 3 ・新聞記事の文章の書き方を理解する。 (地元新聞社記者による)			・朝刊 1 日分の新聞記事を読む。(2 時間)		
10) 表現の基礎を理解する。その 3 ・提出された「新聞記事」の文章について、よい点や改善点を理解する。 (地元新聞社記者による)			・新聞記事の書き方による文章を書く。(1 時間)		
11) 表現の基礎を理解する。その 3			・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子		

・分かりにくい文章の問題点を理解し、分かりやすい文章の書き方について理解する。	子、できごとについて取材する。(30 分) ・テキスト p.70~73 を読む。(30 分)
12) 表現の基礎を理解する。その 3 ・レポートや論文のような客観的な文章を書く際の決まりを理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30 分) ・テキスト p.74~79 を読む。(30 分)
13) 表現の基礎を理解する。その 3 ・就職活動における自己PRについて理解し、分かりやすく魅力的で、評価につながる自己PRの書き方を理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30 分) ・テキスト p.90~97,146~151 を読む。(1 時間)
14) 意見文の書き方を理解する。 ・学修のまとめとして、不特定多数の読者を対象にした、保育者を目指す者としての意見文の書き方を理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30 分)
15) 意見文の書き方を理解する。 ・学修のまとめとして、新聞社の投稿欄を想定した、保育者を目指す者としての意見文を書く。 ・「俳句鑑賞会」を行う。	・新聞社の投稿欄を想定して、保育者を目指す者としての考えをまとめる。(1 時間)
[使用テキスト] 野田春美他、『グループワークで日本語表現力アップ』,2016,ひつじ書房	
[参考文献] 田上貞一郎、『保育者になるための国語表現』,2010,萌文書林 沖森卓也・半沢幹一編、『日本語表現法』,2007,三省堂 金子泰子、『国語教師が教える二百字作文練習』,2018,溪水社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (50 %)	授業内容をまとめ、それに対する自らの考えや疑問、課題などを記述する。(各回提出)
②実技・作品発表等 (20 %)	・テーマと条件に沿った 200 字作文を書いたり、五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句を作る。(10%) ・「保育者を目指す」というテーマに沿って、題名を決め、構成を工夫してわかりやすく意見を述べる。(10%)
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (30 %)	示された課題について、客観的な文章の書き方に沿って 2,000 字程度のレポートを作成する。
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。 ・200 字作文や俳句について評価を毎回返却するとともに、授業内で解説したり、コメントしたりする。 ・紙芝居の発表に対して授業内でコメントする。 ・レポート試験について、評価規準に基づいた個別評価票を提出レポートとともに返却する。	
[備考] 各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-05

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 情報教育入門（機器操作を含む）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 野田 哲夫	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] コンピュータの基本知識とインターネットの利用、ワープロソフト（Microsoft Word）、表計算ソフト（Microsoft Excel）、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）の基本操作について学び、他の講義などにも必要なレポート・論文・プレゼンテーション資料の作成方法を習得します。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] コンピュータを使ってワープロソフト（Microsoft Word）、表計算ソフト（Microsoft Excel）、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）の基本操作と応用方法について学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] コンピュータの基本知識とインターネットの利用を中心とした情報リテラシーについて学んだ上で、 ・ ワープロソフト（Microsoft Word）を使った文書作成と編集、レポート作成 ・ 表計算ソフト（Microsoft Excel）を使った計算、グラフ作成、データベース作成・操作 ・ プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を使った発表方法 以上を総合的に活用してレポートや論文、プレゼン資料が作成できることを目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス・コンピュータの基礎知識 コンピュータの操作方法、および Windows の操作・ファイルシステム等を理解します。			コンピュータの起動 Windows の操作を行っておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
2) インターネットの基本操作、情報リテラシー インターネットの操作を通して、インターネットの仕組みと、ネット社会における情報リテラシーを学習します。			インターネット接続の準備をしておきましょう。 情報リテラシーの事前学習をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
3) ワープロソフトの応用、文書作成 Microsoft Word を使って簡単な文書作成を行います。			ワープロソフト（Microsoft Word）の起動確認、ローマ字入力の確認、入力練習をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
4) ワープロソフトの応用、文書編集 Microsoft Word を使って簡単な文書作成と編集を行います。			指定した文書の作成をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
5) 表計算ソフトの基本操作、式と関数 Microsoft Excel の基本操作を理解し、式の計算、および簡単な関数による算出を行います。			表計算ソフト（Microsoft Excel）の起動確認、計算練習、関数練習をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
6) 表計算ソフトの基本操作、グラフの作成 Microsoft Excel でデータを元にしたグラフ作成を行います。			グラフの元データ入力、準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
7) 表計算ソフトの応用、データベース Microsoft Excel を活用してデータベースの操作を行います。			データベースの元データ入力、準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
8) プレゼンテーションソフトの基本操作 Microsoft PowerPoint の基本操作を理解し、Word、Excel で作成したデータを活用して編集、発表資料の作成を行います。			プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）起動確認しておきましょう。 Word、Excel で作成したデータの準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
[使用テキスト] 『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office 2021 対応版』ISBN-13：978-4274229657					

[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 50%）	授業毎に課した課題の提出すること（Google Formを活用）。
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 50%）	インターネットリテラシー、Word, Excel, PowerPoint の基本操作の確認を問います。 Excel による計算、関数の理解と活用確認、グラフ作成とデータベース作成確認を問います。
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
授業毎に課題を課し、コメントを付けて返却する（Google Formを活用）。	
筆記試験については、答案を返却し間違えた箇所を指摘、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-07

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 英語		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 宮澤 文雄		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター	卒業必修
☐ 実務経験						
[授業の目的・ねらい] 現在、日本の保育園、幼稚園にはさまざまな国の子どもたちが在園しています。そのため保育の現場では、異なる文化背景を理解しながら、お互いの気持ちや考えを伝えあうことが必要になる場面があります。この授業では、保育者に必要な英語とその学習方法を学ぶとともに、英語で書かれた様々な物語の読解を通じて異文化理解を深めてゆきます。						主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 授業では「英語の学習法」「異文化理解」「保育英語」を学びます。最初の「英語の学習法」では、多読・多聴を通じて英語の習得法を実践的に学びます。つぎの「異文化理解」では、英語で書かれた絵本や物語に親しみながら、そこに描かれる異文化について理解を深めます。さいごの「保育英語」では、国際化の進む幼児教育・保育の現場に必要な英語表現について、資格試験の受験を想定しながら学びます。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1) 多読・多聴という英語学習法を理解し、実践できる 2) 平易な英語の文章が読め、基本的な英文法を説明できる 3) 幼保英検の入門的な内容に対応し、問題を解くことができる						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：外国語を学ぶことについて考える						
2) 多読・多聴という学習法を知る 1						
3) 多読・多聴という学習法を知る 2				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
4) 英語で「絵本」を読む 1						
5) 英語で「絵本」を読む 2				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
6) 英語で「絵本」を読む 3						
7) 英語で「絵本」を読む 4				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
8) 英語で「民話」を読む 1						
9) 英語で「民話」を読む 2				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
10) 英語で「民話」を読む 3				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
11) 学びの振り返り、幼保英検について						
12) 幼保英検：リーディング・パートの解説 1						
13) 幼保英検：リーディング・パートの解説 2				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
14) 幼保英検：リスニング・パートの解説				前回までの授業内容を振り返っておく（20 分）		
15) 授業のまとめ						
[使用テキスト] プリントを配布します。						
[参考文献] 幼児教育・保育英語検定協会『幼保英検テキスト』（ブックフォレ）。英検のように 1 級～5 級まであります。まずは初級レベルの 4 級、3 級を参考にするとよいでしょう。その他については授業で適宜紹介します。						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（50％）		授業時の小レポートなどの提出物によって成績評価を行います。				
②実技・作品発表等（ ％）						
【定期試験】						
①筆記試験（50％）		筆記による試験で成績評価を行います。				

②レポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出された課題については次回以降の授業で講評します。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-09

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 体育（講義）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 須崎 康臣	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会人としての知識・教養を獲得するため、スポーツの科学的知見について理解し、それに基づき実践できるようになる。					主に対応するD P 4
[授業全体の内容の概要] スポーツ科学における各領域について、科学的知見に基づき講義形式で実施する					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] スポーツの実施や指導を行うために必要な基礎的な知識について理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
1) オリエンテーション、スポーツと心理学Ⅰ 心理学の側面から、運動が心や体に及ぼす効果についての講義					
2) スポーツと心理学Ⅱ 運動が上手になるといったメカニズムを理解するために運動技能の構造と運動学習について講義					
3) スポーツと心理学Ⅲ 運動を継続するという観点から、そのメカニズムと、継続を促すための方法について講義					
4) スポーツと心理学Ⅳ 運動に対する動機づけの理論の紹介と動機づけを促すための指導方法について講義					
5) 遊びとしての運動とその指導 遊びとしての運動の重要性と、遊びのための運動指導について講義					
6) スポーツを安全に行うために スポーツの実施や指導を行う際に、活動中に多いケガや病気とケガをしたさいの救急処置と、暑熱環境が身体に及ぼす影響について講義					
7) ウェイトコントロールにおける食事と運動の意義 適切なウェイトコントロールを行うために肥満、エネルギー消費、運動強度に関する講義					
8) 運動発達 発育発達における運動機能について紹介を行い、保育者と園環境が子どもの運動機能に及ぼす影響に関する講義					
[使用テキスト] 教員より適宜、資料を配布する					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（60％）		講義終了時に行う、振り返りのための小テストから評価します			
②実技・作品発表等（　％）					
【定期試験】					
①筆記試験（40％）		筆記による試験を行います			
②レポート（　％）					
③実技試験（　％）					
④面接試験（　％）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 到達度の確認は、小テスト後に正当回答を説明する。筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-10

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 体育（実技）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実技		授業担当者 須崎 康臣	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 文化・芸術・人間性、感性と表現力を身につけるため、運動技能が向上できるようにする。また、社会人としての知識・教養を獲得するため、スポーツの特性やルールについて理解し、それに基づき実践できるようにする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 段階的な授業計画に基づいて、ソフトバレーボール、バスケットボール、バドミントンといった各スポーツの実技指導を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 各スポーツにおける特性とルールを理解できる。また、各スポーツの技能が向上し、ゲームを行うことができる。また、他者との協力を通して活動ができる態度を有している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション・ソフトバレーボール（グループ分け・キャッチゲーム）			ソフトバレーボールのルールについて調べる。15 分間		
2) ソフトバレーボール（グループ分け・ボール操作・キャッチゲーム・ゲーム）			ソフトバレーボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
3) ソフトバレーボール（グループ分け・ボール操作・サーブ・ゲーム）			ソフトバレーボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
4) ソフトバレーボール（グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム）			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
5) ソフトバレーボール（グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム）			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
6) ソフトバレーボール（グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム）			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
7) ソフトバレーボール（グループ分け・実技テスト・ゲーム）			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
8) バスケットボール（グループ分け・ドリブル・パス・シュート練習・ゲーム）			バスケットボールのルールについて調べる。15 分間		
9) バスケットボール（グループ分け・ドリブル・パス・シュート練習・ゲーム）			バスケットボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
10) バドミントン（グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム）			バドミンントンのルールについて調べる。15 分間		
11) バドミントン（グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム）			バドミンントンのルールについて調べる。15 分間		
12) バドミントン（グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム）			バドミンントンに必要な個人技術について調べる。15 分間		
13) バドミントン（グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム）			バドミンントンに必要な個人技術について調べる。15 分間		
14) バドミントン（グループ分け・ラケット操作・フットワーク・ダブルスゲーム）			バドミンントンに必要なペア技術について調べる。15 分間		
15) バドミントン（グループ分け・実技テスト・ダブルスゲーム）			バドミンントンに必要なペア技術について調べる。15 分間		
[使用テキスト] 教員より適宜、資料を配布する					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（８０％）	授業における振り返りの量と質から評価
②実技・作品発表等（２０％）	ソフトバレーボールとバドミントンの運動技能に関する実技テストで評価
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実技テスト時に結果を伝える．振り返りは用紙を返却する．	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-11

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 心理学概論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 心理学の諸領域に関わる基本的な理論や考え方を学ぶことを目的とする。日常生活における様々な実践に必要な観察力や判断力の基礎となる知識を身に付ける。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 基本的に講義形式で授業をおこなうが、体験的な学習を含めることで知識の定着を図る。小テストをおこない、知識の定着を確認しながら進める。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 1. 心理学の基礎知識を用いて、日常生活の様々な現象を推論することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション					
2) 感覚と知覚					
3) 記憶					
4) 学習理論と認知理論					
5) 条件付けと行動の随伴性					
6) 小テスト（第2回～第5回）と解説			第2回～第5回の内容を振り返る（2時間）。		
7) 社会行動					
8) 思考と言語					
9) 感情					
10) 意欲と動機づけ					
11) 小テスト（第7回～第10回）と解説			第7回～第10回の内容を振り返る（2時間）。		
12) 人間の欲求					
13) 自己					
14) 適応と不安					
15) 小テスト（第11回～第14回）と解説			第11回～第14回の内容を振り返る（2時間）。		
[使用テキスト]					
[参考文献] 東洋ら（編），『心理用語の基礎知識』，2003，有斐閣ブックス。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）		計3回の小テストによって評価する。			
②実技・作品発表等（ ）%					
【定期試験】					
①筆記試験（ ）%					
②レポート（ ）%					
③実技試験（ ）%					
④面接試験（ ）%					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 小テストの解説を第6回、第11回、第15回におこなう。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-02

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 福祉・教育の分野で求められる基礎的なコミュニケーションを理解し、説明できるようになる。また、集団の中で必要となるコミュニケーションスキルを身に付け、実践できる力を身に付ける。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 自己理解を基礎とし、他者や集団が自分に与える影響を心理的な観点から講義・演習をおこなう。小グループによるグループワークから講義の内容を、演習を通して体験的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 多面的な自己理解により、自分の感情や考えを率直に表現できる。 2. 日常生活や実習等で、実際のコミュニケーションに活用できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) コミュニケーションとは何か。			自己紹介の内容を考えておく（0.5 時間）。		
2) 自分を知ることとコミュニケーション					
3) 他者から見た“自分”と自分から見た“自分”					
4) 非言語コミュニケーションの活用			自分のコミュニケーションの取り方を意識的に振り返る（1 時間）。		
5) 集団での学び合いと対話					
6) 集団が個人に与える影響					
7) 集団維持とコミュニケーション					
8) 授業の振り返りとまとめ					
[使用テキスト]					
[参考文献] 後藤宗理，『保育現場のコミュニケーション－発達心理学的アプローチ－』，2008，あいり出版。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）		第8回で作成する課題レポートで評価します。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] レポート課題にコメントつけて返却します。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-08

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育原理		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 深見 俊崇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーに掲げられる「専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる」「社会のあり方について考える・実践する」を踏まえ、保育の基本原則や保育の意義を理解し、説明できるようになることをねらいとする。そのために、子どもの発達、保育の歴史的変遷や現代的課題、保育者の役割や保育所保育の全体像について学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育の目的・目標、保育者の役割や子どもの発達を確認した上で、保育の方法や環境構成、指導計画の重要性について事例を挙げながら理解を深めていく。そして、保育における歴史的変遷を整理したり保育における現代的課題を検討したりすることで、望ましい保育とは何かについて受講者に考えてもらいたい。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 保育の意義とその必要性を説明できる。 2. 保育所・幼稚園・認定こども園の役割、そこで勤務する保育者の役割を説明できる。 3. 保育における歴史的変遷と現代的課題について説明できる。 4. 講義内容を踏まえて、目指すべき保育実践のイメージを形成し、それを言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育を捉える視点と意義【グループワーク】			予習（テキスト第1章）（1時間程度）		
2) 子どもの発達の理解			予習（テキスト第2章）（1時間程度）		
3) 保育の方法【ディスカッション】			予習（テキスト第6章）（1時間程度）		
4) 保育の環境			予習（テキスト第7章）（1時間程度）		
5) 保育における計画の必要性（教育課程・保育課程と指導計画） 【グループワーク】			予習（テキスト第8章）（1時間程度）		
6) 保育士の専門性			予習（テキスト第9章）（1時間程度）		
7) 保育者の専門性（専門性向上のための研修、職員間の連携） 【ディスカッション】			予習（テキスト122-125, 141-145, 159-162） （1時間程度）		
8) 保育者の専門性（園内外との連携）【ディスカッション】			予習（専門機関との連携に関する資料） （1時間程度）		
9) 保育における歴史的変遷（欧米）			予習（テキスト32-41）（1時間程度）		
10) 保育における歴史的変遷（戦前）			予習（テキスト41-43, 48-50, 63-67） （1時間程度）		
11) 保育における歴史的変遷（戦後）			予習（テキスト50-59, 67-77）（1時間程度）		
12) 幼保一体化と新システム【ディスカッション】			予習（テキスト44-46, 77-78, 151-153） （1時間程度）		
13) 保育における現代的課題（地域の子育て支援）【ディスカッション】			予習（小規模保育に関する資料） （1時間程度）		
14) 保育における現代的課題（働き方と保育のあり方） 【ディスカッション】			予習（テキスト第10章）（1時間程度）		
15) これから求められる保育を考える			これまでの授業の復習（1時間程度）		
[使用テキスト] 民秋言・河野梨津子編著『保育原理【新版】』北大路書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館					
[参考文献] 『保育小事典』大月書店					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40％）	授業中のワーク，振り返り，オンライン小テスト
②実技・作品発表等（　　％）	
【定期試験】	
①筆記試験（60％）	筆記による試験
②レポート（　　％）	
③実技試験（　　％）	
④面接試験（　　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回のコメントをまとめたプリントを配布し、解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-12

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教育原理		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 塩津 英樹	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 子供の最善の利益を尊重し、教育・保育・子供に関する専門的な知識を身につけ、実践できる。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] ①教育の意義と本質、②教育と子供の福祉、③教育を成立させる諸要因、④教育の思想と歴史、⑤現代社会における教育課題などについて講義する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 教育の意義と本質について自らの考えを深め、歴史的な視点から教育および学校の営みを捉えることで、教育の歴史、教育家の思想、近代教育制度の成立と展開、現代社会における教育課題など、教育に関する専門的な知識を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション -教育学の基礎概念-			教科書（8-21 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
2) 教育の意義と本質（1）-教育の定義と目的-			教科書（22-28 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
3) 教育の意義と本質（2）-乳幼児期における教育の目的-			教科書（29-35 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
4) 教育と子供の福祉 -子供の権利を中心に-			教科書（38-45 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
5) 教育を成立させる諸要因（1）-子供・家庭-（グループワークを含む）					
6) 教育を成立させる諸要因（2）-教員・学校-（グループワークを含む）					
7) 近代教育制度の成立と展開 -公教育を中心に-			教科書（88-108 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
8) 教育の歴史（1）-古代から中世までの歴史を中心に-			教科書（56-85 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
9) 教育の歴史（2）-近代から現代までの歴史を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。（30分間）		
10) 教育家の思想（1）-ロック、ルソーの思想を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。（30分間）		
11) 教育家の思想（2）-ペスタロッチー・フレーベルの思想を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。（30分間）		
12) 現代社会における教育課題（1）-不登校・いじめ問題を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。（30分間）		
13) 現代社会における教育課題（2）-グローバル化と異文化理解-			教科書（178-184 頁）を読み予習を行う。 （30分間）		
14) 現代社会における教育課題（3）-社会参画と教育-					
15) 現代社会における教育課題（4）-自己実現と職業生活-					
[使用テキスト] 『最新 保育士養成講座』総括編集委員会編『第2巻 教育原理』全国社会福祉協議会、2019 年。					
[参考文献] 講義の中で、適宜紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					

②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆 記 試 験（１００%）	
②レ ポ ー ト（ %）	
③実 技 試 験（ %）	
④面 接 試 験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
提出された課題について、次回の講義冒頭時に解説し、フィードバックを行う。	
[備考] 双方向による授業を行うとともに、グループワークを取り入れた対話的な学びを実現する。 受講にあたっては、遅刻や私語等は厳に謹んでください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-13

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 発達心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 藤 翔平	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 発達心理学の理論や知見を学び、子どもの心身の発達に応じた保育・教育について理解できるようになる。 また、発達障害について学ぶことを通して、特別なニーズのある子どもの保育・教育についても考察できるようになる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期を中心に、子どもが発達する過程について様々な理論や知見を紹介しながら説明する。 また、発達障害についても、乳幼児期で注意すべき点を踏まえながら、求められる保育について解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 乳幼児期の子どもの発達に関して、多様な理論や知見を基に解釈し、説明することができる。 2. 発達障害など特別なニーズのある子どもに関する知識を身に付け、具体的な支援を考察できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 発達心理学とは					
2) 遺伝と環境				授業後、コメントシートを作成する。(4時間程度)	
3) 発達心理学の理論				同上	
4) 乳児期の社会性の発達				同上	
5) 乳児期の認知発達				同上	
6) 幼児期の社会性の発達				同上	
7) 幼児期の認知発達				同上	
8) 遊び				同上	
9) 児童期への接続				同上	
10) 発達障害への理解				同上	
11) 発達障害への対応				同上	
12) 虐待・マルトリートメント				同上	
13) 現代の保育が抱える問題				同上	
14) まとめ				試験勉強を行う。(4時間程度)	
15) 授業内試験					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 必要に応じて資料を配布します					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)		各授業の後に提出するコメントシート (40%) と 15 回目の授業で行う論述試験 (60%) の結果を基に評価する。			
②実技・作品発表等 () %					
【定期試験】					
①筆記試験 () %					
②レポート () %					
③実技試験 () %					
④面接試験 () %					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

コメントの内容について、次回授業時に紹介する形で行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-22

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
保育内容(総論)		演習		舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
		卒業必修			
☒ 実務経験	元保育士の経験から、保育内容について実践的にお伝えします。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
保育所・幼稚園・認定こども園における保育内容を総合的に理解し、5 領域の内容を関連づけて保育の計画から実践を展開することのできる基礎を身に付ける。					1
[授業全体の内容の概要]					
・保育内容の構造について学ぶとともに、現場で保育にあたるゲストスピーカーによる講話を通して様々な保育の形態や子ども理解のための保育者の姿勢を知る。					
・5 領域から保育のねらいや内容に関わる視点を持ち、保育環境について模擬保育に向けたグループワークを通して検討を重ねる。					
・実際に保育の計画と実践を行い、それらを総合的に振り返ることで保育内容総論の学びを得る。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
・保育内容の構造について 5 領域の視点から総合的に学ぶとともに、ゲストスピーカーの講話を通して多様な保育や保育者の姿勢についての理解を深める。					
・グループワークを通して互いに意見を出し合うことで、保育方法について多角的な視点を持つ。					
・指導案作成と模擬保育から、保育内容について総合的な視点を持って保育を捉えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ガイダンス ・保育所保育指針解説 「保育の方法及び 5 領域」 ・子どもの育ちを支える保育環境と子ども観・遊び観・保育観 ・環境構成のポイント「子どもの発達・興味や関心・自発性」			保育所保育指針解説の指定された箇所について内容をまとめたり、コーナー保育の教材を考えたりし、期限までに提出すること。 (1 h)		
2) 保育の連続性と保育活動の展開 *ゲストスピーカー ・子どもを主体とし、環境を通して育てるプロジェクト保育のあり方について理解する。			ゲストスピーカーの講話を聴き、期限までにレポートを提出すること。(1 h)		
3) コーナー保育の指導案作成 (グループワーク) ・「予想される子どもの活動」と「学生の援助」を考え、コーナー保育の指導案を立案する。			指導案が授業内に完成しなかった場合は、グループ全体で期限までに作成し、提出すること。(1～2 h)		
4) 指導案修正及び教材研究・模擬保育の事前準備 (グループワーク) ・立案した指導案を基に、役割を分担し模擬保育の準備を行う。			教材の準備が授業内にできなかった場合は、グループ全体で期限までに準備すること。 (1～2 h)		
5) 教材研究・模擬保育に向けた事前準備 (グループワーク) ・立案した指導案を基に、模擬保育の環境を構成する。					
6) 指導案に基づく模擬保育 (グループワーク) ・外部施設の 4・5 歳児を招き、実践的に学ぶ。			前日夕方に履修者全体で環境を設定し、最終チェックを行います。(1. 5 h)		
7) 作成した指導案に基づく模擬保育の記録 (グループワーク) ・実践した内容を基に、保育マップ型記録を作成する。					
8) 模擬保育の実践及び記録と環境の再構成 (ディスカッション) ・模擬保育についてグループごとに振り返り、環境の再構成について話し合い、グループ別に発表する。					
[使用テキスト]					
・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館					
・高山静子『学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～』小学館					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 85 %）	第 1 回保育所保育指針のまとめ・教材の考案（15%），第 2 回ゲストスピーカーの講話からの気づきレポート（10%），第 3 回指導案の提出および内容と修正（20%），第 4・5 回振り返り（各 5%）第 6 回模擬保育の振り返り（15%），第 7 回模擬保育の記録（15%）を				

	総合的に評価します。
③実技・作品発表等（15%）	第8回環境の再構成
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・コーナー保育の指導案作成は教員の添削によりグループ別に指導を行う。 ・模擬保育は第7, 8回においてコメントをする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-38

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 表現技術Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈 （オムニバス）		
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター	卒業必修
☑ 実務経験	元保育士の観点から、幼児の表現活動における保育の実際や実践について伝えます。（増原）					
[授業の目的・ねらい] 手袋人形の製作と製作した手袋人形を用いた発表を通して、保育における表現技術を習得する。学習の成果は実習の機会に活用することを期待する。						主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育活動をする想定で2種類の手袋人形を製作する。アイテムを用いた練習を経て、発表する。発表後には振り返りをする。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①2種類の手袋人形と発表に必要な小物を製作することができる。 ②保育活動を想定して、手袋人形を用いた発表をすることができる。 ③製作活動と発表を振り返り、自己課題を明らかにし、課題解決を図ることができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 製作①：手袋人形「ことりん」を製作する。【主：増原、副：加藤】				授業時間内にできない場合は課外で作成する。（1時間）		
2) 製作②：手袋人形「ことりん」を用いた表現の練習を行う。【主：増原、副：加藤】				授業時間内にできない場合は課外で作成する。（1時間）		
3) 発表①〈グループ〉：グループに分かれ発表をする。【加藤、増原、長島】				発表の練習をする。（1時間）		
4) 製作③：手袋人形「指ぶた」または「花と葉っぱ」を製作する。【加藤】				予定通りに進まなかった場合は、課外で製作を進める。（1時間）		
5) 製作④：手袋人形「指ぶた」または「花と葉っぱ」を完成させる。【加藤】				授業時間内に完成しなかった場合は課外で製作し、次の発表までに完成させる。（1時間）		
6) 発表の準備〈グループ〉：各自発表の練習をする。発表に必要な小物があれば加えて製作する。【主：増原、副：加藤】				小物の製作が間に合わなければ、課外で製作し、次の発表までに完成させる。（1時間）		
7) 発表②〈グループ〉：グループに分かれて発表をする。【加藤、増原、長島】				事前に発表の練習をする。練習後、フィードバックを踏まえて、本番の練習をする。（1時間）		
8) 振り返り：活動を振り返り、ワークシートを記述する。【増原】						
[使用テキスト] なし						
[参考文献] なし						
[試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】						
①到達度の確認（75%）		作品（50%） 振り返りのワークシート（25%）				
②実技・作品発表等（25%）		発表（第3回10%、第7回15%）				
【定期試験】						
①筆記試験（%）						
②レポート（%）						
③実技試験（%）						
④面接試験（%）						
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	発表後に各教員からコメントする。
[備考]	材料費あり

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-40-56

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 表現技術Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤友彦・長島佳奈・増原真緒	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、造形表現、音楽表現、身体表現、言語表現を総合した表現を構想し、構想にもとづいて製作および制作し、発表したり鑑賞したりすることを通して表現技術を習得することを目的とする。					主に対応するD P 4
[授業全体の内容の概要] 第1回から7回まではペープサートの製作・発表・鑑賞を行い、第8回から15回までは壁面構成の制作・展示・鑑賞を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ① ペープサート、壁面構成それぞれの表現の特性に応じた主題を考え、主題に応じた内容を構想することができる。 ②-1 表現材料の特性に応じて絵人形を製作することができる。（ペープサート） ②-2 絵人形の動かし方や音楽・歌の表現の練習を通して、表現の向上を図ることができる。（ペープサート） ②-3 造形表現材料や造形表現技法の特性を活かして制作し、空間に応じて展示できる。（壁面構成） ③ 他者に伝わるように発表することができる。（ペープサート） ④ 発表の振り返りや鑑賞を通して、自分自身の表現技術を確認し他者の発想や表現のよさを感じ取ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 ペープサート①〈グループ活動〉／構想①：グループを編成し、「子どもの歌」の主題を決定する。歌に即したペープサートの展開内容やセリフを考え、ワークシートにまとめる。【長島】					
2) ペープサート②〈グループ活動〉／製作①：主題に応じた絵人形を決定し、製作する。【加藤】				第1回のワークシートが完成しなかった場合は指定期日までに提出すること（1時間～2時間）	
3) ペープサート③〈グループ活動〉／製作②：主題に応じた絵人形を製作する。【加藤】				授業時間内に絵人形の完成の見通しが立たない場合は、課外で製作する。（1時間～2時間）	
4) ペープサート④〈グループ活動〉 製作③：主題に応じた絵人形を完成させる。【加藤】 構想②：絵人形の具体的な動かし方を考え、ワークシートに追記する。【長島】				授業時間内に絵人形が完成しなかった場合は、課外で作成・製作し、完成させる。（1時間～2時間）	
5) ペープサート⑤〈グループ活動〉／発表の準備：発表に向けて、練習をして、絵人形の動き、音楽や声の表現を合わせ、よりよい表現を目指す。改善点があれば適宜、修正を施す。【増原、長島】				授業時間内での準備が不十分の場合は、課外で練習し、発表に備える。（1時間～2時間）	
6) ペープサート⑥〈グループ活動〉／発表：グループで発表をする。発表者以外は鑑賞をする。【加藤、長島、増原】 ※発表のフィードバック／授業担当全教員					
7) ペープサート⑦〈グループ活動〉／振り返りとまとめ：発表の動画を鑑賞し、気づいたことや感じたことなどをワークシートにまとめる。【長島】					
8) 壁面構成①〈グループ活動〉／構想①：グループを編成し、主題と展示空間を考える。【加藤】				事前にグループを編成し、役割分担を決めておく。（1時間） 授業時間内に主題が決定しなかった場合は、次回までに話し合って決定しておく。（1時間～2時間）	
9) 壁面構成②〈グループ活動〉／構想②：主題を決定し、主題にもとづき、表現の構想を練る。表現の構想にもとづき、制作に必要な用具や材				授業時間内に構想がまとまらなかった場合は、次回までに話し合って決定しておく。（1	

料の準備をする。【加藤】		時間～2 時間)
10) 壁面構成③〈グループ活動〉／構想③：表現の構想にもとづき、試作をする。【加藤】		
11) 壁面構成④〈グループ活動〉／制作①：表現の構想にもとづき制作する。描画材や接着に乾燥が必要な制作はこの時間に行う。【加藤】		授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で制作する。（1 時間～2 時間）
12) 壁面構成⑤〈グループ活動〉／制作②：表現の構想にもとづき制作を継続する。【加藤】		
13) 壁面構成⑥〈グループ活動〉／制作③：表現の構想にもとづき制作を継続し、この時間ですべての展示物を完成させる。【加藤】		授業時間内に展示物が完成しなかった場合は課外で制作し、次回まで完成させる。（1 時間～2 時間）
14) 壁面構成⑦〈グループ活動〉／展示：表現の構想にもとづき、学内空間に展示する。【加藤】		授業時間内に展示できなかった場合は課外で展示する。（1 時間～2 時間）
15) 壁面構成⑧〈グループ活動〉／鑑賞と振り返り：展示された壁面構成を鑑賞する。鑑賞したことを話し合い気づいたことや感じたことなどをワークシートにまとめる。【加藤】		
[使用テキスト]		
なし		
[参考文献]		
なし		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認（ 90%）	ペープサートのワークシート（20% 第1回、4回、7回） 壁面構成のワークシート（10% 第15回） 絵人形（10%） 壁面構成（50%）	
②実技・作品発表等（ 10%）	ペープサートの発表（10%）	
【定期試験】		
①筆記試験（ %）		
②レポート（ %）		
③実技試験（ %）		
④面接試験（ %）		
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法]		
ペープサートはリハーサルと発表後、壁面構成は鑑賞の際にそれぞれコメントする。		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-40-57

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅰa（理論・声楽）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 長島 佳奈		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター	卒業必修
☐ 実務経験						
[授業の目的・ねらい] 楽譜を読むことができるようになるために、楽譜の理解に必要な基礎的な音楽理論を習得することを目指すとする。また、子どもの遊びとその心を豊かに発展させるために、子どもたちにとって身近な「歌」に着目し、歌唱をととした音楽表現力を養うことも目的とする。具体的には、子どもの歌から広げることのできるリズム遊び、楽器遊び、身体遊びなど「音楽遊び」に発展することのできる力を養う。さらに、手遊び歌についても学修する。						主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 読譜に必要な基礎的な音楽理論について講義する。また、子どもの歌の世界観が広がる教材の取り入れ方や、各々の子どもの歌に合う声色や表情について、教員が実践しながら説明する。さらに、子どもの歌をもとにしたリズム遊びや楽器遊びの展開法について講義と学生自身の実践を交えながらすすめていく。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・読譜のための基礎的な音楽理論や用語などを説明することができるとともに、歌唱やリズム奏をとおしてその知識と実践を結び付けることができる。 ・それぞれの子どもの歌の歌詞の内容を把握し、それに相応しい声色と表情をつけることができる。 ・子どもの歌から「音楽遊び」に発展する方法を理解することができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 音楽理論①：五線、音部記号、音名、臨時記号、音符の長さ/ 子どもの歌のもつ性格について						
2) 音楽理論②：休符の長さ、付点音符、連符、小節、演奏順序/声楽①				学習した箇所および配布プリント等の内容について再確認すること。（30分～1時間）		
3) 音楽理論③：到達度確認小テスト①、拍と拍子、拍子記号、リズム/ 声楽②				〃		
4) 音楽理論④：音程、全音と半音、強弱記号、アーティキュレーション/ 声楽③				〃		
5) 到達度確認小テスト② /声楽④				〃		
6) 音楽理論⑤：音階と調、発想標語、装飾音/ 歌唱教材を用いたリズムづくり①				〃		
7) 音楽理論⑥：奏法/歌唱教材を用いたリズムづくり②				第 8 回目の発表会に向けてグループで練習しておくこと（30分～1時間）		
8) 発表会（グループ発表）				〃		
[使用テキスト] 『子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ』 萌文書林 『こどものうた 100』 チャイルド社						
[参考文献]						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ 50%）		到達度確認小テスト①（20%）、到達度確認小テスト②（30%）				
②実技・作品発表等（ 50%）		グループ発表（40%）、発表の課題提出（10%）				
【定期試験】						
①筆 記 試 験（ %）						
②レ ポ ー ト（ %）						
③実 技 試 験（ %）						
④面 接 試 験（ %）						

平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
確認テストについて、解説を行う。また、グループ発表後にフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-77

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
音楽Ⅱa（器楽）		演習		長島 佳奈	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
卒業必修					
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
子どもの豊かな感性と表現力を引き出すために、幼稚園教員や保育者として身につけておくべき基礎的なピアノ技術を習得することを目的とする。					4
[授業全体の内容の概要]					
習熟度に応じた個別レッスンを展開する。『バイエル』にてピアノの基礎技術の習得を図りながら、歌唱共通教材や『こどものうた』等で扱われるような曲の弾き歌いのレッスンを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
ピアノの基礎技術を習得し、ピアノ曲や弾き歌いを演奏することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション/ピアノレッスングループ分け					
2) バイエル 3～11/4～6 月の歌の伴奏			事前に指定される課題について、授業時間外で十分に練習を行ったうえで授業に臨むこと。また、練習状況を記録し、自分の状況を自覚しながら学習を進めること。（1～3 時間）		
3) バイエル 12～18/4～6 月の歌の弾き歌い			〃		
4) バイエル 19～25/7～9 月の歌の伴奏			〃		
5) バイエル 26～28/7～9 月の歌の弾き歌い			〃		
6) バイエル 29～31/10～12 月の歌の伴奏			〃		
7) バイエル 32～34/10～12 月の歌の弾き歌い			〃		
8) 中間発表会（ピアノ曲と弾き歌い） 担当教員による講評および受講生同士の振り返り					
9) バイエル 35～37/1～3 月の歌の伴奏			〃		
10) バイエル 38～40/1～3 月の歌の弾き歌い			〃		
11) バイエル 41～44/通年の歌の伴奏			〃		
12) バイエル 45～46/通年の歌の弾き歌い			〃		
13) バイエル 47～50/生活の歌の伴奏と弾き歌い			〃		
14) 発表会に向けての仕上げ			〃		
15) 発表会			〃		
[使用テキスト]					
『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版					
『こどものうた 100』チャイルド社					
『こどものうた 200』チャイルド社					
適宜、個人の習熟度に合わせて様々なテキストを薦める。					
[参考文献]					
『ブルグミュラー25 の練習曲集』全音楽譜出版社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ 100%）		中間発表会(40%)、発表会（60%）で評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					

④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。発表会では講評および振り返りを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-78

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教育課程論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 小山 優子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育の実践上、必ず理解しておかなければならない、保育の全体計画である教育課程の編成意義とその内容を知り、それに基づいて指導計画におおしていく視点を身につける。指導計画については、年間計画・期間計画・月案などの長期的な指導計画や、週案・日案などの短期的な指導計画などの種類を理解した上で、保育実習・教育実習において学生自身が立案する部分指導案や日案の書き方を知り、自分なりに書いてみるができることが授業のねらいである。また、計画、実践、評価の過程を通して、カリキュラム・マネジメントの方法を理解することを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所・幼稚園・認定こども園における教育課程や全体的な計画、指導計画について理解し、計画と評価について学ぶ。保育のカリキュラムの基本となる教育課程と指導計画の関係性を理解した上で指導計画の立案の意義や書き方について学ぶ。特に、指導計画については、短期的な部分指導案や日案、週案、月案についての書き方やその意義を具体的に理解し、指導計画作成の技能も身につける。また、指導計画の立案と記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 教育課程の意義及び編成方法に関する理解を深め、幼稚園教育要領・保育所保育指針の位置づけや変遷、特徴を説明できる。 (2) 幼稚園・保育所における教育課程・全体的な計画の具体的展開を知り、授業開発や保育の展開を想定した指導計画の作成の視点を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 教育課程・全体的な計画とは、教育課程編成の意義					
2) 教育目的・教育目標・教育方法と教育課程編成					
3) 幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程・全体的な計画の編成方法					
4) 指導計画の作成の意義、指導計画の作成方法					
5) 幼稚園・保育所における長期的な指導計画（月案・期間計画・年間計画）					
6) 幼稚園・保育所における短期的な指導計画（部分指導案・日案・週案）					
7) 実習日誌・保育日誌・実践記録の書き方、保育記録の運用					
8) 教育課程・指導計画の評価とカリキュラム・マネジメント				(事後学習)1～8 回の授業中に視聴した DVD について、ワークシートの「まとめ」に自分の感想や意見を記述する(約 30 分)。	
[使用テキスト] 北野幸子・小山(小野)優子『乳幼児カリキュラム論』建帛社 2010 年 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』					
[参考文献] 参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ 70 %）		筆記による試験を行う。			
②レポート（ 30 %）		授業終了後に期日をもうけ、指定された場所へレポートを提出する。			
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			

[フィードバックの方法]	筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-31

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教育実習指導Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター 幼免必修
☒ 実務経験	保育者として勤務した経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。				
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えや表現技術を身につける。 ・実習日誌の記録から、子どもの姿の理解や保育の計画への繋がりについて説明できるようになる。 ・指導案の作成方法を知り立案に活かすことができるようになる。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習への課題や達成方法を明確にする。 ② 学んだ保育技術を参考に、グループで指導案を作成し、実践する。 ③ 立案した指導案から新たな課題を見つけ、改善する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ・幼稚園実習の意義や目的、内容について説明できる。 ・幼稚園教育において育みたい子どもの姿を理解し、子どもの主体的な生活や学びが実現できるよう、指導場面を想定した保育方法を実践できる。 ・実践した指導案を基に、改善する方法について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 幼稚園実習ガイダンス ・幼稚園実習の意義と目的、実習の時期と内容を理解する。 ・幼稚園教育要領解説を基に、幼稚園や幼稚園教諭の社会的役割を理解する。				・これまでの実習や講義・演習等を振り返り、子どもの興味や関心・発達過程と関連付けた保育実践について調べ準備しておくこと(2-3時間)。 ・保育者としてはもちろん、社会人として必要な態度を身に付けていくことを求めます。	
2) 環境を通して行う教育と幼児の自発的な遊び ・実習日誌から環境と生活・遊びのつながりや幼稚園教諭の役割を考える。					
3) 子ども理解から始まる保育の方法 ・実習日誌から、「子どもの姿」を捉える。 ・指導案作成について学び、立案のポイントを理解する。					
4) マジックシアターとスリーヒントクイズ ・作成したマジックシアターに合わせ、スリーヒントクイズを作成する。					
5) マジックシアターとスリーヒントクイズを用いた指導案（グループワーク） ・子どもを惹きつける表現方法や応答的な関わりについて学び、手立てを考える。 ・グループ内で役割分担について話し合い、実践場面を想定し練習する。				・「マジックシアター」を期日内に作成して下さい。（1時間）。	
6) 指導案による実践①（フィールドワーク） ・外部施設で、作成した指導案を用い子ども集団と言葉のやり取りを実践する。 ・外部施設で子どもたちと実践的に関わり、気づいたことを話し合う。					
7) 指導案による実践②（ディスカッション） ・実践した内容を基に、個々に省察しグループ内で話し合う。					
8) 実習に向けて「個人票」と「実習課題と取り組み」を作成する。 ・「個人票」と「実習課題と取り組み」の作成方法について学ぶ。 ・「実習課題と取り組み」を作成することで自分の課題を整理する。				・「個人票」と「実習課題と取り組み」を作成し、期日までに提出して下さい。（1～2時間）	
[使用テキスト] ・実習ガイドブック 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 実習運営委員会 ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（70%）	保育者の役割（10%）・幼稚園教育の役割と環境（10%）・実習日誌ワークシート（10%） 生活と遊びワークシート（10%）・フィールドワーク振り返り（10%）・個人票（10%）・ 実習の課題と取り組み（10%）				
②実技・作品発表等（30%）	マジックシアター・スリーヒントクイズ（20%）・実習指導案（10%）				
【定期試験】					

①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、添削したりすることで、フィードバックを行う。	
[備考]	
・「幼稚園実習」を履修するためには、「教育実習指導Ⅰ」「教育実習指導Ⅱ」を履修することが必要です。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-63

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭福祉			授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義			授業担当者 藤原 映久・高橋 憲二 (オムニバス)		
授業の回数 15 回		時間数(単位数) 2 単位		配当 1 セメスター		資格必修		
☑ 実務経験		過去に 15 年間児童相談所で勤務、現在は小児科でカウンセリングに従事（藤原）						
[授業の目的・ねらい] 子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる基本的知識を習得するとともに、子どもと家庭に関わる各種の課題への支援のあり方を理解し、子どもの立場に立った支援を考えることができるようになる。						主に対応するDP 3+4		
[授業全体の内容の概要] 子どもの権利に代表される子ども家庭福祉の理念や歴史、関連する法体系・機関・施設などの基礎的知識に加え、いじめ、子どもの貧困、非行、障がい、親権、児童虐待など、我が国の子ども家庭福祉が直面しているトピックについて幅広く学ぶ。								
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1) 子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる最も基礎的知識（理念、歴史等）について理解している。 2) 子ども家庭福祉の実際の実施体制について、法律や専門機関等と関連づけて理解している。 3) 子どもと家庭に関する課題（いじめ、子どもの貧困、非行、障がい、児童虐待等）に関する支援のあり方を理解した上で、子どもの立場に立った支援とは何かを考え、その内容を説明できる。								
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]			
1) 現代の子どもと家庭をめぐる状況（藤原） 少子化、児童虐待、非行、不登校など現在の子どもと家庭が抱える様々な課題を概観し、状況を理解する。					●配布資料末尾の確認テストを行い、自らの学びを確認する。 ●配布資料末尾の「参考・引用文献」の中から、関心の高い資料を閲覧し、学びを深める。 ●配布資料内に QR コードがある場合、QR コードから資料を閲覧し、学びを深める。 ●毎回の授業の冒頭で配布する新聞記事などを読み、子ども家庭福祉のトピックや動向を確認する。 ※各回における準備学習に必要な時間数は 60 分程度である。			
2) 子ども家庭福祉の理念と概念（藤原） 児童家庭福祉から子ども家庭福祉への考え方の変化など、子ども家庭福祉を支える基本的な考え方を学ぶ。								
3) 子ども家庭福祉の歴史的変遷（藤原） 近代以降を中心として子ども家庭福祉の歴史を概観し、その変遷を理解する。								
4) 少子化と子育て支援（藤原） 少子化の現状と少子化対策の役割を担う子育て支援の制度について学ぶ。								
5) 子どもの権利（藤原） 人権とは何か、子どもの権利とは何かについて基本的な考え方を学ぶ。								
6) 親権について（藤原） 誤解されることも多い親権について、正しい理解を身につける。								
7) 児童虐待について（藤原） 児童虐待の対応システム及び実際の対応について学ぶ。								
8) 子どもの生活と生きづらさ（高橋） 島根県子どもの生活実態調査 子どもの貧困とウェルビーイング リアクションペーパーの書き方 リアクションペーパーの提出					予習：教科書 p166-172 準備学習時間 40 分			
9) 子どもの育成支援の施策とサービス（高橋） 子ども若者育成支援推進大綱としまね青少年プラン 事例紹介：青少年育成島根県民会議の活動 リアクションペーパーの提出								
10) ひとり親家庭への施策とサービス（高橋） 事例紹介 国の施策 島根県子どものセーフティネット推進計画 リアクションペーパーの提出					予習：教科書 p118-136 準備学習時間 40 分			
11) 社会的養護の施策とサービス（高橋） 日本における社会的養護の現状と諸施策 パーマネンシーと今後の社会的養護施設 社会的養護施設・里親の子どもたちへのアンケート リアクションペーパーの提出					予習：教科書 p150-153 準備学習時間 30 分			
12) いじめ問題と児童生徒へのハラスメントについて（高橋） 島根県のいじめ問題の現状								

児童童生徒へのハラスメントの防止について（鳥取県教育委員会） リアクションペーパーの提出		
13) 障がい児の福祉（高橋） 障害者福祉理念 障がいとは 障がいと福祉 障がい児への支援方法 リアクションペーパーの提出		予習：教科書 p154-163 準備学習時間 40 分
14) 子ども家庭福祉を担う関係機関（高橋） 子ども家庭福祉を担う関係機関の業務・連携・ネットワーク 事例紹介：地域つながりセンターの活動 リアクションペーパーの提出		予習：教科書 p86-93 準備学習時間 40 分
15) 子ども家庭福祉の今後と課題 まとめ（高橋） 「はざま」の拡大と子どもの生活 ソーシャルワークと保育者 地域共生社会の実現 世代間交流 相互扶助ネットワーク		
[使用テキスト] ・直島正樹・河野清志（2019）『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』、萌文書林 ・配布資料あり		
[参考文献] ・配布資料における各講義回部分の末尾に記載するとともに、資料内に QR コードを掲載する（藤原）。		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認（ 40%）	授業の冒頭に前回授業に関する小テストを実施する(藤原)。 リアクションペーパー（高橋担当分）により授業の到達度を確認する。リアクションペーパー（高橋担当分）は授業終了時に提出する。（高橋）	
②実技・作品発表等（ %）		
【定期試験】		
①筆記試験（ 30%）	配布資料末尾の確認テスト及び授業冒頭で行う小テストの内容を中心に、基礎的な知識を問う(藤原)。	
②レポート（ 30%）	レポート課題は、筆記試験時に提示する。指定日までにレポートを提出する。（高橋）	
③実技試験（ %）		
④面接試験（ %）		
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する(高橋)	
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない(藤原)	
[フィードバックの方法] ・小テスト及び筆記試験(藤原担当分)について、試験終了後に正答を開示する（藤原）。 ・レポート(高橋担当分)は添削し、添削評価表を返却する。（高橋）		
[備考] ・必ず、配布資料を持参すること。 ・小テストの実施は第2回～7回とし、初回は感想の提出を求める。なお、これらの提出をもって出席を確定させる（藤原）。		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-34-18

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
社会福祉論		講義		余村 望	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
		資格必修			
☒ 実務経験	元知的障害者援護施設職員の経験も踏まえて社会福祉の歴史及び現状を解説します。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
社会福祉の概念と機能、社会福祉専門職の役割について、社会福祉の政策の変遷と社会福祉援助事例を通して基本的理解をすすめる。					3+4
[授業全体の内容の概要]					
社会福祉にかかる①意義と歴史の変遷 ②制度と実施体系 ③相談援助 ④未来への課題 について学習し、実践者としての基礎的理解と態度を身につける。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
・社会福祉が課題としてきた生活問題と社会福祉の必要性及びその意義について理解する。					
・社会福祉の原理について理解する。					
・社会福祉援助の進め方について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業ガイダンス・社会福祉の意義			＊各回授業範囲のノートまとめ（各1時間）と授業後の指定された事例の検討（1時間）		
2) ノーマライゼーション・インテグレーション・インクルージョン			第1章事例1～2		
3) 社会福祉のニーズ			第1章事例3～6		
4) 社会参加と自立、平等			第1章事例7～12		
5) 諸外国の社会福祉の歴史の変遷Ⅰ（イギリス・アメリカ）			第1章事例13～19		
6) 諸外国の社会福祉の歴史の変遷Ⅱ（北欧・ヨーロッパ諸国・アジア）					
7) 日本の社会福祉の歴史の変遷Ⅰ（戦前・戦中）			第2章事例1～4		
8) 日本の社会福祉の歴史の変遷Ⅱ（戦後）					
9) 子ども家庭支援と社会福祉			第1章事例20～27		
10) 日本の社会保険制度			第2章事例5～8		
11) 社会福祉専門職の概要			第2章事例9～17		
12) 相談援助の理論と対象			第3章事例1～4		
13) 相談援助の方法と技術			第3章事例5		
14) 現代社会の福祉課題			第4章事例1～2		
15) 共生社会と福祉ネットワーク			第4章事例3～8		
[使用テキスト] 吉田 眞理 『生活事例からはじめる新版社会福祉』第11版 2024 青鞆社					
[参考文献] 授業回ごとに資料配布					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 30%）		各回の事例の内、指定したものについてレポート提出を実施。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ 70%）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
・提出された課題についてコメントする。					
・筆記試験後に正答を開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-34-16

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
障がい者福祉論		講義		余村 望	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
		資格必修			
☒ 実務経験	元知的障害者援護施設職員の経験も踏まえて障がい者福祉の実践を交えて講義する。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP 3+4
障がい及び障がい者福祉に関して、福祉専門職として求められる知見を獲得し、障がい児者に対する専門的支援に参加できる技能を身につける。					
[授業全体の内容の概要]					
障がいの概念、障がい者福祉の歴史と制度の変遷、障がい者とその家族の就労と生活、社会的環境について理解を進め、支援のあり方等福祉専門職としての基礎的理解を深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
職場、居住地域において多様な関係者と、障がい児者に対する専門的支援ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業ガイダンス～障がい者福祉とは何か （課題1）障がい児者に対する偏見、差別の事例を調べ、「障がい」を持つことがなぜ偏見や差別につながるのかを考察する。			・当該コマ学習資料（前回配布）の読み込み（各回1時間）		
2) 障がいの概念～国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）へ （課題2）社会環境を構成する一人の住民として社会的不利への自分なりの対応策を考察する。			・当該コマ学習資料（前回配布）の自己ノート作成（各回30分）		
3) 障がいを持つ人の暮らしと支援～障がい者の生活実態①			・当該コマで提示する小レポート作成（各回1時間）		
4) 障がいを持つ人の暮らしと支援～障がい者の生活実態② （課題3）障がい者の生活実態と、自分自身の生活実態を比較して、福祉専門職として考えられる支援について考察する。					
5) ノーマライゼーション・インクルージョン （課題4）障がいを持つ人たちに対する「普通」ではない社会的対応に何があるか考えてみる。					
6) 「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」から障害者総合支援法の成立へ （課題5）骨格提言と総合支援法の内容の違いを考察してみる。					
7) 障がい者福祉制度と専門職の役割 （課題6）相談支援事例を基に支援のあり方を考察する。					
8) これからの障がい者福祉と求められる地域共生社会（まとめ） （課題7）提示された課題に基づきディスカッションを実施					
[使用テキスト] なし					
[参考文献]					
『えほん 障害者権利条約』 ふじいかつり 汐文社 2015 年 『障害者自立支援法と人間らしく生きる権利』障害者生活支援システム研究会 かもがわ出版 2007 年 『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井 克徳 やどかり出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（30%）		授業態度、提出物の提出状況、授業参加度及び評価提出された課題レポートを評価。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（70%）		筆記試験を実施する。			
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
・到達度確認のための小課題について評価後にコメントする。 ・筆記試験解答についての解説を開示する。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-34-17

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
社会的養護Ⅰ		講義		堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
					資格必修
☒ 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員の経験を活かし、施設養護の実態を捉えた講義をします。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
社会的養護の原理や歴史を踏まえ、現代の社会的養護の現状や背景について、専門的知識に基づいた自分なりの考えをもつことができる。また、子どもの最善の利益を尊重する態度を身に付けることができる。					1
[授業全体の内容の概要]					
テキストをもとに講義をおこなう。授業内で計3回小テストをおこない、学習内容の定着を図る。					
第1回小テストの範囲：社会的養護の基本理念と原理、社会的養護の歴史					
第2回小テストの範囲：社会的養護の実際					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 社会的養護の歴史的変遷と現代の社会的養護の実態を関連づけることができる。					
2. 社会的養護の制度や実施体系について説明できる。					
3. 現代の社会的養護の現状と課題を理解し、未来の社会的養護を予測できる。					
4. 社会的養護において保育者に求められる専門技術について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 社会的養護の範囲					
2) 社会的養護の基本理念と原理					
3) 社会的養護の歴史（古代～第一次世界大戦前）					
4) 社会的養護の歴史（第一次世界大戦～現代）					
5) 子どもの権利擁護／第1回小テスト					
6) 社会的養護の制度と法体系／仕組みと実施体系					
7) 社会的養護の実施①（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設）					
8) 社会的養護の実際②（児童心理治療施設、児童自立支援施設など）					
9) 社会的養護の実際③（障がい児入所施設、障がい児通所施設）					
10) 社会的養護の実際④（里親、ファミリーホーム）					
11) 第2回小テスト／社会的養護にかかわる専門機関					
12) 社会的養護にかかわる専門技術①（基本的生活習慣）					
13) 社会的養護にかかわる専門技術②（学習・学校）					
14) 社会的養護にかかわる専門技術③（対人関係・社会生活）					
15) 社会的養護におけるソーシャルワーク					
[使用テキスト]					
喜多一憲（編），『みらい×子供の福祉シリーズ第2版 社会的養護Ⅰ』，2024，みらい。					
[参考文献]					
田中康雄（編），『児童生活臨床と社会的養護』，2012，金剛出版。					
F.P. バイスティック，尾崎新ら（訳），『ケースワークの原則 援助関係を形成する技法』，2008，誠信書房。					
上田敏，『ICFの理解と活用』，2011，きょうされん。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（100%）		授業修了時の達成課題に示されている4項目について論述問題で評価します。			
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			

	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・小テスト実施後に正当を示します。 ・筆記試験終了後に評価のポイントを提示します。	
[備考]	
・google classroomに大学のアカウントを用いてログインできるようにしておいてください。 ・スマートフォンは資料を確認する際に使用しますので、持ち込み可とします。 ・資料の閲覧以外でのスマートフォンの使用、私語や居眠り等が見られた場合は退出を求めます。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-19

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援の心理学		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 堅田 弘行・藤井 香里 (オムニバス)		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター	資格必修
☐ 実務経験						
[授業の目的・ねらい] 子どもが最初に経験する家庭について、その構造や意義を子どもや家族の発達と関連づけて学習する。多様な家族形態の中で子どもの育ちや保護者の子育てを支えるために必要な心理学の基礎知識を身に付ける。						主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] この科目は、3セメスターの「子ども家庭支援論」や4セメスターの「子育て支援演習」の基礎科目としての位置づけである。家庭支援や子育て支援に必要な心理学の知識について講義する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題について説明できる。 2. 家庭や家族の意義や構造と個々の発達を関連づけて考えることができる。 3. 多様な家庭や家族を踏まえた子どもや家庭への支援の在り方について説明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 生涯発達と発達理論【堅田】				発達心理学で学んだ内容を復習する(2 時間)		
2) 乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴【藤井】				テキスト第 1 章を読む (1 時間)		
3) 思春期・青年期の発達の特徴【藤井】				テキスト第 2 章を読む (1 時間)		
4) 成人期・高齢期の発達の特徴【藤井】				テキスト第 3 章を読む (1 時間)		
5) 家族システムと家庭支援【堅田】				テキスト第 4 章の 1, 2, 3 を読む (1 時間)		
6) 家族システムと家庭の発達【堅田】				テキスト第 4 章の 4 を読む (0.5 時間)		
7) 親子の愛着と親の精神衛生【堅田】				テキスト第 5 章の 1 を読む (0.5 時間)		
8) 親としての養育スタイルの形成要因【堅田】				テキスト第 5 章の 2, 3 を読む (1 時間)		
9) 社会の変化と多様な子育て環境【藤井】				テキスト第 6 章を読む (1 時間)		
10) 子育てと仕事・ワークライフバランス【藤井】				テキスト第 7 章を読む (1 時間)		
11) 多様な子育て家庭への支援【藤井】				テキスト第 8 章を読む (1 時間)		
12) 特別な配慮を必要とする家庭への支援【藤井】				テキスト第 9 章を読む (1 時間)		
13) 子どもを取り巻く生活環境【藤井】				テキスト第 10 章を読む (1 時間)		
14) 子どもの心身の健康【藤井】				テキスト第 11 章を読む (1 時間)		
15) 障がいのある子どもの理解と対応【藤井】				テキスト第 12 章を読む (1 時間)		
[使用テキスト] 本郷一夫・神谷哲司(編)，『シートブック 子ども家庭支援の心理学』，2019，建帛社.						
[参考文献] 繁多進（編），『子育て支援に生きる心理学 実践のための基礎知識』，2010，新曜社.						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ %）						
②実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
①筆記試験（100%）						
②レポート（ %）						
③実技試験（ %）						
④面接試験（ %）						
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]						

筆記試験実施後に解答のポイントを掲示します。

[備考]

平常点評価として授業内に小テストをおこなう場合があります。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-23

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
子どもの保健		講義		前林 英貴	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
資格必修					
☒ 実務経験	大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義を行う。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するD P
成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能・精神機能を学習しながら、子どもの健康と疾病について理解を深める。また、子どもの健康増進のために必要な知識を身に付けることで、保育者として適切な対応・支援ができる基礎を養う。					1
[授業全体の内容の概要]					
現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、平均的な子どもの発達と評価方法を理解し、子どもの成長・発達に関する基礎的な知識について学ぶ。また、この講義では子どもの精神保健についても理解を深めていく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる					
2. 子どもの身体発育、生理機能、運動機能の発達について理解することができる					
3. 子どもの健康状態の把握と疾患の特徴や予防、適切な対応について理解することができる					
4. 保健活動における地域連携と、多職種間の協働について理解することができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保健活動の意義（母子保健の統計により）			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
2) 子どもの健康とその評価			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
3) 地域における保健活動（現状と課題）と児童虐待			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
4) 子どもの身体発育と計測方法			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
5) 生理機能の発達 「代謝・免疫」			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
6) 生理機能の発達 「呼吸・循環」			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
7) 生理機能の発達 「睡眠・排泄」			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
8) 運動機能の発達			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
9) 予防接種について			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
10) 子どもの疾患の症状とその対応（その①）			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
11) 子どもの疾患の症状とその対応（その②）			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
12) 子どもに多くみられる疾患「先天性疾患、神経系疾患」			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
13) 子どもに多くみられる疾患「心臓疾患、呼吸器疾患」			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
14) 子どもに多くみられる疾患「血液疾患、腎疾患、内分泌疾患」			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
15) 保健活動における連携			テキストを予習しておくこと（30 分程度）		
[使用テキスト]					
「子どもの保健 第7版 追補」 巷野悟郎編 診断と治療社					
[参考文献]					
講義に必要な資料を授業の中で紹介する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（100%）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			

[フィードバックの方法]

毎授業後に授業アンケートを実施し、質問があれば次の講義でフィードバックします。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-27

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
子どもの食と栄養		演習		永見 葉子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
		資格必修			
☒ 実務経験		小児病棟有床の病院勤務での栄養管理を具体的な演習やグループワークを通して学習に活かす			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するD P
専門的知識に基づき子どもの健康・発育・食を営む力を培い、子どもに有益な食育を行うことができるようになる。					1
[授業全体の内容の概要]					
子どものステージ毎の栄養の特性や問題点を学習し、保育の実践的活動に繋がられるよう演習やグループワーク、座学を通して学習。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
① 栄養の基本及びバランス食を理解し、子どもに分かりやすい説明ができる。					
② 食物アレルギー、感染症のリスクを理解し、危機管理対策案を挙げることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子どもの健康と食生活の意義と問題点（座学）					
2) 栄養の基本、代謝を理解し子どもへ分かりやすい表現を学習					
3) 栄養素の種類と働きを理解し子どもへ分かりやすい表現を学習			授業内容を踏まえ、模造紙に各班でまとめ（1 時間）		
4) 5 大栄養素の種類と働きを模造紙にまとめて発表（グループワーク）			同上		
5) 日本人の食生活の目標 献立作成・調理の基本（座学）					
6) 食事バランスガイド及びバランス食の理解を深める（座学）			自身の3食の記録をまとめ（1 時間）		
7) 妊娠期・授乳期・乳児期の意義と食生活 母乳の利点・欠点（座学）					
8) 離乳期の意義と食生活（座学）					
9) 乳幼児期・学童期・思春期の心身の発達と食生活（座学）					
10) 家庭や児童福祉施設における食事と栄養（座学）					
11) 施設における衛生管理・食中毒のリスク管理 保健だより作成					
12) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー（座学）					
13) 食育計画 P D C A サイクル食育計画書作成					
14) 地域や家庭と連携した食育の展開の理解 実践（グループワーク）			食育テーマに基づき媒体作りを各班でまとめ（1 時間）		
15) 食育テーマに基づいた発表（グループワーク） 総まとめ					
[使用テキスト]					
子どもの食と栄養					
[参考文献]					
「元気な子供を育てる！保育園の食事&健康だより」「あんしん、やさしい離乳食オールガイド」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ 100%）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
筆記試験について正答を試験期間終了後開示					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-28

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育の計画と評価		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 増原 真緒・舟越 美幸 （オムニバス）		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	保育者としての実践経験を基に、保育における計画と評価のあり方について伝えます。					
[授業の目的・ねらい]						主に対応するDP 1
・保育内容の質の向上に資する保育の計画及び評価の方法について説明できる。						
・全体的な計画と長期計画・短期計画についてその意義と方法を理解し、実践できる。						
・子ども理解と保育の計画のつながりについて理解し、実践できる。						
[授業全体の内容の概要]						
・保育所・認定こども園における保育の全体的な計画や子ども理解とのつながりを理解し、計画から評価までを含む一連の保育計画と改善方法を学ぶ。						
・年間計画・月案・週案・日案・部分指導案について理解し、指導案作成の技能について学ぶ。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）]						
保育の計画や評価と保育の全体的な計画とのつながりについて理解を深め、その意義や特徴を説明できるとともに、指導案作成や保育の質の向上に必要な視点を説明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]			
1) 指導計画作成に当たっての基本的な考え方（舟越）						
2) 保育所保育指針解説「保育の計画及び評価」（舟越）						
3) 指導計画作成の具体的な手順とポイント（舟越） ・第1-2回の小テスト（筆記）			第1-2回までの内容について振り返り学習しておくこと。（2時間）			
4) 長期計画の作成と実際① グループワーク（舟越）			期日までに作成し提出すること。（1時間）			
5) 長期計画の作成と実際② グループワーク（舟越）			期日までに作成し提出すること。（1時間）			
6) 短期計画の作成（舟越）			期日までに作成し提出すること。（1時間）			
7) 保育における保護者との日常的情報共有（増原） 連絡帳を記入する際の視点と書き方のポイントを知り、実践						
8) 保育における保護者への情報提供①（増原） 園だより及びクラスだよりを作成する際のポイントを知り、作成						
9) 保育における保護者への情報提供①（増原） 作成したおたよりの発表を通して他者から工夫やアイデアを学ぶ			教員の示す期日までに、おたよりを完成させて提出すること。（約1～2時間）			
10) 短期計画と評価：保育の計画から実践の実体験 主な活動の時間における指導案部分的な保育について、教員による指導案例の提示から作成方法を学ぶ						
11) 保育指導案の作成①：グループワーク（増原） 活動を全体的に捉え、指導案を作成						
12) 保育指導案の作成②：グループワーク（増原） 指導案の修正および実践に向けたグループでの打ち合わせ			第11回で作成を始めた指導案を、教員の示す期日までに完成させて提出すること。（1時間）			
13) 保育指導案の実践①：グループワーク（増原・舟越）						
14) 保育指導案の実践②：グループワーク（増原・舟越）						
15) 保育の質の向上に向けた改善（ディスカッション）（増原） 指導案の改善、ねらい及び内容の検討						
[使用テキスト]						
実習運営委員会、『実習ガイドブック』2024、大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 厚生労働省、『保育所保育指針解説』2018、フレーベル社						
[参考文献]						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						

① 到達度の確認 (85 %)	第3回小テスト (20%) 第4～5回：長期計画の作成①② (各回 5%) 第6回短期計画の作成 (10%) 第7回：連絡帳の提出と内容 (10%) , 第8回：おたよりの提出と内容 (10%) , 第9回：発表の工夫 (5%) , 第11～12回：指導案の提出と内容 (10%) , 第15回：ワークシートの提出と内容 (10%)
②実技・作品発表等 (15 %)	第13～14回：実践の内容 (15%)
【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-32

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 舟越 美幸		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター	資格必修
☒ 実務経験	保育者として現場における実践経験をもとに乳児の育ちと必要な援助について伝えます。					
[授業の目的・ねらい]						主に対応するDP 1+2
・乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について理解し、現状と課題を説明できる。 ・乳児の生活や遊び・発達過程を理解し、保育者の心構えについて説明できる。						
[授業全体の内容の概要]						
乳児保育の現状と役割を理解し、実践的に関わるための知識や支援方法・配慮を学ぶ。						
[授業終了時の達成課題（到達目標）]						
・乳児保育の現状や役割を理解し、課題について説明できる。 ・乳児の生活や遊びを理解し、その特徴や発達過程、興味や関心について説明できる。 ・乳児保育における保育者の援助のあり方について説明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]	
1) 「乳児保育Ⅰ」ガイダンス・乳児保育の理念と役割・乳児保育の現状と課題						
2) 乳児が生活する場の現状と課題 家庭・保育所・幼保連携認定こども園・幼稚園・地域型保育事業・在宅訪問保育・乳児院 藤永保「人間発達と初期環境」のCDを聴き、初期環境・愛着形成の重要性を学ぶ。						
3) 乳児の生活 信頼関係の形成と学びの芽生え 保育所保育指針：「乳児保育に関わるねらい及び内容」と「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」 乳児保育の基本と環境～「重要な他者」養護の働きと教育の働き・基本的信頼～						
4) 乳児の発達と保育（0歳児前半）						
5) 乳児の発達と保育（0歳児後半から1歳）						
6) 乳児の発達と保育（1歳から2歳）						
7) 自我の発達とイヤイヤ期： 第一次反抗期と保育者のかかわり						
8) 感触遊び・見立て遊びとオノマトペ ・ゼラチンゼリーと片栗粉を使った感触遊び・牛乳パックを使った見立て遊び ・興味や関心に沿った環境の再構成					10の牛乳（ジュース）パックを指定した大きさに切り持参してください。（30分間）	
9) 乳児保育と言葉・コミュニケーション 「言葉のビルディング」						
10) 中川信子「言葉を育てる語りかけ育児」のDVDを視聴し、言葉の獲得と保育者の語りかけについて学ぶ。						
11) 乳児院の役割と愛着関係を構築する重要性 ＊ゲストスピーカー						
12) 乳児保育の遊び① 手遊び					第12回で行う資料を期日までに作成し提出して下さい。（2時間）	
13) 乳児保育の遊び② 手遊び（グループワーク）						
14) 乳児保育と子ども・親としての発達と地域連携						
15) 保育の全体的な計画と乳児保育における指導計画						
[使用テキスト]						
・『乳児の保育新時代』乳児保育研究会 ひとなる書房						
[参考文献]						
・『0～4歳 赤ちゃんの言葉が育つ 場面別に楽しむ「語りかけ」』 中川信子 小学館						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
① 到達度の確認（25%）	第2回・第8回・第10回DVDまとめ（各5%）・第11回レポート提出（10%）					
② 実技・作品発表等（20%）	第13回・14回で行う手遊びの資料作成（10%）・振り返りのワークシート（10%）					
【定期試験】						

① 筆記試験 (55%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-44

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 杠 佳子・舟越 美幸 (オムニバス)		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	保育士・主任・所長として従事し、市・県の代表・教育事務所の職員と行政機関での経験もある。乳幼児の児童の発達や特性を演習等通して指導する事で保育士の専門性について講義する。（杠） 保育者として勤務した経験から保育士の専門性について講義する。（舟越）					
[授業の目的・ねらい] *乳児期の発達を理解し、人間愛に根ざした保育の援助者としてのあり方を学ぶ。 *乳児保育・1歳以上から3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえ、子どもにとっての望ましい生活環境について理解すると共に基本的な関わり方の技能を習得する。						主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容概要] *乳児保育の諸要素を学び、資料をもとに演習、実技、討議の中で乳児保育の基本的なあり方を学ぶ。 *演習を通して乳児の抱き方や衣服の交換、身体の清潔保持、授乳の方法について体得する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] *乳児保育における保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を学び保育士、保育教諭の役割を具体的に理解し、自らの課題に気づき今後の学習目標を見つける。 *乳幼児が日常生活を過ごすために必要な養護の基本技術を身につけ、その方法について説明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 「乳児保育Ⅱ」ガイダンス・乳児の育ちを育む養護の技術Ⅰ（舟越） 乳児の抱き方、寝かせ方、おむつ交換、衣服の着脱				・多目的室で赤ちゃん人形を使って演習を行います。髪の高い学生は、髪をまとめて参加してください。 ・4回目は「到達度の確認を行います。第1～3回目の授業を復習し、受講してください（1時間）。		
2) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅱ（舟越） 哺乳器具の取り扱い、調乳、授乳の方法						
3) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅲ（舟越） 沐浴の方法、身体計測						
4) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅳ（プレゼンテーション）（舟越） 保育実習Ⅰaに必要な養護技術について到達度の確認を行う。						
5) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき乳児保育における基本について。（杠） 乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育のねらい、内容について。 保育環境の重要性。保育士としての常識とは。				・保育所保育指針解説本と幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説本を持参すること。 ・事前に該当箇所を読んでおく。（30分程度）		
6) 乳児保育の基本（杠） ①子どもと保育士等との関係の重要性 ②子どもの主体性の尊重と自己の育ち ③生活や遊びを通しての保育やその環境 ④保護者との関わり的重要性 乳児保育での絵本の必要性、読み語りのポイント発達を踏まえた絵本の選択とは				・乳児保育の本①②③④の項目を事前に読んでおく。（30分程度） ・0歳・1歳・2歳の絵本を図書館又は個人用を1冊（どの年齢でもよし）持参。 ・第7回で行う手作りおもちゃ製作の構想や教材・素材の準備をしておく。（30分程度）		
7) 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践（杠） 乳幼児にあつた手作り玩具・おもちゃを学ぶ。 手作りおもちゃ製作実施				・講義内に手作りおもちゃを作成するように心がける。 ・手作りおもちゃの写真添付を次回までにしておく。（30分程度）		
8) 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践（杠） 手作りおもちゃ・製作表を記入 手作りおもちゃ・製作表を発表（プレゼンテーション）				・発表をする。（手作りおもちゃ・製作表） ・誰にでも理解できるようにはっきりとした言葉・内容を心がけ発表ができるよう練習しておく。（30分程度）		
[使用テキスト] ① 『乳児の保育新時代』乳児保育研究会 ひとなる書房						

② 『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館	
③ 必要に応じて資料配付	
[参考文献] アクティブラーニング対応乳児保育Ⅱ：一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践 尾身明美他 萌文書林	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (45%)	第1～4回目振り返りシート (20%)、第5～7回振り返りシート (25%)
② 実技・作品発表等 (55%)	第4回目プレゼンテーション(30%)、第8回目手作りおもちゃプレゼンテーション(25%)
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・演習後に振り返りシートを記入したり、授業内で解説したりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-12-45

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
障がい児保育Ⅰ		演習		舟越 美幸	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
		資格必修			
☒ 実務経験	保育者として実践経験をもとに障がい児の育ちと支援方法についてお伝えします。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するD P 1+2
・障がいのある子どもと共に生きる保育の理念や歴史的変遷について理解する。					
・障がい児について理解し、発達を保障する周囲の環境づくりのあり方や保育の計画について理解する。					
・障がい児を養育する保護者への支援や地域の関係機関との連携について理解する。					
[授業全体の内容の概要]					
・障がいに応じた教育・保育について学ぶ。					
・障がい児と共に生活する保育の理念や関わりについて事例を通して理解を深める。					
・障がい児・保護者・関係機関との連携に関わり、共に支え合う保育について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
・特別支援教育としての障害児の教育・保育について学び、インクルーシブ保育に適わない形態（通級指導、訪問指導、院内学級等）の教育・保育について理解し、説明ができる。					
・人間としての尊厳を重視した障がい児との関わりや支援、保護者や関係機関との連携の在り方を理解し、子どもを支える保育環境づくりについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障がい児保育の概要・障がい児保育の歴史的変遷 糸賀一雄 監修「夜明け前の子どもたち」DVD 視聴					
2) 発達と障がい ・発達過程(0 歳～6 歳)と言葉・概念形成・情動の発達					
3) 子ども主体の環境づくり・個体論的な障がい観と関係論的な障がい観 重要な他者との信頼関係から始まる関係性の発達・愛着・二次障がい					
4) 視覚・聴覚がい児の理解と援助					
5) 肢体不自由児・重症心身障がい児・医療的ケア児の理解と援助					
6) 知的障がい児の理解と援助					
7) 発達障がい児の理解と援助					
8) 障がいの理解と発達の援助① 感覚統合と発達を理解し、保育者・友達と楽しむ運動遊びを学ぶ。					
9) 障がいの理解と発達の援助② ＊ゲストスピーカー 感覚統合や認知発達と遊びの関連性について学ぶ。			ゲストスピーカーの講話を聴き、期限までにレポートを提出すること（1 h）		
10) 障がいの理解と発達の援助③ グループワーク 子どもの発達保障 「学び舎ぽっと」玩具づくり（計画）			授業内に玩具づくりが終わらない場合は、期限までに作成し、提出すること。（1～2 h）		
11) 障がいの理解と発達の援助④ グループワーク 子どもの発達保証 「学び舎ぽっと」玩具づくり（製作）					
12) 障がいの理解と発達の援助⑤ グループワーク 子どもの発達保障 「学び舎ぽっと」玩具づくり（発表）					
13) 保護者とその家族を支える保育者の役割① ・保護者と信頼関係を築き、子育ての両輪となる支援のあり方について学ぶ。 ・家族や兄弟児を地域で支える保育を学ぶ。					
14) 保護者とその家族を支える保育者の役割② 映画「桜色の風邪が吹く」を視聴し、保護者や家族の思いを学ぶ。					
15) 指導計画・支援計画と園内・地域連携 ・障がいのある子どもの発達・興味や関心・最近接領域から保育者や仲間と共に楽しむ生活や遊びを計画立案する。 ・地域の母子保健や医療機関等、発達支援センターとの連携について学ぶ。					
[使用テキスト]					
・「障がい児保育」小橋明子・小橋拓真・小山内あかね・竹間うちゆかり，中山書店，2019 年。					

[参考文献]	
・「最新保育講座 15・障害児保育」鯨岡峻，ミネルヴァ書房。 ・「障害児保育 30 年～子どもたちと歩んだ安来市効率保育所の軌跡～」，ミネルヴァ書房。 ・「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美，ひとなる書房。 ・「『気になる子』が変わるとき - 困難をかかえる子どもの発達と保育」木下孝司，かもがわ出版	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認（ 40%）	第 1・3 回のワークシート(各 5%)，第 9 回ゲストスピーカー講話レポート（10%） 第 14 回視聴後のレポート（10%），第 15 回個別の支援計画（10%）
② 実技・作品発表等（ 15%）	第 10 回：玩具製作の計画（5%）第 11～12 回玩具作品（10%）
【定期試験】	
① 筆記試験（ 45%）	
② レポート（ %）	
③ 実技試験（ %）	
④ 面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出した課題について授業内で解説したり、コメントを返したりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-47

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅰa（保育所）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 増原 真緒		
授業の回数	23 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1・2 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	保育士経験を活かし、実習に向かうための知識・技能や、準備等についてお伝えします。					
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・実習日誌の記録方法を身に付け、日々の振り返りや保育の計画の繋がりを理解する。 ・手遊びおよび絵本の読み聞かせの実践から保育技術を学び、実践できるようになる。 ・事後指導や報告会を通し、保育の評価を行うことで、次の実習への新たな課題や学習目標を明確にする。					主に対応するDP 5	
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習に向かう心構え・留意事項・自己課題を明確化する。 ② 「観察・参加体験」で実際の保育に触れ、記録の方法を身に付ける。 ③ 導入および「部分実習」について理解する。 ④ 事後学習を通して実習での学びを深める。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・保育所の一日の流れや保育者の役割、子ども理解の大切さを理解し、実習日誌の記入ができる。 ・「部分実習」で実施する内容について理解し、実践やその事前準備ができる。 ・事後指導や実習報告会を通して省察を行うことで、次の実習への新たな課題や学習目標を明確化し、表明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) ・オリエンテーション：講義概要の確認と本科目の説明 ・保育実習Ⅰaおよび保育実習全体の流れ ・心得と事前準備：基本姿勢と実習態度(マナー)、健康管理 ・保育実習Ⅰaで習得すべき内容				※授業内で実施する「観察・参加体験」および保育実習Ⅰa（保育所）に向け、一人の社会人として保育現場へ臨むことができるよう、 <u>日頃から挨拶、マナー、立ち居振る舞いに留意すること。</u> ※本科目では <u>計画的な課題への取り組みと提出を重視するため、取り組み姿勢および提出期限の厳守を心がけること。</u> （各回 0.5 時間程度）		
2) ・保育への参加の仕方と保育補助、保育所とは ・「実習個人票」の作成 ・名札の作成について ・観察参加体験ガイダンス：観察・参加体験の概要説明、当日までの流れと準備						
3) ・観察参加体験の詳細について：メンバーおよび体験先施設の発表 ・当該施設についてグループごとに調べ、通勤方法や集合場所、時間等の決定を行う〈グループワーク〉 ・実習における守秘義務、「実習に関わる誓約書」（観察・参加体験用）の作成 ※ 印鑑を持参すること						
4) ・観察の視点：関与観察から始まる子ども理解、保育者の援助・意図の理解、メモの取り方 ・子ども理解を深めるための観察の視点と関わり（課題の提示） ・観察・参加体験前オリエンテーションに向けた電話の方法についての説明 ・観察・参加体験に向けたオリエンテーションとマナーについての説明						
5) ・実習期間中の挨拶とマナー ・子ども理解と「受け止める」こと(多角的な視点を持つことの重要性)〈フォトランゲージ〉 ・グループディスカッションを通した気づきの共有から学びを深める〈グループワーク〉						
6) ・実習日誌の記録方法（1－1）：実習日誌の意義、取り扱いおよび基本・留意事項 ・時系列の書き方と実践（自己目標、ねらいと内容、出欠人数）						
7) ・実習日誌の記録方法（1－2）：時系列の書き方と実践						

(子どもの姿と環境構成, 保育者の関わり, 実習生の行動等) ・ DVD の視聴を通して実習生の実例を参考に学び, DVD 視聴から実習日誌の記録実践	
8) ・ 実習日誌の記録方法 (2) : 場面記録(エピソード)の書き方と実践 (DVD の視聴を通して実習生の実例を参考に学ぶ) ・ 観察・参加体験に向けた最終確認 ・ 手遊びの習得と実践	
9) ~14) 【観察参加体験】 : 7月11日・12日 9:00~14:30 ※帰宅後はメモをまとめ, いずれか1日の実習日誌を作成のうえ, 第15回授業に持参すること。 ※「観察・参加体験 振り返りシート」を記入のうえ, 第15回授業で提出すること。	・ 観察・参加体験後, 「実習日誌」および「振り返りシート」を作成し, 第15回の授業において持参すること。(授業時提出) (2~4時間程度) ※科目担当教員およびアシスタント講師による実習日誌の添削指導を行う。
15) ・ 観察参加体験の振り返り (グループワーク・ディスカッション)	
16) ・ 「実習課題と取り組み」の作成方法 ※ パソコンおよび文書の保存媒体 (USB 等) の持参必須	
17) ・ 「実習様式集」および「実習ファイル」の配布と説明 ・ 実習前オリエンテーションに向けての電話および当日の受け方について ・ 手遊びの習得と子どもの心を惹きつける技術について	
18) ・ 実習日誌の記録実践(見直しと改善から): <u>到達度の確認</u> ・ 実習報告書の作成方法	
19) ・ お礼状の書き方と実習終了後の流れ ・ 部分実習についての最終確認 ・ 実習の最終確認	第18回授業で保育実習Ⅰa(保育所)に向けた到達度の確認として実習日誌の記録に取り組む。その内容により, 補習等を受ける必要も出てくるため, 必ず提出すること。(2~3時間程度)
20) ・ 実習の振り返り (各施設の特色や保育技術, 部分実習等について)	
21) ~22) 【実習報告会】	
23) ・ 実習報告会を通しての振り返り (子ども理解の深化と共有)	
[使用テキスト] 実習運営委員会, 『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス)	
[参考文献] ・ 小櫃智子ら, 『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』, 2017, わかば社 ・ 小櫃智子ら, 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』, 2015, わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (100 %)	実習準備および実習後指導として提示する課題 (実習個人票, 観察・参加体験に係る書類, 誓約書, 子ども理解レポート, フォトランゲージシート, 実習日誌等) の提出期限厳守および提出物の内容について評価します。また, 第18回で作成する実習日誌の提出および記述内容から記述ポイントと技能について到達度の確認をした上で実習へ送り出します。
②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	

提出された課題についてその都度，授業内で解説・コメントをします。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-70

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅰb（児童福祉施設）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員としての実務経験を活かし、施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。					
[授業の目的・ねらい] 事前指導では、各実習施設の社会的役割と機能、児童福祉施設等での実習の目的、実習の内容、実習の記録の書き方等を学ぶ。実習後は、実習体験を振り返り、報告書に気づきや課題などをまとめることで、2年次の実習への課題や学習目標を明確にすることをねらいとする。保育実習指導では、これまで学習した様々な教科目と実習との関連を意識した内容になるため、すべてのDPと共通する。					主に対応するDP 5	
[授業全体の内容の概要] 実習に関わる書類の添削指導等においては全専任教員が関わる。第1回～第10回は児童福祉施設等の生活の様子について視聴覚教材等を用いて授業を行いながら、実習施設のイメージを高めることを目指す。グループ学習を通して実習施設の概況や法的位置づけ等を学び、実習施設の理解を深める。第11回以降は実習終了後に行い、グループでの振り返りや実習報告会を実施する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設等における利用者等の実態について説明できる。 2. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設における保育者や職員の役割、職務について説明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]			
1) 保育実習Ⅰb(児童福祉施設)の範囲、社会的養護を取り巻く近年の動向						
2) 実習に向けた準備①（実習施設の公表） ・ 保育実習Ⅰbの意義と目的、内容と目標、実習に向けた心構え ・ 個人票を加筆修正する。実習ファイルを作成する。			・ 第1回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
3) 実習に向けた準備②（実習施設の概況の理解） ・ 実習施設の概況について調べ、ワークシートを完成させる。			・ 個人票を完成させる(0.5時間) ・ 第2回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
4) 実習に向けた準備③（実習施設の生活の理解、対象者理解） ・ 日課の意味や目的について第3講のワークシートをもとに話し合う。 ・ 過去の実習での実践事例から対象者理解を試みる。			・ 第3回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
5) 実習に向けた準備④（実習生の心構え①） ・ 実習施設が求める実習生について確認する。 ・ BIG FIVE 尺度から自己分析をし、自分の強みを探す。			・ 第4回事前指導授業課題に取り組む(2時間)			
6) 実習に向けた準備⑤（実習生の心構え②） ・ ロールプレイを通して生活を捉えることを試みる。 ・ DVD教材をもとに、“タイチ”の生活機能を捉える。			・ 第5回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
7) 実習に向けた準備⑥（実習生の心構え③／実習課題の設定①） ・ 実習生に求められる生活技術、専門性、態度を学ぶ。 ・ 実習生としてのPDCAサイクルを理解する。 ・ 目指す保育者像を明確にする。			・ 第6回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
8) 実習に向けた準備⑦（実習課題の設定②） ・ 「実習課題と取り組み」を完成させる。			・ 第7回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
9) 実習に向けた準備⑧（実習記録の記入①） ・ DVD教材から実習日誌の模擬記録に取り組む。			・ 第8回事前指導授業課題に取り組む(1時間)			
10) 実習に向けた準備⑨（実習記録の記入②と振り返り） ・ 添削された模擬記録に修正を加える。 ・ 実習日誌(サンプル)の添削を行い、添削箇所をグループで確認する。			・ 第9回事前指導授業課題に取り組む(1時間) ・ 実習日誌(サンプル)を添削する(2時間)			
11) 実習の振り返り① ・ お礼状、実習報告書の記入のポイントを押さえ、作成する。			・ 第10回事前指導授業課題に実習実施前までに取り組む(1時間) ・ お礼状を作成する(1時間)			

12) 実習の振り返り②	・実習報告書を作成する。
・実習報告書の作成。発表の準備をする。	・発表資料を作成する。
13) 実習報告会①	・実習報告書を一読する（2 時間）
・実習施設ごとに実習施設の様子を発表する。	・発表原稿を作成する(2 時間)
14) 実習報告会②	
・実習施設ごとに実習施設の様子を発表する。	
15) 実習報告会③	
・グループに分かれて、実習で気づいたこと、学んだことを発表する。	
[使用テキスト]	
実習運営委員会、『実習ガイドブック』，2024，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）.	
[参考文献]	
田中利則（監），『事例を通して学びを深める施設実習ガイド』，2018，ミネルヴァ書房.	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 60%）	各回における課題の提出状況と内容によって評価する。
②実技・作品発表等（ 40%）	実習報告会での発表によって評価する。
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
提出課題にコメントをつけて返却する。	
[備考]	
1.classroomを使用するので、アクセスできる端末を準備してください。	
2.「保育実習Ⅰb（児童福祉施設）」と同時に履修することが必要です。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-67

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習 I a（保育所）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
資格必修	資格必修				
☒ 実務経験	元保育士の視点から、保護者支援、保育の計画等、実習における学びについて指導します。				
[授業の目的・ねらい] ・保育所の機能や役割について理解し、保育者の仕事内容を知る。 ・子どもとの交流や保育者の行動観察を通して、子どもの発達や保育内容についての理解を深める。 ・関わりや観察を通し、子どもの言動から内面を想像し、保育者の専門性について学習する。					主に対応する D P 5
[授業全体の内容の概要] ① 保育所の役割や機能を理解する。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③ 授業で習った他教科の内容を踏まえ、生活や遊びと保育環境とのつながりを総合的に学ぶ。 ④ 保育の観察から記録をすること、部分的な保育の計画及び自己評価について理解する。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・保育所の役割や機能等について現場での体験を通して理解し、説明することができる。 ・各年齢の生活や遊び、発達過程について、実習にて経験したことから子どもの実態について説明することができる。 ・保育士の姿から手遊び等の保育技術を習得し、他者に伝えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
① 保育所の役割や機能の理解 ・保育所、認定こども園の生活と一日の流れを理解する。 ・保育所保育指針、認定こども園教育・保育指針と照らし合わせながら、社会的役割や機能について総合的に理解する。 ② 子ども理解 ・子ども一人一人やクラス集団を観察し、発達過程や子どもの思いや姿を理解する。 ・養護・教育的な関わりを通して、子ども一人一人やクラス集団を理解する。 ・保育士の子どもとの関わりから、その意図や配慮を学ぶ。 ③ 生活や遊びと保育環境のつながり ・子どもの発達過程と生活や遊びに応じた保育環境について学ぶ。 ・子どもの健康と安全への配慮について学ぶ。 ④ 観察、記録、計画及び自己評価 ・保育の観察、記録、計画及び自己評価について理解する。 ・実習日誌の記録の方法と気づきについて理解し、考察する。 ・保育者の姿を参考に手遊び・絵本読みなどを体験する。 ・指導案を作成し、手遊び・絵本読みなどの部分実習を行う。 ⑤ 保育士の職務内容と職業倫理 ・保育士の職務内容を実践的に学ぶ。 ・職員間の役割分担や連携について理解する。 ・保育士の社会的役割と職業倫理について学ぶ。					※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導 I a（保育所）で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習から帰宅後に実習日誌を作成します。（各日 2～3 時間程度）
[使用テキスト] ・実習運営委員会、『実習ガイドブック』，2024，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス） ・厚生労働省、『保育所保育指針解説』，2018，フレーベル館					
[参考文献] ・小櫃智子ら『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社 ・小櫃智子ら『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					

【平常試験】	
①到達度の確認（40 %）	実習前指導における課題の提出および内容（課題と取り組み、身だしなみ検査）と、実習後指導における課題の提出および内容（お礼状、実習報告書、実習ファイル）によって評価します。
②実技・作品発表等（60 %）	実習施設より「実習態度」「子ども理解・対応」「知識・技術・判断」において全14項目から評価していただきます。
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考]	
この科目を履修するためには、「保育実習指導Ⅰa（保育所）」を履修しなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-70

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅰb（児童福祉施設）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	80 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 多職種と連携して行う保育者や職員の生活支援に対する観察や生活への参加を通して、子どもや利用者の理解を深める。					5
2. 実習施設におけるPDCAサイクルの取り組みについて理解する。					
3. 実習に必要な記録の書き方を身につける。					
[授業全体の内容の概要]					
各学生を乳児院、児童養護施設、児童発達支援センター、障がい児入所施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障がい者支援施設、障がい福祉サービス事業所に振り分け、実習をおこなう。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 実習施設の社会的役割、機能、職務内容、子どもや利用者の生活の様子について説明できる。					
2. 保育者としての職業倫理について考え、子どもの最善の利益を追求した実践について討論できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
① 各実習施設の社会的役割と機能について理解する。 ・各実習施設の生活の様子と一日の流れを理解する。 ・各実習施設の社会的役割と機能について、実習を通して総合的に理解する。 ② 各実習施設の生活に参加し、観察や関わりを通して子どもや利用者を理解する。 ・子どもや利用者の発達過程や特性を理解し、子どもや利用者の思いを汲み取る。 ・子どもや利用者の思いを受けとめ、実習指導者の指導や配慮のもと、子どもや利用者との関わりを積極的に行う。 ③ 各実習施設の子どもや利用者の生活や発達過程を理解し、生活支援や生活援助の方法を理解する。 ・保育者や職員の行う生活支援の方法を観察し、実践する。 ・各実習施設の生活に参加することを通して、子どもや利用者一人一人の様子や保育者の関わりを観察し、実践する。 ④ 各実習施設のPDCAサイクルに基づく取り組みについて理解する。 ・活動や援助における計画の必要性について理解する。 ・記録に基づく省察や自己評価をする。 ⑤ 各実習施設の職務内容や多職種との連携、職業倫理について理解する。 ・各実習施設の職務内容を実践的に理解する。 ・多職種との役割分担や連携について理解する。 ・人権を尊重し、倫理観をもった関わり方を理解する。 ・安全や健康への配慮を身につける。					※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導Ⅰb（児童福祉施設）で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習時間外に実習日誌を作成します。（各日2～3時間程度）
[使用テキスト]					
実習運営委員会、『実習ガイドブック』，2024，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（60％）		実習施設による「実習態度」「知識・技術・判断」に関する項目について評価する。			
②実技・作品発表等（40％）		実習日誌と実習報告書によって評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験（％）					

②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導をおこないます。	
[備考]	
・この科目は「保育実習指導Ⅰb（児童福祉施設）」と合わせて履修することが必要です。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-71

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教職論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 深見 俊崇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験		幼免必修／資格必修			
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーに掲げられる「専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる」「社会のあり方について考える・実践する」を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職のあり方を考察することを通して、自身の適性を判断したり、進路選択の方向性について検討したりすることをねらいとする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 社会・文化的環境の変化に伴い、保育ニーズは年々多様化しており、幼稚園教諭・保育士等の保育者の役割と責務はますます重要なものとなっている。本科目では、主に幼稚園教諭の役割、責務、専門性、倫理などを理解した上で、改訂された幼稚園教育要領の方向性を学びながら、これから求められる教職（保育職）のあり方を検討していく。それらを基に教育実習をはじめとするそれぞれの科目の学びの基盤を形成していく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 公教育としての保育の役割とそれを担う幼稚園教諭・保育士の職務内容を具体的に説明できる。 2. 幼稚園教諭・保育士の専門性と求められる倫理について具体的に説明できる。 3. 歴史的な背景を踏まえながら、現在求められる教職（保育職）の役割について説明できる。 4. 講義内容を踏まえて、目指すべき保育者像を形成し、それを言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 保育者の存在意義と役割			予習（テキスト第1章）（1時間程度）		
2) 期待される保育者像			予習（テキスト第2章、第3章） （1時間程度）		
3) 幼稚園教諭・保育士の要件と責務			予習（テキスト第3章、第4章） （1時間程度）		
4) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（幼稚園教諭の仕事）			予習（テキスト p.42-44，資料） （1時間程度）		
5) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（保育士の仕事）			予習（テキスト p.40-42）（1時間程度）		
6) 幼稚園教諭・保育士に求められる資質能力【ディスカッション】			予習（テキスト第6・7章）（1時間程度）		
7) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（保護者との協働）【ディスカッション】			予習（テキスト第10章）（1時間程度）		
8) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（園内外との連携・協働：チーム学校） 【ディスカッション】			予習（テキスト第11章）（1時間程度）		
9) 保育職の歴史と保育者観（欧米）			予習（『保育原理』32-41）（1時間程度）		
10) 保育職の歴史と保育者観（戦前）			予習（『保育原理』41-43，48-50，63-67） （1時間程度）		
11) 保育職の歴史と保育者観（戦後）			予習（『保育原理』50-59，67-77） （1時間程度）		
12) 新しい幼稚園教育要領等で目指すべき保育の方向性			予習（幼稚園教育要領）（1時間程度）		
13) 現代的課題と保育職の役割（グローバル化、保育ニーズの変化）【ディスカッション】			予習（テキスト第13章）（1時間程度）		
14) 現代的課題と保育職の役割（子育て支援等）【ディスカッション】			予習（子育て支援資料）（1時間程度）		
15) 学び続ける保育職を目指して			これまでの授業の復習（1時間程度）		
[使用テキスト] 佐藤哲也編『子どもの心によりそう保育者論【改訂版】』福村出版 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館					
[参考文献] 『保育小事典』大月書店					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（40％）		授業中のワーク，振り返り，オンライン小テスト			

②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆 記 試 験 (60 %)	筆記による試験
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回のコメントをまとめたプリントを配布し、解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-20

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 幼児と表現		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター	幼免必修／資格必修
☒ 実務経験	元保育士の観点から、幼児の表現活動における保育の実際や実践等について伝えます。（増原）					
[授業の目的・ねらい] 幼児の表現を支える保育者としての感性や創造性を養うことを目的とする。						主に対応する D P 1
[授業全体の内容の概要] 幼児の表現を理解し、領域「表現」の内容を踏まえ、幼児の感性や創造性を豊かにするための、知識・技能・表現力を体験的に習得する。また、自然・生活・人的環境から、身体性を喚起し豊かな感性につなげる。そして、豊かな感性、幼児の生活や遊び、様々な児童文化財から表現活動を構想し、多様な表現活動を展開する。これらの活動を通して、幼児の表現に適した表現方法や表現材料を理解し、表現技術を習得し、表現力の向上を図る。活動の中では相互に学び合う協働的な学習を目指し、表現活動・作品・発表などに ICT を積極的に活用する。さらに、幼児の表現活動と小学校教科との連続性の視点を取り入れる。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①領域「表現」の位置づけや、幼児期における表現に着目した発達過程および表現の特性を説明することができる。 ②幼児期の様々な表現を体験することを通して、基礎的な知識、技能を習得する。 ・五感や身体感覚に働きかける表現活動を通して、多様なイメージを持って表現活動を考えることができる。 ・表現技法や表現材料の特性を活かして表現活動を行い、表現することの楽しさを感じ取ることを通して、表現に必要な知識、技術を習得する。 ・自分たちで考えたり、つくりあげたりした表現の鑑賞を通して、自己の表現を振り返り、他者の表現に共感し、より豊かな表現活動を構想することができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を理解し、学習の見通しを持つ。 表現：領域「表現」のねらいおよび内容を理解し、ワークシートにまとめる。【加藤】				テキストの該当箇所読んでおく。（1 時間）		
2) 音楽・造形表現①：音を想像、創造する活動 身の周りの音集めをし、集めた音のカタログ作りを行う。集めた音のイメージを絵に描き、自然物や廃材、楽器等を用いた音の表現を考える。【長島】						
3) 音楽・造形表現②：音を想像、創造する活動 第 2 回で描いた絵からイメージされる音づくりを考え、音の再現に向けて準備する。音づくりを行う際、身近にある自然物、生活素材、楽器等を用いた音楽表現にする。【長島】				第 2 回で絵が完成できなかった場合は完成させておくこと。音の表現をするために使用する自然物や生活素材、廃材などを準備しておくこと。（1 時間）		
4) 音楽・造形表現③：これまでに創作した造形表現・音楽表現の発表グループごとに発表をする。第 2～3 回の創作活動と発表の振り返りを行いながら、子どもの音楽表現について理解を深める。【長島】						
5) 言語・身体表現①：絵本『もこ もこもこ』を見て、その世界観について多角的にイメージを広げる。イメージした内容を他者と共有し、グループごとに一つの表現にまとめる。【増原】						
6) 言語・身体表現②：第 5 回で構想した内容について更に見直しを行うとともにグループごとに練習する。【増原】						
7) 言語・身体表現③：相互に発表・鑑賞することで多様な表現とその世界観を味わう経験をする。その後、相互発表を振り返り、表現の多様性と幼児の表現を認める視点について考えを深める。【増原】				第 6 回でグループの練習が完了しなかった場合は時間外で打ち合わせをしておくこと。		
8) 発達:造形表現の発達を、幼児の絵や製作物の事例をもとに、幼児の表現の特徴を考察し、ワークシートにまとめる。【加藤】				テキストの該当箇所読んでおく。（1 時間）		
9) 自然環境と表現活動①〈グループ〉：光と影を用いた表現活動を構想し、スマートフォンで撮影をする。屋内と屋外（大学敷地内）で 2 種類の作品をつくる。【加藤】				事前にグループを編成し、主題と撮影場所を考えておく。（1 時間）		

10) 自然環境と表現活動②〈グループ〉：光と影を用いた作品を鑑賞し、発想のよさや表現の工夫を感じ取る。【加藤】	第9回で撮影した画像をグループで共有しておく。(1時間)
11) 自然環境と表現活動③〈グループ〉：第9回で撮影した画像をwordに挿入し、表現活動と鑑賞のまとめを作成する。【加藤】	スマートフォンで撮影した画像をPCに取り込めるようにしておく。(1時間)
12) 多様な表現活動①：多様な表現活動①：折りの要素を用いた表現活動を行い、作品を学内空間に展示する。展示した作品を鑑賞し、表現のよさを感じ取る。【加藤】	
13) 多様な表現活動②：絵具と紙を用いた伝統的な表現をする。【加藤】	
14) 多様な表現活動③：絵具と紙を用いてモダンテクニックの技法で表現する。【加藤】	
15) 多様な表現活動④：第13回と14回の製作物を用いてコラージュの技法で表現する。【加藤】	
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林	
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(85%)	【加藤担当回】(60%) ワークシートの記述(15% 第1回、第8回、第11回) 作品・製作物(45% 第9回、第12回、第15回) 【増原担当回】(15%) 第5～7回における構想ワークシートの提出と内容(5%)、 気づき・振り返りワークシートの提出期限厳守と内容(10%) 【長島担当回】(10%) 製作物(5%)、振り返りシート(5%)
②実技・作品発表等(15%)	【増原担当回】(5%) 『もこもこもこ』の言語・身体表現発表 【長島担当回】(10%) 発表
【定期試験】	
①筆記試験(%)	
②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ワークシートにコメント付して返却する。作品は鑑賞時に講評する。【加藤】 第5～7回の発表後に身体表現についてのポイントと観点についてコメントする。【増原】 グループ発表の後に総評・コメントをする。振り返りシートにコメントを記述して返却する。【長島】	
[備考] ハサミと糊(スティック糊)を準備する	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-33

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 幼児と言葉		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 増原 真緒・橋本 祐治		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター	幼免必修/資格必修
☒ 実務経験	保育士（増原）および小学校教諭（橋本）の経験を活かし、領域「言葉」の視点から保育の実際や幼児期の言葉について伝えます。					
[授業の目的・ねらい] ・保育・教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について、その位置づけと内容を理解する。 ・子どもの言葉の発達と保育者の援助について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して保育にあたる力を身に付ける。						主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 担当教員による講義内容を基に、学生自身が実践的に領域「言葉」の構造および保育現場において必要な視点について学びを深める。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・保育および幼児教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について、その位置づけと内容を理解する。 ・子どもの言葉の発達と保育者の援助について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して子どもに関わることができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) ・保育における「言葉」とは (領域「言葉」のねらい及び内容について学ぶ) 使用テキスト：①②						
2) ・乳幼児における子どもの言葉の発達 使用テキスト：②						
3) ・おはなしのそうぞう（絵本からのおはなしづくり）① ・子どもをとりまく「言葉」の環境 使用テキスト：②						
4) ・おはなしのそうぞう（1枚の絵からのおはなしづくり）② ・保育者の言葉の影響と子どもの言葉を豊かにする関わり・援助						
5) ・想像から豊かな言葉への関連と影響 ・豊かな経験の重要性						
6) ・話し言葉と書き言葉（ことば遊びの演習）						
7) ・幼稚園から小学校への繋がり ・教材活用の実践① (パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター等の活用方法)						
8) ・教材活用の実践②（紙芝居の種類、その意義と活用方法） ・子どもの声を「きく」こと ・領域「言葉」をどう捉えるか（最終レポート：到達度の確認）				※期日までに最終レポートを完成させ、提出すること。（2時間程度）		
[使用テキスト] ① 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』，2018，フレーベル館 ② 望月雅和、『子育てとケアの原理』新版，2022，北樹出版 ・その他、適宜資料を配布する。						
[参考文献] ・内藤知美，『コンパス 保育内容 言葉』，2017，建帛社 ・田中謙，『デザインする保育内容指導法「言葉」』，2019，教育情報出版 ・大越和孝ほか，『保育内容「言葉」 言葉とふれあい，言葉で育つ』，2018，東洋館出版社 ・秋田喜代美，『子どもの姿からはじめる領域・言葉』，2020，みらい ・小櫃智子ほか，『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2017，わかば社						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（100％）		第3－4回:お話づくりワークシートの提出および内容（20％），全回終了後のファイル提出（提出の有無，資料の有無，メモの記載が評価ポイント）（50％）全回終了後の総合レポートの内容（30％）を総合的に評価します。				
②実技・作品発表等（ ％）						

【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
各回の授業の最後に質問および解説の時間を設けます。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-34

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 幼児と環境		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 高橋 泰道・加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかかわりを理解できるようにする。また、実際に身近な自然や素材を活用したもののづくりや遊びを通して素材研究ができるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。 (2) 身近な自然や素材を使った遊びをつくり、製作することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 乳幼児の遊びと領域「環境」 ・身近な自然・生き物・文字や記号・数量と形等の概要を理解する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。(1 時間)		
2) 身近な自然と身近な素材、原体験、数量理解(学外フィールドワーク) ・学外で季節の特徴を生かした自然物採集体験を行う。			身近な自然や身の回りの素材や、それらを使った遊びについてイメージする。(1 時間)		
3) 身近な自然や素材を使った遊び①(空気や風)(春の草花、空気や風)(グループワーク)・採集した自然物を遊びにつなげる体験をする。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
4) 身近な自然や素材を使った遊び②(木の実や落ち葉、土)(グループワーク)・季節の特徴を生かした体験活動から気づいたことについて話し合い、共有する。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
5) 身近な自然や素材を使った遊び③(ゴムやおもりを使ったおもちゃ)(グループワーク)・身の回りの物を遊びにつなげる体験をする。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
6) 身近な自然や素材を使った遊びづくり①(計画、製作)(グループワーク)・身近な自然や素材を使った遊びをグループで考える。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
7) 身近な自然や素材を使った遊びづくり②(製作、発表準備)(グループワーク)・身近な自然や素材を使った遊びをグループで考え、製作する。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
8) 製作課題の発表・振り返り(プレゼンテーション)・グループで製作物を発表し合い、活動を振り返る。			プレゼンテーションを完成させる。(1 時間)		
[使用テキスト] 上中 修編(2023)『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版					
[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(20%)		授業内で課した振り返りシートの提出とその内容で評価をします。			
②実技・作品発表等(40%)		授業内で課した課題の提出物とその内容で評価をします。			
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(40%)		領域「環境」について、子どもと人・自然とのかかわりについての理解や、身近な自然や素材を活用したもののづくりや遊びを通しての素材分析力等について評価します。			
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 提出課題について、そのポイントを授業後に解説する。					

[備考]質問，相談等ある場合には，GoogleClassroom で連絡する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-35

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 幼児と健康		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 中谷 昌弘		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター	幼免必修／資格必修
☒ 実務経験	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。					
[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を踏まえ、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について理解する。						
主に対応するDP 1						
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について学修する。健康管理や安全教育に関する内容では、健康で安全な生活を営む力を身につける保育・教育のあり方を学修すると共に、子どもの生活リズムと睡眠、生活習慣の形成や病気の予防、安全への配慮、子どもの事故の対応について理解を深める。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域についてのねらいと内容について理解することができる。 (2) 子どもの身体発達、運動発達等について特徴と意義を理解することができる。 (3) 子どもの健康管理や安全教育に関わる指導の観点について理解することができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]	
1) 保育指針・教育要領・教育保育要領にみる、領域「健康」のねらいと内容						
2) 子どもの健康課題と健康の定義、意義						
3) 子どもの体の諸機能発達と特徴						
4) 子どもの運動発達の特徴と意義の理解						
5) 子どもの事故、事故とその処置及び安全への配慮とけがの予防						
6) 子どもの生活習慣の形成及び病気の予防、紫外線対策						
7) 子どもの生活リズムと睡眠、食、排泄						
8) 子どもの健康に関する課題と展望・まとめ						
[使用テキスト] ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
[参考文献] 必要に応じてプリントなどを配布						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
① 到達度の確認（ %）						
② 実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
① 筆記試験（ %）						
② レポート（100%）		毎回授業に行う 8 回の確認テスト				
③ 実技試験（ %）						
④ 面接試験（ %）						
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ・提出された課題レポートについて講義時に解説し、フィードバックを行う。						
[備考] ・グループワーク、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。						

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
保育内容（表現）		演習		増原 真緒・加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
		幼免必修／資格必修			
☒ 実務経験	保育士の経験を活かして保育内容「表現」における保育の実際と計画について伝えます。（増原）				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
「幼児と表現」で行った表現活動を踏まえ、子どもの表現に即した活動を計画し、指導案の作成から実践を通して幼児期の表現活動を支えるための知識・技能・表現力を身に付ける。					1
[授業全体の内容の概要]					
① 保育所・幼稚園・認定こども園における表現活動の事例を調査・発表する。					
② 子どもの表現活動について指導案を作成し、模擬保育を実践した後、振り返りから自己省察する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
① 造形・言語・身体・音楽等の表現を総合的に捉え、多様な表現の良さを活かして保育に活用することができる。					
② 保育所・幼稚園・認定こども園における表現活動を知り、活動を計画することができる。					
③ 指導案の作成から模擬保育の実践とその振り返りを通して、保育の表現活動における計画をする際の一助とすることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) ・オリエンテーション【主：加藤】 ・保育における表現活動①（グループワーク／ICT）：保育現場における表現活動の事例と小学校の教科等のつながりを、インターネットを活用して調査し、その結果をワークシートにまとめる。					
2) ・保育における表現活動②（グループワーク／ICT）【主：加藤】：調査した内容を発表する。各グループの発表から、保育現場における表現活動の事例と小学校の教科等のつながりをワークシートにまとめる。					
3) 保育の計画・指導案の作成①（グループワーク）【主：増原】 各グループで造形・言語・身体・音楽表現それぞれを主の活動とし、他の表現の要素を加味した表現活動についてグループごとにオリジナル要素の工夫点を検討し、子どもの発達や興味・関心に応じた指導案を作成する。					
4) 指導案の作成②（グループワーク）【主：増原】 作成した指導案の内容を教員による添削指導の内容に基づいて再考・修正する。				第 3 回で作成に取り組んだ指導案は指定された期日までに提出すること。（0.5～1 時間程度）	
5) 教材研究および模擬保育の準備（グループワーク）【主：増原】 指導案の内容に即して、大きさや素材など教材の研究をすることで教材観を高める。模擬保育に必要な用具・材料、楽器等を準備する。模擬保育にむけて事前準備および流れの確認やリハーサルをする。					
6) 模擬保育①（グループワーク／ICT）【増原，加藤】 グループごとに模擬保育を行う。				模擬保育の実施に向け、グループ内で各自分担して事前準備に取り組む。（0.5～2 時間程度）	
7) 模擬保育②（グループワーク／ICT）【増原，加藤】 グループごとに模擬保育を行う。 個別に模擬保育の振り返りおよび教員による総評					
8) まとめ【主：増原】 グループごとに自己評価を行い、模擬保育の振り返りをする。 授業全体の振り返り				※第 8 回授業で活用できるよう第 6～7 回の模擬保育についての振り返りシートを完成させる。（0.5 時間）	
[使用テキスト]					
・文部科学省、『幼稚園教育要領解説』，2018，フレーベル社					
・上野奈初美、『表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く』，2020，萌文書林					
・実習運営員会、『実習ガイドブック』2024，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）					

[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（80％）	第1～2回:表現活動調査の提出および内容（30％），第3～4回:指導案の提出および内容と修正（30％），第6～8回:模擬保育の気づき・振り返り用紙の提出及び内容（20％）を総合的に評価します。
②実技・作品発表等（20％）	第6～7回:模擬保育の保育者役および子ども役について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・第1～2回の表現活動後のワークシートにコメントを記述する。 ・指導案は第3回に提出されたものを添削する。 ・模擬保育の様子は第7回にコメントをする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-39

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
保育内容（言葉）		演習		増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
		幼免必修/資格必修			
☒ 実務経験	元保育士の経験から、「言葉」に着目した保育内容の構造や計画と実践についてお伝えします。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
・保育・教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について理解した上で、主体的かつ対話的な関わりを意識した保育における言葉の指導法を身に付ける。 ・子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活かし方と実践について知識を深め、言葉遊びの指導・実践するための力を身に付ける。					1
[授業全体の内容の概要]					
担当教員による講義および演習を基に、学生自身が実践的に言語表現技術および児童文化財について学びを深め、それらを活用した指導案作成や模擬実践に取り組む形で授業を構成する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）]					
・子どもに対する保育者の援助や言語表現技術について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して言語表現を用いた実践にあたることができる。 ・子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活かし方と実践について知識を深め、指導案の作成および保育における言葉遊びの指導・実践に活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ガイダンス：領域「言葉」とは(確認) ・言語表現技術の習得：絵本の役割と活用の実践（種類，その意義と活用方法）					
2) ・言語表現技術の向上①：ゲストスピーカー（わらべうたの実践）					
3) ・「言葉」に着目した指導案の作成方法の教示 ・保育における導入					
4) ・指導案の作成			※第4回から，第6～7回で実施する模擬保育までに指導案の作成をしますが，教員による添削指導および学生自身の修正作業は授業外の時間に個別に行います。提示された最終提出日に間に合うよう計画的に作成および修正作業に取り組んでください。（1～3時間程度）		
5) ・言語表現技術の向上②（手遊び，音と声を使ったふれあい遊びと身体遊び）					
6) ・作成した指導案に基づいた模擬保育の実施①（保育者役と子ども役に分かれて順に，手遊びおよび絵本の読み聞かせを行う）					
7) ・作成した指導案に基づいた模擬保育の実施②（保育者役と子ども役に分かれて順に，手遊びおよび絵本の読み聞かせを行う） ・模擬保育の振り返りおよび教員からの総評					
8) ・作成した保育指導案を他者とディスカッションし，記述方法と内容の検討から理解を深める。〈グループワーク・ディスカッション〉 ・まとめ：言葉遊びについての指導案と保育の展開の実践（最終レポート）			※期日までに最終レポートを完成させ，提出すること。（1～2時間程度）		
[使用テキスト]					
・実習運営委員会，『実習ガイドブック』，2024，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス） ・「幼児と言葉」でまとめた資料ファイル ・その他，適宜資料を配布する。					
[参考文献]					

・小櫃智子ほか、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2017，わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（60％）	ゲストスピーカー招聘回の振り返りの提出および内容（10％），指導案の提出および内容と修正（20％），模擬保育振り返りの提出及び内容（10％）を総合的に評価します。全回終了後に総合レポートの期限内提出および記述内容にて評価します。併せて「幼児と言葉」から続けて使用するファイルを提出することで，その内容（資料のファイリング，メモの有無等）に基づいて5点まで加点します。
②実技・作品発表等（40％）	第6～7回の模擬保育について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・指導案は第4回授業後に提出されたものを個別に添削指導するとともに，第8回において評価および作成ポイントについてコメントする。 ・模擬保育については第7回の実施後にコメントをする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-40

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
特別支援教育論		講義		原 広治	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
☑ 実務経験	特別支援教育の実践や教育行政の経験を活かし、子どもと周囲のヒトモノコトとの関係から論ずる。				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
特別支援教育を進めていく上で必要な子ども理解と指導・支援の実際について総論的に理解し、基礎的内容を説明できる。また、保護者や関係諸機関との連携の重要性がわかり、そのための実践が提案できる。					1
[授業全体の内容の概要]					
障害だけでなく、特別な教育的ニーズのある子どもに対する尊厳を重視したかかわりや指導・支援の在り方を、講義と演習により概観するとともに、実際の教育現場での観察をとおしてインクルーシブ教育への理解を深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
特別な教育的ニーズやインクルーシブ教育について解説できるとともに、子どもや保護者にかかわる際の配慮事項（重要事項）を、具体的な例を示しながら説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障害のある子どもの保育の歴史的変遷と障害児施策			障害や障害のある人に関する新聞・雑誌記事の要約と、それに対する意見・感想を 300～400 字程度にまとめておくこと。（1 時間）		
2) 発達と障害の捉え直しと支援の視点					
3) 障害のある子どもへのかかわり①（グループワーク）					
4) 障害のある子どもへのかかわり②（グループワーク）					
5) 障害のある子どもへのかかわり③（プレゼンテーション、ディスカッション）					
6) 障害のある子どもへのかかわり④（プレゼンテーション、ディスカッション）					
7) 様々な障害の理解と配慮①（グループワーク）					
8) 様々な障害の理解と配慮②（グループワーク）					
9) 様々な障害の理解と配慮③（プレゼンテーション、ディスカッション）					
10) 様々な障害の理解と配慮④（プレゼンテーション、ディスカッション）			担当する障害のまとめの完成（1 時間）		
11) 発達障害のある子どもの理解と援助					
12) 一人一人に応じた保育計画					
13) 職員間の協働・同僚性と他機関との連携					
14) 就学支援と学校との接続					
15) 授業全体のまとめ					
[使用テキスト]					
障害のある子とともに歩んだ 20 年（ミネルヴァ書房）					
[参考文献]					
シリーズ発達と障害を考える本（ミネルヴァ書房）、最新保育講座 15「障害児保育」（第 2 版）（ミネルヴァ書房）					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ 100%）		全授業の終了後に提出するレポートを含め、ポートフォリオで評価する。			
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
レポート課題の解答ポイントを、試験期間終了後に示す。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-30

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 調理実習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 永見 葉子		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター	選択必修
☒ 実務経験	病院、老人保健施設での大量調理勤務経験や離乳食調理実習経験を活かし、具体的なレシピを元に調理を通して子どもの食管理を理解させる。					
[授業の目的・ねらい] 子どもの発達における食の問題点や留意点を保育士の視点で理解、配慮し衛生管理を意識して実習できる					主に対応するDP 1	
[授業全体の内容の概要] 間食・離乳食・幼児食・アレルギー対応食・偏食対策・行事食・郷土食の調理						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ① 子どもにとって安全な食（サイズ、物性、衛生管理。アレルギー対策）を意識して調理に反映できる ② 郷土食を学習し、作業性、コスト、栄養面、季節を考慮しつつ献立作成、買い出し、調理できる						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]			
1) 調理実習の注意点、衛生管理、食材の切り方、献立の基本（座学）						
2) おやつ意義・必要性（実習）						
3) 同上						
4) 離乳食（前期・中期・後期）の必要性・調理の留意点（実習）						
5) 同上						
6) 幼児期の食生活と栄養・調理の留意点 食事摂取基準（実習）						
7) 同上						
8) 子どもの偏食対応について学習（実習）						
9) 同上						
10) アレルギー対策 代替食品の選択について（実習）						
11) 同上						
12) 行事食・食文化の理解と盛り付けの工夫（実習）			行事食の盛り付けの工夫をまとめる（1 時間）			
13) 同上						
14) 食文化・郷土食（実習）			郷土食の調査まとめ、献立作成、買い出し（1 時間）			
15) 同上						
[使用テキスト] なし（講師作成献立・資料を使用）						
[参考文献] 「子供の食と栄養」「あんしん、やさしい離乳食離乳オールガイド」						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
① 到達度の確認（ %）						
② 実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
① 筆記試験（ 100%）		レポートタイプの形式で試験日に実施				
② レポート（ %）						
③ 実技試験（ %）						
④ 面接試験（ %）						
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] レポートを添削し返却						

[備考]

いきいきプラザ島根調理実習室にて実施

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-53

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
子どもの造形表現		演習		加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するD P
子どもの育ちを支える人となるために、造形の知識にもとづき、主題、表現材料・表現技法に応じて心豊かに表現し、作品を鑑賞して表現のよさや工夫を感じ取り、保育・幼児教育における造形表現の技能を習得し、造形表現活動の意義を考察することを目的とする。					1
[授業全体の内容の概要]					
子どもの造形表現活動に適した表現と鑑賞の活動を通して、感性を磨き、造形表現技能を習得し、表現のよさを感じ取る。表現活動は、個人とグループで、表現材料や表現技法に応じた様々な表現を行う。作品を展示したのち鑑賞する。以上のことを通して、保育・幼児教育における造形表現活動の意義を考察し、レポートを作成する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
①表現…主題、表現材料・表現技法の特性に応じて表現できる。					
②鑑賞…表現のよさや工夫を感じ取り、記述し、話し合い、発表できる。					
③まとめ…表現と鑑賞の活動を通して、表現の意義を考察し、レポートを作成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 絵具の表現：ゆびえのぐを用いてフィンガーペインティングの技法で表現する。制作工程は記録し、活動後にワークシートに感想等を記述する（以下、6 回まで同様）。					
2) 固形の描画材と絵具の表現：クレヨンとポスターカラーを用いてパッチの技法で表現する。			主題を考え、アイデアスケッチをしておく。（1 時間）		
3) モダンテクニックの表現：ポスターカラーを用いて、スパッタリングの技法で表現する。					
4) 紙素材を用いた表現：色画用紙を用いて、はり絵の技法で表現する。			主題を考え、アイデアスケッチをしておく。（1 時間）		
5) 粘土を用いた表現：軽量紙粘土を主に用いて立体的に表現する。			主題を考え、アイデアスケッチをしておく。（1 時間）		
6) 人工素材を用いた表現〈グループ〉：カラービニールを主に用いて、コスチュームを表現する。			事前にグループを編成し、主題を考え、アイデアスケッチをしておく。（1 時間）		
7) 鑑賞：展示した作品を鑑賞し、感じ取ったことを話し合い、発表し、ワークシートにまとめる。					
8) まとめ：学習を振り返り、レポートを作成する。					
[使用テキスト]					
上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林 ※「幼児と表現」で使用					
[参考文献]					
樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 100%）		作品（75% 第1～6 回 ワークシート（10% 7 回） 授業内レポート（15% 8 回）			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			

	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
第 7 回で作品について講評する。	
[備考]	
受講人数制限あり（20 名以内）。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-62

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 地域実践演習Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行・加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 主として「子どもの居場所づくり」のためにおこなわれている活動に参加することを通して、地域における福祉活動を体験的に学ぶ。その学びを踏まえて、「子ども家庭福祉」における意義を考察する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・松江市川津公民館での主に小学 4～6 年生を対象とした夏休み活動「夏休み、なにをする？2024」の準備計画・運営・実践をおこなう。 ・松江市川津公民館でおこなわれる様々な活動にボランティアとして参加する。 ・活動の内容を振り返り、グループで発表する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①活動の背景や目的を理解し、協調的な姿勢で活動の準備計画・運営・実践をおこなうことができる。 ②実際の活動を通して、地域活動に主体的に参画することの意義を説明できる。 ③活動をもとにみえる地域課題について検討し、その課題の背景や要因について考察することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション ・授業概要の説明／ボランティアとしての心構え／自己目標の設定					
2) 「夏休み、なにをする？2024」の準備・計画① ・役割分担の決定／活動準備					
3) 「夏休み、なにをする？2024」の準備・計画② ・活動準備				授業時間以外に活動準備をおこなう (4h 程度)	
4) 「夏休み、なにをする？2024」の実践①					
5) 「夏休み、なにをする？2024」の実践②					
6) ボランティア活動への参加① ・川津ふるさと夏祭り／朝酌川川岸コスモスの種まき					
7) ボランティア活動への参加② ・川津ふるさと夏祭り／朝酌川川岸コスモスの種まき					
8) 活動報告会の準備・資料作成					
[使用テキスト] 松江市川津公民館のホームページ (https://matsue-city-kouminkan.jp/kawatu/katsudou/doc/2024021300060/)					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ 40%）		第 4 回・5 回の実践をもとに、到達目標①の評価をおこなう。			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ 60%）		グループでの活動内容の発表をもとに、到達目標②③の評価をおこなう。			
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] グループでの活動内容の発表に対し、総評をおこなう。					
[備考]					

・「夏休み、なにをする？2024」では、授業担当者で予め決定した活動に対し、準備・運営・実践を学生が主体となっておこなう。また、第6回、第7回は土曜日におこなう。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-80

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 地域実践演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行・加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 「子どもの居場所づくり」のための活動の準備・運営を通して、地域における福祉活動を実践的に学ぶ。 その学びを踏まえて、「子ども家庭福祉」における意義を考察する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・「子どもの居場所づくり」の必要性や取り組みの実際について講話を通して学ぶ。 ・春休み中の「子どもの居場所づくり」の活動を企画・準備し、運営にあたる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①活動の背景や目的を理解し、協調的な姿勢・態度、責任感をもって活動に取り組むことができる。 ②「子どもの居場所づくり」のための活動の意義を社会的な背景を踏まえて考察できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション ・授業概要の説明／自己目標の設定					
2) 「子どもの居場所づくり」の必要性、取り組みの実際 ・外部講師による講話 (松江市社会福祉協議会より)					
3) 活動計画の作成、グループ分け					
4) 活動準備・教材研究①				グループごとに活動準備を授業時間外でおこなう。準備にあたって教員が直接指導する場合がある。(30 時間)	
5) 活動準備・教材研究②					
6) プレ発表					
7) 春休み中の居場所提供① (3/24 または 3/25)				プレ発表をふまえて準備をおこなう。	
8) 春休み中の居場所提供② (3/24 または 3/25)				(5 時間)	
[使用テキスト] 湯浅誠, 『つながり続けるこども食堂』, 2021, 中央公論新社.					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (50%)		到達目標①について第7回～第8回の実践によって評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (50%)		到達目標②について評価する。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] グループでの活動内容の発表に対し、総評をおこなう。					
[備考] ・「春休み中の居場所提供」には、活動の反省会や準備等の時間も含む。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-81

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップ教育Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につける。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第1段階と位置づけ、キャリア教育における基礎的・汎用的能力のうち、主に人間関係形成・社会形成能力と自己理解・自己管理能力を育成し、協働して課題解決に臨むことを通して、新しい出会いから始まる人間関係を築き、自己理解に基づいたキャリアデザインを考える。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①自己理解を深めることができる。（第1回～3回） ②労働に関する知識を深め、労働について考えることができる。（第4回～5回） ③就職や進学を想定した事業所や学校等を調べ、まとめることができる。（第6～7回） ④自己理解に基づいたキャリアデザインを考え、レポートを作成することができる。（第8回）					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 自己理解①：自分の長所や強みをワークシートにまとめる。			自覚している自分の長所や強みを3つ考えておく。（1時間）		
2) 自己理解②〈グループワーク〉：グループに分かれ、自己紹介をしながらコミュニケーションをとることを通して、自覚していなかった自身のよさに気づき、新たに発見した自分の長所や強みをワークシートにまとめる。			自分の長所や強みを踏まえた自己紹介を考え、話すことができるようにしておく。（1時間）		
3) 自己理解③〈ゲストスピーカー〉：外部講師（キャリアコンサルタント）の講義を通して自己理解を深める。					
4) 労働法①〈グループワーク〉：グループに分かれ、労働法を調べ、協働してワークシートにまとめる。					
5) 労働法②〈ゲストスピーカー〉：外部講師（社労士）の講義を通して、労働についての知識を深める。					
6) 事業所研究①〈グループワーク〉：グループに分かれ、保育や教育に関わる施設の種類の調べ、ワークシートにまとめる。					
7) 事業所研究②：就職あるいは進学希望先を調べ、ワークシートにまとめる。 進路就職希望調査：調査票に記入・記述する。			就職希望先の事業所あるいは進学希望先の学校などのHPを閲覧しておく。（1時間）		
8) まとめ：学習を振り返り、自己理解にもとづいたキャリアデザインを考え、レポートを作成する。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）		ワークシート（70%、第1～7回） 授業内レポート（30%、第8回）			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					

平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
第8回でまとめてフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-82

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップ教育Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] キャリア教育の第2段階と位置づけ、キャリア教育における基礎的・汎用能力のうち、主にキャリアプランニング能力を育成する。専門職の課業の考察と事業所研究を通して職業観を培い、自己理解と職業理解に基づき、就職先や進学先を想定した履歴書を作成する。次年度の就職活動や進学準備を踏まえたキャリアデザインを考える。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につける。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①専門職の課業について理解を深めることができる。 ②就職先や進学先を調べ、概要をまとめることができる。 ③就職先や進学先を想定して、自己PRと志望動機を考え、履歴書を作成することができる。 ④就職先や進学先を想定したキャリアデザインを考え、レポートを作成することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 職業理解①：社会人基礎力を自己分析し、ワークシートにまとめる。					
2) 職業理解②：保育者の課業を分析し、ワークシートにまとめる。					
3) 事業所研究①：就職あるいは進学希望先を調べ、ワークシートにまとめる。 進路就職希望調査：調査票に記入・記述する。				就職あるいは進学希望先を3つ程度考えておく。（1時間）	
4) 履歴書①：履歴書の記入・記述事項を確認し、氏名・学歴（職歴）・資格等をワークシート（履歴書）に記入・記述する。				学歴（職歴）、取得している資格について調べておく。（1時間）	
5) 履歴書②：自分の長所や強みを踏まえた自己PRと、資格等をワークシート（履歴書）に記述する。				「キャリアアップ教育Ⅰ」の学習を踏まえて、自己PRの文章を考えておく。（1時間～2時間）	
6) 履歴書③：就職希望先を想定した志望動機をワークシート（履歴書）に記述する。				事業所研究（第3回）の学習を踏まえて、志望動機の文章を考えておく。（1時間～2時間）	
7) 事業所研究②：実習先の保育の特色をまとめ、発表する。発表者以外は、各施設の特色をワークシートにまとめる。					
8) まとめ：学習を振り返り、自己理解と職業理解にもとづいてキャリアデザインを考え、レポートを作成する。				返却されたワークシートをまとめておく。（1時間）	
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）	ワークシート（40%、第1～3・7回） 履歴書（30%、第4～6回） 授業内レポート（30%、第8回）				
②実技・作品発表等（ ）%					
【定期試験】					
①筆記試験（ ）%					
②レポート（ ）%					
③実技試験（ ）%					
④面接試験（ ）%					
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
第8回でフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-83

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育基礎ゼミⅠ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター 卒業必修
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 大学生としての基本的な学習姿勢を身に付ける。入学前教育で取り組んだ課題を元にレポートの書き方を身に付けるとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを効果的に実施するための留意点を、演習を通じて学ぶ。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解と内容の要約、レポートの記述、ディスカッション等）を習得させることを目指し、複数の教員が分担して授業をおこなう。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 課題に応じた情報や文献を検索・収集することができる。 2. 情報や文献を読解し、内容の要約やレポートを作成することができる。 3. レポートでまとめたことを他者にわかりやすく伝えることができる。 4. 個々の役割を意識し、話し合いをすることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) アイスブレイク／自律的な学びのための心構え／情報の整理 ・大学生としての基本的な学びの姿勢を理解する。 担当者：増原・舟越・長島					
2) 授業前後の情報収集の仕方と情報の整理 ・図書館の利用、文献検索の方法、情報収集の方法について理解する。 ・図書館司書による講義 担当者：加藤					
3) 情報収集の仕方と情報の整理 ・文献を読み解く際に必ず押さえるポイントを理解する。文献の内容をノートに記録する方法を確認する。 担当者：加藤					
4) レポートの作成①：レポートの枠組み ・大学の授業で課されるレポートを理解する。テーマ設定からレポート作成に至る手順を学ぶ。 担当者：堅田					
5) レポート作成②：文献の活用と注意事項 ・文献の内容をどのようにレポートに記述するのかを学ぶ。レポート作成における注意事項を学ぶ。 担当者：堅田					
6) 論証の方法① ・論証とは何か、よい論証と悪い論証について理解する。 担当者：加藤					
7) 論証の方法② ・演繹席論証、帰納的論証、アブダクション、仮説演繹法、アナロジーについて学ぶ。 担当者：加藤					
8) レポート作成③：レポート課題の作成 ・入学前教育をもとに指定された課題に対するレポートを作成する。 担当者：堅田					
9) レポート作成④ ・提出したレポートの添削をもとに、レポートに修正を加える。					

担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	
10) プレゼンテーション① ・プレゼンテーションの基本を学ぶ。作成したレポートをもとに発表用のレジュメを作成する。 担当者：長島、舟越	
11) プレゼンテーション② ・パワーポイントでの資料作成の基本を学ぶ。講義をもとにパワーポイント資料を作成する。 担当者：長島、舟越	
12) プレゼンテーション③ ・グループに分かれてプレゼンテーションをおこなう。（個人発表） 担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	発表のための準備と練習をおこなう。（2 時間）
13) グループディスカッション① ・グループディスカッションの意義や目的について理解する。 担当者：増原、堅田	
14) グループディスカッション② ・指定したテーマについてグループディスカッションをする。 担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	
15) グループディスカッション③ ・指定したテーマについてグループディスカッションをする。 担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科、『レポート作成の手引き』 保育・幼児教育学科、『2024 年度入学生 入学前学習 学習用テキスト』，2023. 中坪史典他，『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』，2021，ミネルヴァ 書房.	
[参考文献] 戸田山和久，『新版 論文の教室』，2018，NHK 出版. 野田晴美他，『グループワークで日本語表現力アップ』，2016，ひつじ書房.	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 40%）	第 8 回・第 9 回で提出するレポート
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ 60%）	グループディスカッションのテーマに関するレポート課題によって評価する。
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポートの評価のポイントを掲示する。	
[備考] ・第 8 回～第 12 回は各自ノートパソコンを準備すること。但し、第 10 回～第 12 回において、所有するノートパソコンに「PowerPoint」がインストールされていない場合は、事務センターに大学のパソコンの貸し出しを申し出ること。 ・B5 もしくは A4 サイズのノート（大学ノート）を準備することが望ましい。 ・各回の授業終了後に課す「振り返りシート」の提出を平常点評価とする。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-S-50-86

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育基礎ゼミⅡ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもを取り巻く社会の仕組みを理解し、その課題やあり方について研究し、提案するために、次のことを目的・ねらいとする。 1. 保育・幼児教育・子育て支援に関する身の回りの現象や問題に気づき、児童福祉・幼児教育の課題として設定できる。 2. 設定した課題について、問題解決に向けた研究の方法を理解し、追求できる。 3. 卒業研究のテーマを設定し、研究の見通しをもつ。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 第1回では卒業研究の見通しをもつためにガイダンスをおこなう。第2回～第6回はグループディスカッションを通してテーマの探求をおこなう。第7回～第10回は研究法について講義をおこなう。第11回授業終了後、所属するゼミの希望を取り、第12回以降は新たなゼミに分かれて指導をおこなう。複数のゼミが合同で授業をおこなう場合がある。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 日常生活における保育・幼児教育・子育て支援に関する気づきや他の授業科目の学習等の中から研究テーマを定めることができる。 2. 研究方法について検討し、研究の見通しをもつことができる。 3. 研究スケジュールを他者にわかりやすく説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 研究と授業の違い／研究の進め方／個人研究とグループ研究の流れ 担当者：加藤、舟越					
2) 研究テーマの探求① ・ゼミごとに教員が設定したテーマに基づいて文献研究やグループワーク、グループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。（1時間）		
3) 研究テーマの探求② ・ゼミごとに教員が設定したテーマに基づいて文献研究やグループワーク、グループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。（1時間）		
4) 研究テーマの探求③ ・ゼミごとに教員が設定したテーマに基づいて文献研究やグループワーク、グループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。（1時間）		
5) 研究テーマの検討① ・ゼミごとに保育・幼児教育に関わる身近な疑問からBS法とグループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。（1時間）		
6) 研究テーマの検討② ・ゼミごとにKJ法とグループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。（1時間）		
7) 保育研究にみられる研究法① ・観察法と面接法を学ぶ。 担当者：堅田			『教育研究のための質的研究法講座』のp2～p19上半分を読む。（0.8時間）		
8) 保育研究にみられる研究法② ・質問紙調査法を学ぶ。 担当者：堅田			『教育研究のための質的研究法講座』のp19上半分～p50を読む。（1.2時間）		
9) 研究アプローチと研究デザイン／質的研究法の概要 担当者：堅田			『教育研究のための質的研究法講座』のp51～p73を読む。（1時間）		
10) 質的研究法の実践 担当者：堅田					
11) 各ゼミにおける主な研究テーマの紹介／研究テーマの検討			卒業研究で取り上げたいテーマの候補を考え		

担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	ておく。（2時間）
12) 研究スケジュールの検討①／研究活動①	ゼミ指導教員の指導のもと課題作成や文献研究をおこなう。（2時間）
13) 研究スケジュールの検討②／研究活動②	ゼミ指導教員の指導のもと課題作成や文献研究をおこなう。（2時間）
14) 研究スケジュールの検討③／研究活動③	ゼミ指導教員の指導のもと課題作成や文献研究をおこなう。（2時間）
15) 研究スケジュールの発表	決められた発表時間内に発表できるよう要点をまとめておく。（2時間）
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科、『レポート作成の手引き』 保育・幼児教育学科、『卒業研究の手引き』，2024. 中坪史典他、『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』，2021，ミネルヴァ書房. 関口靖広、『教育研究のための質的研究法講座』，2016，北大路書房.	
[参考文献] 戸田山和久、『新版 論文の教室』，2018，NHK 出版.	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40%）	第12回～第14回の取り組み姿勢や態度、提出物によって評価する。
②実技・作品発表等（30%）	第15回の発表内容や姿勢、態度によって評価する。
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（30%）	次年度の研究計画の予定について問う課題によって評価する。
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポートの評価のポイントを掲示する。第15回の発表に対して教員が評価や個々の課題についてコメントする。	
[備考] ・第1回～第11回の授業終了後に課す「振り返りシート」の提出と内容を平常点評価とする。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-S-50-87

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅰb（理論・声楽）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの歌の楽譜の多くにはコードネームも書いてあるため、コードネームの理解は必須であるとともに、簡易伴奏法の基礎知識にもなる。そして、簡易伴奏法の基礎知識は、ピアノ初心者が弾き歌いのレパートリーを増やすための手段にもなる。理論では、保育現場で実践できるコードネームを学習し、楽譜に書いてあるコードネームを見ながら演奏できる力を養うことを目的とする。声楽では、声域の拡大、発声方法や自己表現力などの向上を目指すとともに、保育・幼児教育の現場で使われる歌唱曲を用いた音楽活動を展開する力を養うことを目的とする。					主に対応するD P 4
[授業全体の内容の概要] 弾き歌いするためのコードネームの基礎知識について講義をする。その基礎知識を踏まえて、子どもの歌のコードネームを見ながら弾き歌いをするためのレッスンをを行う。また、保育・幼児教育現場でよく使われる歌唱曲を全員もしくはグループに分かれて歌い、それらの歌を通してどのような音楽活動ができるのかを考察していく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・楽譜に書いてあるコードネームを見ながら簡易な伴奏で演奏することができる。 ・保育・幼児教育現場で使われる歌唱曲を、子どもたちと一緒に歌うことを想定しながら、表現豊かに歌うことができる。 ・歌唱曲を用いた音楽活動を考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 音楽理論の復習/発声法/コードネーム①主なコードの種類			前回の授業の復習を行い、歌唱と簡易伴奏の練習を行うこと（30 分～1 時間程度）。		
2) コードネーム②ハ長調のコード/「春の歌」の歌唱の実践			〃		
3) コードネーム③ヘ長調のコード/「夏の歌」の歌唱の実践			〃		
4) コードネーム④中間発表会に向けて/「秋の歌」の歌唱の実践			〃		
5) 中間発表会（実技発表会）			〃		
6) コードネーム⑤ニ長調のコード/「冬の歌」の歌唱の実践			〃		
7) コードネーム⑤ト長調のコード/卒園式に用いられる歌の合唱			〃		
8) 実技試験に向けた練習			〃		
[使用テキスト] 『こどものうた 100』チャイルド社 『こどものうた 200』チャイルド社 『子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ』萌文書林					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ 30 %）		第 5 回目に実技発表会をします。			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ 70 %）		コードネームを用いた弾き歌いの試験を行います。			
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-77

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 音楽Ⅱb（器楽）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな感性と表現力を引き出すために、幼稚園教員や保育者として身につけておくべき基礎的なピアノ技術を習得することを目的とする。弾き歌いでは、聴き手への思いやりの心を持ちながら、その歌にあった弾き歌いとなるよう表現力にも磨きをかけていく。さらに保育室や発表会を想定して人前で演奏する体験をふまえ、保育者として演奏するときの心構えを身につけていくことをねらいとする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 習熟度に応じた個別レッスンを展開する。ピアノの基礎技術と表現技術の習得を図りながら、歌唱共通教材や『こどものうた』等で扱われるような曲の弾き歌いのレッスンを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ピアノの基礎技術を習得し、ピアノ曲の演奏と弾き歌いができる。 ・各楽曲、歌に合った音楽的な感性や表現力を養い、子どもたちが好きな歌を表情豊かに歌うことができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション バイエル 51～59/春・夏・秋・冬の歌の弾き歌い					
2) バイエル 60～69/春・夏・秋・冬の歌の弾き歌い			事前に指定される課題について、授業時間外で十分に練習を行ったうえで授業に臨み、練習状況を記録し、自分の状況を自覚しながら学習を進めること。（各 1 時間～3 時間）		
3) バイエル 70～79/春・夏・秋・冬の歌の弾き歌い					
4) 中間発表会（ピアノ曲と弾き歌い） 担当教員による講評および受講生同士の振り返り					
5) バイエル 80～89/通年・生活の歌の弾き歌い					
6) バイエル 90～100/ 通年・生活の歌の弾き歌い					
7) 発表会に向けての仕上げ					
8) 発表会（ピアノ曲と弾き歌い）					
[使用テキスト] 『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版 『こどものうた 100』チャイルド社 『こどものうた 200』チャイルド社 適宜、個人の習熟度に合わせて様々なテキストを薦める。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ 100%）		中間発表会（40%）、発表会（60%）で評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。発表会では講評および振り返りを行う。

[備考]

履修者数を定員 12 名とし、上限を超える履修希望が出た場合、抽選を行います。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-79

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 情報リテラシー演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 野田 哲夫	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 情報教育入門（1年生講義）で学んだコンピュータとソフトウェアの基礎知識を基に、保育・教育の現場に出た際に使える技術・データ分析の方法等の習得し、簡単な総計処理ができるようになること目標とします。					主に対応するD P 4
[授業全体の内容の概要] 表計算ソフト（Microsoft Excel）による応用操作を中心に、データベースの操作、簡単な統計分析（基本統計量、相関、回帰分析、仮設と検定）を学び、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を応用して統計分析結果の発表方法を学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] - ワープロソフト（Microsoft Word）を使ったレポート、報告書の作成（復習） - 表計算ソフト（Microsoft Excel）を使ったデータベースの操作 - 表計算ソフト（Microsoft Excel）を使った簡単な統計分析 - ワープロと表計算ソフトを活用してプレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を使った発表 以上を総合的に活用してレポートや論文やプレゼン資料作成し、報告ができることを目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ワープロソフトの応用操作 Microsoft Word を使った応用操作について1年生（情報教育入門（機器操作を含む）で学んだ内容を基に復習・理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。			Microsoft Word の復習（文書作成、編集） をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
2) 表計算ソフトの応用操作 Microsoft Excel を使った応用操作について1年生（情報教育入門（機器操作を含む）で学んだ内容を基に復習・理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。			Microsoft Excel の復習（式の計算、関数、グラフの作成）をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
3) 表計算ソフトとデータベース Microsoft Excel 使ってデータベースとデータベースを使って検索・抽出、並べ替え等の操作について理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。			テキストのデータを作成してデータベース 操作の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
4) 表計算ソフトと統計分析 - 1 一つの変数を使った基本統計量（平均・最大値・最小値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等）についてその意味と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学びます。			テキストのデータを作成をして基本統計量 作成の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
5) 表計算ソフトと統計分析 - 2 二つの変数の間の散布図・相関について学び、相関分析についてその意味（相関の正負・強弱が意味するところ）と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学びます。			テキストのデータを作成をして散布図の作 成、相関分析の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
6) 表計算ソフトと統計分析 - 3 二変数の回帰分析についてその意味（目的変数と説明変数を使って原因を推計する）意味と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学ぶ。			相関分析の復習を行い、回帰分析の準備を しておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
7) 表計算ソフトと統計分析 - 4 母集団から抽出したデータ（標本）を使って母集団の統計量を推定、検定する方法について学び、Microsoft Excel のデータ分析機能を使って推定と検定を行います。			回帰分析の復習を行い、推定、検定の準備を しておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】1時間		
8) プレゼンテーションソフトの基本操作 Word、Excel のデータも活用した Microsoft PowerPoint の応用操作を1年生（情報教育入門（機器操作を含む）で学んだ内容を基に復習理解し、表計算ソフトで処理したデータを使ってプレゼン資料の作成を行います。			統計分析のデータを整理して、プレゼンテ ーション用のデータの準備をしておきましょ う。【準備学修に必要な時間数】1時間		

[使用テキスト]	
石村 貞夫（著）『Excel でやさしく学ぶ統計解析 2019』（東京図書）ISBN-13：978-4489023170	
[参考文献]	
『情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2021 対応版』ISBN-13：978-4274229657 ※1年次に購入済み	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（50%）	授業毎に課した課題の提出すること（Google Formを活用）。
②実技・作品発表等（ ）%	
【定期試験】	
①筆記試験（50%）	インターネットリテラシー、Word, Excel, PowerPointの基本操作の確認を問います。 Excelによる計算、関数の理解と活用確認、グラフ作成とデータベース作成確認を問います。
②レポート（ ）%	
③実技試験（ ）%	
④面接試験（ ）%	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
授業毎に課題を課し、コメントを付けて返却する（Google Formを活用）。	
筆記試験については、答案を返却し間違えた箇所を指摘、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-40-07

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 心理統計法		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 心理統計における基礎的な事項を学習し、卒業研究等で統計を効果的に活用することができる。					主に対応する D P 4
[授業全体の内容の概要] 主に、卒業研究において量的研究を検討している学生を対象に授業を行う。また高度な数学的理解や難解な数式の理解や暗記を求めず、分析手法を中心に実践しながら学習することを求める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 平均値の検定や分散分析などの仮説検定を用いて、実際に分析することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション／統計基礎の復習			統計基礎の内容を復習する（2 時間）		
2) 相関と回帰					
3) 母集団と標本					
4) 検定の方法①（仮説検定の考え方／単純集計表とクロス集計の検定）			提示した課題の実施（1 時間）		
5) 検定の方法②（平均値の検定、分散分析）			提示した課題の実施（1 時間）		
6) 検定の方法③（比率の検定／相関係数の検定）			提示した課題の実施（1 時間）		
7) 統計データの収集のための準備			質問項目の検討（2 時間）		
8) 統計データの収集と分析					
[使用テキスト] 山内光哉，『心理・教育のための統計法〈第3版〉』，2015，サイエンス社.					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（100%）		収集したデータに関する分析をおこなったレポートによって評価をおこなう。			
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 評価のポイントを掲示で示します。					
[備考] ・ Microsoft の表計算ソフト「Excel」がインストールされたパソコンがあることが望ましい。 ・ 電卓機能のある端末や電卓があることが望ましい。 ・ 「統計基礎」の GP が 2 以上あることが望ましい。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-40-04

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 表現技術Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦・長島 佳奈・増原 真緒		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	卒業必修
☑ 実務経験	元保育者経験を活かし、保育における表現技術について伝えます。（増原）					
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、絵本を題材に言語表現、音楽表現、造形表現、身体表現を総合した表現を構想し、構想にもとづいて製作し、発表したり鑑賞したりすることを通して表現技術を習得することを目的とする。4セメスターの「総合表現」につながる活動とする。					主に対応するDP 1	
[授業全体の内容の概要] 総合表現への足掛かりとなる表現活動に向けた準備を行うため、題材となる絵本を決定し、その絵本の世界を表現することのできるワークショップや表現について検討、準備行う。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 絵本を題材に、子どもを対象とした表現活動を計画し、第8回終了時点で個別および担当部署ごとの成果・課題を明確化した上で、「総合表現」での取り組み計画を作成できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション:授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。【増原】 ・題材の検討（絵本の世界を表現できるワークショップ・子どもに向けた発表・参加型の遊び場等）の視点で内容を考え発表し合い、その結果から題材を決定する。 ・実施する活動の検討、決定 ・活動グループの選択（希望調査）						
2) 構想・検討〈グループ活動〉【長島】 ・グループの決定 ・構想、計画書、準備物等についての書類を作成し、グループごとに方向性を定める。						
3) 構想・検討〈グループ活動〉 事前活動①〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備にとりかかる。						
4) 事前活動②〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。						
5) 事前活動③〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。						
6) 事前活動④〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。						
7) 事前活動⑤〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。						
8) 事前活動⑥〈グループ活動〉／途中経過報告【加藤】 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。 ・部署ごとに進行状況を発表し合い、方向性の確認を行う。 到達度の確認 〈グループ〉これまでの進行状況および残った課題と見通しの発表 〈個別〉取り組み姿勢・自己課題と解決方法についてのレポート						
[使用テキスト] なし						
[参考文献] なし						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（100%）		〈グループ〉授業終了時の進行状況および残った課題と見通しの発表（15%）				

	〈 個 別 〉 取り組み姿勢・自己課題と解決方法についてのレポート（ 85% ）
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆 記 試 験（ %）	
②レ ポ ー ト（ %）	
③実 技 試 験（ %）	
④面 接 試 験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 学生個々の取り組み姿勢、状況および進行状況を鑑み、各教員からコメント・助言をする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-40-58

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 総合表現		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、絵本の世界をテーマに、保育内容「表現」「言葉」等の学修を踏まえた総合的な活動を構想し、製作あるいは制作をする。地域の子どものを招待して発表し、発表後には振り返りをし、活動全体を通して、保育・幼児教育における表現の意義を考察する。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 第 1 回～3 回で構想し、第 4 回～8 回までは製作・制作を行う。第 9 回～10 で準備をし、第 11～12 回で発表を行い、第 13 回で片付けをする。第 14 回で振り返りを行い、第 15 回でまとめを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] テーマにもとづいた、子どもの発達や興味・関心に応じた総合的な活動を構想し、製作あるいは制作、発表、振り返りを通して、子どもの表現活動を理解し、表し方や伝え方を習得し、学びを省察する力をつける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 構想①：各グループに分かれて話し合い、活動内容を決定する。【加藤】			事前にモチーフとなる絵本を告知するので、グループを編成し、役割分担を決め、活動内容について話し合っておく。（1～2 時間）		
2) 構想②：各グループに分かれ、決定した活動内容にしたがい、準備をする。			次回の活動に向け、購入の必要な用具・材料の申告をする。（1 時間）		
3) 構想③：各グループに分かれ製作・制作の準備を整える。			準備の中で不足する、あるいは変更の必要な用具・材料の申告をする。（1 時間）		
4) 製作・制作①：構想にもとづき、各グループで活動する。			授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で製作・制作する。（1 時間～2 時間）		
5) 製作・制作②：構想にもとづき、各グループで活動する。					
6) 製作・制作③：構想にもとづき、各グループで活動する。					
7) 製作・制作④：構想にもとづき、各グループで活動する。					
8) 製作・制作⑤：構想にもとづき、各グループで活動する。					
9) 準備①：前日の準備をする。					
10) 準備②：直前の準備をする。（2024 年 12 月 14 日 1 限目）					
11) 発表①：来場者に発表をする。（2024 年 12 月 14 日 2 限目）					
12) 発表②：学生同士で発表を鑑賞・参加しあう。（2024 年 12 月 14 日 3 限目）					
13) 片付け：会場の片づけをする。（2024 年 12 月 14 日 4 限目）					
14) 鑑賞：発表の動画を鑑賞し、各グループで振り返りをする。【加藤】					
15) 学習のまとめ：「総合表現」の学習を振り返り、レポートを作成し、保育・幼児教育における表現の意義を考察する。【加藤】					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 75%）		授業内レポート			
②実技・作品発表等（ 25%）		第 10～13 回の活動			
【定期試験】					
①筆 記 試 験（ %）					
②レ ポ ー ト（ %）					
③実 技 試 験（ %）					

④面接試験（　％）	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
発表の様子についてコメントする（第 14 回）。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-40-59

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目） 教育実習指導Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
		幼免必修			
☑ 実務経験	元保育者の経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。				
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・保育の連続性の中から子どもの生活や遊びを理解し、保育実践に繋がる視点をもつ。 ・実習報告書を作成し、学び合うことで幼稚園教育について理解を深める。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習への課題や達成方法を明確にする。 ② 学んだ保育技術を参考に、指導案を作成し、実践する。 ③ 実習報告会で報告し、学び合うことで幼稚園教諭としての保育観・子ども観・障がい観を深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・幼稚園教育において育みたい子どもの姿を理解し、主体的な生活や学びが実現できる保育方法を考え、実践できる。 ・幼児期に必要な「幼稚園教諭との信頼関係」や「環境を通しての教育」のあり方について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 幼稚園実習ガイダンス ・幼稚園実習の流れ ・ 実習の時期と課題 ・ 実習ファイル作成 ・オリエンテーションの受け方と内容				・これまでの実習や講義・演習等を振り返り、子どもの興味や関心・発達過程と関連付けた保育実践について調べ準備しておくこと（2時間） ・保育者としてはもちろん、社会人として必要な態度を身に付けていくことを求めます。 ・添削指導を受けながら、実習指導案を作成し、期日までに仕上げて下さい。個別に教材を用意し模擬保育を行う準備をしてください（5～6時間）。	
2) 個と集団・保育の連続性を理解する記録の方法 ・日々の記録から子どもの姿と保育者の援助を理解するための記録のあり方について学ぶ。					
3) 子ども理解から始まる指導案 ・子どもを主体として尊重し、信頼関係を基盤とした実習指導案の作成方法について学ぶ。					
4) 指導案による実践① プレゼンテーション（ゲストスピーカー…1Gを担当） ・実習指導案を立案し、模擬保育を行う。					
5) 指導案による実践② プレゼンテーション（ゲストスピーカー…1Gを担当） ・実習指導案を立案し、模擬保育を行う。					
6) 最終確認・トラブルシューティング・報告書の書き方 ・実習の最終確認を行うと共に、報告書の書き方について学ぶ。				・グループのメンバーの実習報告書を事前に読み込み参加してください（1時間）。	
7) 実習報告会 プレゼンテーション ・エピソード記述方式を用いた実習報告書をグループで発表し合い、保育観・子ども観・障がい観について学び合う。					
8) 実習報告会と振り返り グループワーク ・環境構成に関する報告書をグループで発表し合い、保育者の意図と環境構成の関連性について学び合う。					
[使用テキスト] ・『実習ガイドブック』 大阪健康福祉短期大学・実習運営委員会					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（ 60%）		・保育記録内容（10%）・模擬保育振り返り内容（20%）・実習報告会振り返り内容（10%） ・環境構成の記録内容（20%）			
② 実技・作品発表等（ 40%）		・実習指導案の内容（20%）・模擬保育の内容（20%）			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					

平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりしてフィードバックを行う。	
[備考] ・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅰの単位を修得していなければならない。	
・この科目を履修するためには、幼稚園実習を履修見込でなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-64

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼稚園実習			授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習			授業担当者 舟越 美幸		
授業の回数	160 時間	時間数(単位数)	4 単位	配当	3 セメスター	幼免必修		
☑ 実務経験		保育者として勤務していた経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。						
[授業の目的・ねらい] ・子どもの心身の発達に必要なかつ十分な環境を整え、子どもの生活や遊びを援助する方法を身に付ける。 ・「見学・観察・参加・指導」における実践を通して、幼稚園教育のあり方について理解を深める。 ・実践を通し、保育者の専門性及び地域に貢献する社会人としてのあり方を学習する。						主に対応するDP 5		
[授業全体の内容の概要] ① 幼稚園の社会的役割や機能について理解する。 ② 子どもと関わることを通して、子ども一人ひとりの思いや願いに気づく。 ③ 保育の環境と子どもの生活や遊びのつながりについて保育の連続性の中から理解する。 ④ 観察、記録、指導及び自己評価について実践的に理解する。 ⑤ 保育者の職務内容や職業倫理について理解する。								
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について体験的に理解し、説明できる。 観察記録から実態を捉えた保育実践を行い、省察することで保育観・子ども観・障がい観への理解を深め、説明できる。								
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						[準備学修の内容]		
① 幼稚園の社会的役割や機能について理解する。 ・幼稚園の沿革と保育理念を理解する。 ・学級編成や職員構成を理解する。 ・保育環境図や生活時程と保育を理解する。 ② 幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について理解する。 ・保育者の指導、援助の方法を理解する。 ・保育者の関わりから意図や配慮を学び、自分自身の関わりに結び付ける。 ・職員連携について学び、職員の一人として場にふさわしい行動をする。 ③ 保育の連続性を意識し、観察や子どもとの関わりを通して子どもを理解する ・個々の子どもの思いや心の動きについて理解する。 ・子どもの生活や遊びについて理解する。 ・子どもの発達過程について理解する。 ④ 子どもの生活や遊びに応じた保育環境について理解する。 ・子ども一人一人やクラスの実態を理解する。 ・子どもの健康と安全への配慮について理解する。 ・子どもの姿を捉え、教材研究の視点を持つ。 ⑤ 観察 - 記録 - 指導及び自己評価について理解を深める。 ・実習日誌の記録から気づきを深め、考察する。 ・幼稚園教諭の姿を参考に生活の一部分の指導 (登園時、食事時等) を経験する。 ・園やクラスの実態に応じて部分・全日指導案を作成し、準備を行う。 ・指導案に基づく実践を行い、事後に自己評価を行う。						・実習前に各年齢の発達過程を復習し、教材研究を行う必要があります。 ・実習前に各園でオリエンテーションを受け、「オリエンテーション記録」を訪問指導教員に提出してください。		
[使用テキスト] ・「実習ガイドブック」大阪健康福祉短期大学・松江キャンパス 実習運営委員会 ・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル社								
[参考文献]								
[試験の方法と学修成果の評価基準]								
【平常試験】								
①到達度の確認 (40 %)		実習の事前指導 (課題と取り組み 10%・身だしなみ 5%・オリエンテーション記録 10%)・事後指導 (お礼状 5%・報告書 10%)						
②実技・作品発表等 (60 %)		実習施設からの評価 (評価の基準については教育実習指導Ⅱでお知らせします)						
【定期試験】								
①筆記試験 (%)								

②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・実習報告会で総まとめとしてコメントしたり、解説したりします。	
[備考] ・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅰの単位を修得していなければならない。 ・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅱを履修見込みでなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-65

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 国語教育		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 橋本祐治	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
☒ 実務経験	元小学校教員の経験を活かし、子どもが言葉の力を獲得する段階性と連続性等について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 専門的知識と技能に基づき、子どもの発達を保障し、豊かな言葉の力をつけるために、幼児期から学齢期初期の言葉の発達や指導内容について理解し、保育者としての言葉の力を高める。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 国語教育の意義や国語科教育の構造と内容 (特に小学校1年生) について、幼稚園教育要領における領域「言葉」を踏まえて、子どもが言葉の力を獲得していく段階性と連続性を理解する。小学校1年の国語教科書を使って調べ学習をすることによって、言語活動をととして「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力」を育成することについて理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・生涯を通じた国語教育の意義を理解するとともに、俳句を詠み、鑑賞することをとおして言語感覚を磨く。 ・小学校1年の国語教科書を使って、子どもたちが行う言語活動を想定して教材研究し、言語能力を獲得する過程を理解する。 ・小学校1年入学当初の子どもたちに向けた紙芝居のシナリオを作成し、グループで発表する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業科目全体の概要を知り、見通しを持つ。 ・幼児教育における「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、領域「言葉」を振り返ることによって、人間が成長するための言葉の学びについて理解する。 ・俳句作りについて理解し、実際に作る。			・『幼稚園教育要領解説』p.50～73,213～32を読む。(2時間)		
2) 国語教育の意義 その1 ・前回作成した俳句数点の鑑賞(第15回まで)と実作(第14回まで)をする。 ・人間の言葉の特徴について理解する。			・五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句の取材をする。(30分)ー以下「俳句の取材」		
3) 国語教育の意義 その2 ・言語文化と言語生活について理解する。			・俳句の取材(30分)		
4) 国語教育の意義 その3 ・国語教育と国語科教育との関係、国語科教育の変遷について理解する。			・俳句の取材(30分)		
5) 国語科教育の構造 ・幼児教育における領域「言葉」のねらいを踏まえて、国語科教育の目標及び内容について理解する。			・俳句の取材(30分) ・『小学校学習指導要領解説 国語編』(以下『解説』)第2章 国語科の目標及び内容 p.11～39を読む。(2時間)		
6) 小学校入門期の言葉の学習 1 [知識及び技能] に係る内容 ・小学校1年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「言葉の働きや使い方に関する事項」の「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「漢字」について調べることをとおして、教科目標(1)(3)を理解する。			・俳句の取材(15分) ・『解説』p.41～46及び『あたらしい国語 一上』を読む。(1時間)		
7) 小学校入門期の言葉の学習 1 [知識及び技能] に係る内容 ・小学校1年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「言葉の働きや使い方に関する事項」の「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「音読、朗読」について調べることをとおして、教科目標(1)(3)を理解する。			・俳句の取材(15分) ・『解説』p.46～49及び『あたらしい国語 一上』を読む。(1時間)〃		
8) 小学校入門期の言葉の学習 1 [知識及び技能] に係る内容 ・小学校1年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「情報の取り扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」について調べることをとおして、教科目標(1)(3)を理解する。			・俳句の取材(15分) ・『解説』p.50～56及び『あたらしい国語 一上』を読む。(1時間)		
9) 小学校入門期の言葉の学習 2 [思考力、判断力、表現力等] に係る内容			・俳句の取材(15分)		

・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「A 話すこと・聞くこと」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・『解説』p.57～62 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
10) 小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内容 ・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「B 書くこと」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.63～68 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
11) 小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内容 ・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「C 読むこと(説明的な文章)」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.69～75 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
12) 小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内容 ・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「C 読むこと(文学的な文章)」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.69～75 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
13) 小学校入門期の言葉の学習 3「紙芝居をつくろう」 ・ここまでの学修の内容を踏まえ、子どもたちの発想や想像力を想定して、4 枚構成の絵から場面の様子や登場人物の言葉、ストーリーを個別に考える。(『新編 あたらしい 国語 一上』(貸出)p.0～7 による)	・俳句の取材(15 分)
14) 小学校入門期の言葉の学習 3「紙芝居をつくろう」 ・個別に考えた場面の様子や登場人物の言葉、ストーリーをもとにグループで話し合い、紙芝居を完成させ、発表の練習をする。	・俳句の取材(15 分) ・『新編 あたらしい 国語 一上』(貸出)p.0～7 を使った紙芝居の脚本を考える。(2 時間)
15) 小学校入門期の言葉の学習 3「紙芝居をつくろう」 ・グループ毎に紙芝居を発表し、見合うことによって、子どもたちの言葉の力による発想や想像力について考える。	・紙芝居発表の練習をする。(30 分)
【使用テキスト】 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』,2018,フレーベル館 秋田喜代美他、『あたらしい 国語 一上』,2023,東京書籍 平成 31 年検定版 文部科学省、『小学校学習指導要領解説 国語編』,2018,東洋館出版社	
【参考文献】 全国大学国語教育学会編、『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』,2019,東洋館出版社 小森茂他、『新編 あたらしい 国語 一上』,2019,東京書籍 平成 26 年検定版	
【試験の方法と学修成果の評価基準】	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (50%)	・授業内容を自らの視点でまとめ、考えと課題を述べる。(各回「学修のまとめ」提出)
② 実技・作品発表等 (20%)	・五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句を作る。(10%) ・子どもの発想や想像力を想定した紙芝居を、グループで協力して作成し発表する。(10%)
【定期試験】	
① 筆記試験 (%)	
② レポート (30%)	示された課題について、客観的な文章の書き方に沿って 2,000 字程度のレポートを作成する。
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
【フィードバックの方法】 ・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。 ・俳句について授業内で解説したり、コメントしたりする。 ・紙芝居の発表に対して授業内でコメントする。 ・レポート試験について、評価基準に基づいた個別評価票を提出レポートとともに返却する。	
【備考】	

各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-75

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 高橋 憲二	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
資格必修	資格必修				
☒ 実務経験	元島根県立大学短期大学部教員の経験を活かし、家庭支援の理論と実践について講義する				
[授業の目的・ねらい] 子ども家庭支援の理論や実践について学び、説明することができる。 子どもと保護者の状況を理解し、子育てにやさしい保育者となる。 保護者とよりよい関係をつくることを理解し、子育てを支える保育者となる。					主に対応するD P 1+2
[授業全体の内容の概要] 本講義では、子ども家族支援が必要とされる社会的背景と意義を概観した上で、子ども家庭支援の構造と理念そしてソーシャルワークの理論をふまえ、効果的な支援のあり方や今後の課題について考える。とくに、家庭支援と子育て支援双方の視点から、保育者が行う家庭支援や地域の子育て支援の実践に着目し、理論だけでなく、より具体的な支援方法についても検討を加える					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 社会福祉における子ども家庭支援の意義や目的について理解し、説明することができる。 2. 子育てをめぐる現代的課題及び地域における子ども子育て支援施策について理解し、説明することができる。 3. 在宅子育て家庭や社会的養護を要する家庭への支援の実践を学び、家庭生活をめぐる課題を理解し、説明することができる。 4. 子ども家庭支援の諸理論や支援方法について理解を深めつつ、それらを身につけ、家庭支援や地域の子育て支援において実践できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 家庭支援の背景・意義・構造・理念・技術 リアクションペーパーの書き方の説明 リアクションペーパーの提出			予習：教科書 2-16p（40 分）		
2) 子どもと家庭 家族の機能・親になるプロセス・子どもの居場所づくり リアクションペーパーの提出			予習：教科書 18-33p（40 分）		
3) 保育者による家庭支援 家庭支援における保育者の役割 家庭支援と保育者・保育指針などにおける家庭支援・保育者の姿勢と倫理 家庭支援の対象 リアクションペーパーの提出			予習：教科書 p34-42（40 分）		
4) 家庭支援の方法としての保育相談支援 保育相談支援とは 保育相談技術 保育相談支援の実践 日常保育・行事・環境を活用した相談支援 追加資料：保育士の専門技術 リアクションペーパーの提出			予習：教科書 43-58（40 分）		
5) 特別なニーズを有する家庭への支援Ⅰ（対象家庭について その支援体制 障がいのある子どもと保護者への支援） リアクションペーパーの提出			予習：教科書 60-65（40 分）		
6) 特別なニーズを有する家庭への支援Ⅱ（虐待家庭・ひとり親家庭・外国籍の家庭への支援） 追加資料：文章の書き方 小レポート課題：親たちの戸惑い			予習：教科書 p66-71（40 分）		
7) 家庭への個別的支援 家庭支援の展開 援助計画の作成 評価と終結 リアクションペーパーの提出			予習：教科書 p72-83（40 分） 小レポート提出		
8) 在宅子育て家庭への支援 在宅子育て家庭への支援と保育所等 地域の子育て支援拠点 特別なニーズをもつ親子への支援 小レポート課題：教育保育者の戸惑い			予習：教科書 p84-103（40 分）		
9) 社会的養護を要する家庭への支援Ⅰ（家庭の特性と支援の姿勢 乳児院・児童養護施設） リアクションペーパーの提出			予習：教科書 p106-113（40 分） 小レポートの提出		
10) 社会的養護を要する家庭への支援Ⅱ（母子生活支援施設・障害児福祉事業・里親への支援） 小レポート課題：施設実習で感じたこと			予習：教科書 p114-121（40 分）		

11) 子ども家庭支援に関わる法・制度 条約 法律 計画など リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p122-135 (40 分) 小レポートの提出
12) 子どもと家庭を支える機関と人 児童相談所・児童家庭支援センター・児童民生委員・子育て支援団体 事例紹介：子どもの居場所づくり（寺子屋と子ども食堂の活動） リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p136-169 (40 分)
13) 子どもと家庭を支援する事業 事業の種類 健康を守る 入所児童のニーズに応じた保育事業 多様なニーズに応じた保育事業 学童期の家庭支援サービス 特別なニーズを有する家庭を対象とした支援事業 相互扶助システムづくり グループワーク：リレーションとは、アイスブレイクの実際	予習：教科書 170-185 (40 分)
14) グループワーク：保育相談 コミュニケーション技術を学ぶ 聴くことのシナリオ 共感すること 傾聴とは ロールプレイ：相談支援	配布資料を読む (40 分)
15) グループワーク：障がいのある子どもの事例検討	予習：教科書 196-199 (40 分)
[使用テキスト] よくわかる家庭支援論 編者 橋本真紀・山縣文治 発行所 ミネルヴァ書房	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (30%)	小レポート及びリアクションペーパー
②実技・作品発表等 (20%)	グループワーク (事例検討)
【定期試験】	
①筆記試験 (50%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] リアクションペーパーに示された疑問点・質問などは次回の授業時に返答する 小レポートは提出後の次週授業時にレポート評価表を返却する	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-18

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子どもの理解と援助		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行・増原 真緒 (オムニバス)		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	保育現場における実践経験をもとに子ども理解を踏まえた援助や保護者支援の方法について実践的に伝えます。（増原）					
[授業の目的・ねらい] ・子どもを理解するための視点を理解し、保育士の援助や態度の基本について理解する。 ・保育者と保護者および保育者同士の協同的な姿勢について理解する。						主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・エピソード記述や事例から子ども理解の視点を深めるとともに、保護者および同僚との協同的姿勢と関わりについてロールプレイを通して理解する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・子ども理解を深める視点について知見を深め、保護者や職員間の連携・協同の意義について理解する。 ・子ども理解に基づく援助の在り方について考察することができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 「子どもを理解する」とは何か。【堅田】						
2) 子どもへの共感的理解とモノの可能性【堅田】						
3) 子どもを理解するための視点①【増原】 集団生活における子どもの経験や葛藤・つまづきについてグループワークを通して理解を深める。						
4) 子どもを理解するための視点①【増原】 ・テキストから「“支援者”としての保育者のゆらぎ」について考え、保育における援助の観点について検討する。 ・実習を思い起こし、実際に観察した子どもの生活や遊びの様子から保育者の関わりの意図や子どもの思いを考察し、グループワークを通して子ども理解の視点を深める。				※1 年次に「幼児と言葉」の授業で使用したテキスト『子育てとケアの原理』を必ず持参すること。		
5) 保護者支援と情報共有【増原】 事例検討を通して保護者対応の疑似体験を行う。						
6) 職員間連携と対話【増原】 職員同士の協同的な姿勢と連携について事例検討を通して考えを深める。						
7) 「子ども理解に基づく援助」とは何か。【堅田】						
8) これからの保育者の援助の在り方。【堅田】 ～はじめの 100 か月の育ちビジョンから見る保育者の役割～						
[使用テキスト] 望月雅和（2022）『子育てとケアの原理〔新版〕』北樹出版（※第 4 回講義のみ使用） その他、適宜資料を配布する。						
[参考文献]						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ 50%）		第 3～6 回で取り組むワークシートの提出と記述内容から、考えの深まりを評価する（増原）。				
②実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
①筆記試験（ %）						
②レポート（ 50%）		「子ども理解に基づく援助の在り方」に関するレポート課題によって評価する。				
③実技試験（ %）						

④面接試験（　　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 定期試験実施後に評価のポイントを掲示する。	
[備考] 1年次に履修した「発達心理学」や「子ども家庭支援の心理学」をはじめとした「発達」に関連する科目を十分に復習し、子どもの発達過程を理解した上で授業に臨んでください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-25

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子どもの健康と安全		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 前林 英貴		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義を行う。					
[授業の目的・ねらい] 子どもの疾病や事故の特徴とその予防についての基礎知識をもとに適切に対応するための技術を習得し、保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等について理解を深める。						主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 子どもの保健で学習した知識や理論を踏まえ、実際の保育現場や保健活動の場において活用するための基礎的知識と技術を解説する。また、乳幼児の基本的な健康及び成長発達の観察方法と評価方法についても解説する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価することができる 2. 子どもの健康や心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明することができる 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対処方法やアセスメント方法を実施することができる 4. 保育現場における救急時の対応や事故防止、安全管理について説明することができる						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 保育における保健活動（1） 保健計画と評価、安全・衛生管理						
2) 保育における保健活動（2） 健康診断、身体計測と発達評価						
3) 保育における保健活動（3） 沐浴、保清、スキンケア、口腔ケア						
4) 保育における保健活動（4） バイタルサインの測定と健康状態の観察・評価						
5) 子どもの疾病とその対応（1） 感染症の予防と対応						
6) 子どもの疾病とその対応（2） 保育における看護、薬の投与方法						
7) 子どもの事故防止と応急処置（1） 子どもの応急処置における対応（事故防止、救急への要請）						
8) 子どもの事故防止と応急処置（2） 子どもの応急処置における対応（心肺蘇生法とAED）						
[使用テキスト] なし						
[参考文献] 「これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版」榎原 洋一 診断と治療社						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ %）						
②実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
①筆記試験（100%）						
②レポート（ %）						
③実技試験（ %）						
④面接試験（ %）						
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 毎授業後に授業アンケートを実施し、質問があれば次の講義でフィードバックします。						
[備考] 演習が中心となる科目のため、主体的に技術習得できるよう心掛ける。動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。						

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 社会的養護Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	資格必修
☑ 実務経験	元児童自立支援施設児童自立支援員(嘱託)としての実務経験を活かし、社会的養護施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。					
[授業の目的・ねらい] 「子どもの最善の利益のために」と「すべての子どもを社会全体で育む」という社会的養護の基本理念の理解のもと、事例を通して社会的養護施設で生活する児童の処遇や職員の児童に対する適切なアプローチについて考える力を身に付ける。					主に対応するDP 1	
[授業全体の内容の概要] 学生自身の「学びの過程」を追跡するために学習日誌を作成する。事例を通したグループワークを中心に講義・演習を行う。各回に予習課題と授業終了時課題を課し、期限内の提出を求める。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 児童福祉施設における具体的な養護の方法を、理論的かつ法的根拠に基づいて説明できる。 2. 事例をもとにアセスメントを行い、支援計画を立案することができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]			
1) アドミッションケアからアフターケアまでの流れを概観し、実際の支援に至るまでの過程を学ぶ。			予習課題：社会的養護におけるケアマネジメントの意義について考える。(1 時間)			
2) 支援方針の決定までの流れを確認する。ケース理解のための手法としてジェノグラムとエコマップを作成する。			予習課題：社会的養護施設を一つ挙げ、関連する他機関や地域資源を調べる。(0.5 時間)			
3) 援助方針を立てる際の留意点について確認する。事例をもとに長期方針・短期方針に基づく支援内容を検討する。（グループワーク）			予習課題：テキスト(p96)の事例を読み、「ケアにおける明確な目標設定と具体的な計画設計」の意義について考察する。(1 時間)			
4) インケアを中心に養護の具体的方法を学ぶ。			予習課題：社会的養護施設における日課や規則の意義について考察する。(1 時間)			
5) 事例から子どもの状態像、現在に至る背景要因について理解する。			予習課題：これまでの学習内容を復習し、不明な点や曖昧な点の解消に努める。(1 時間)			
6) 職員にとって把握しにくい事柄、見逃しやすい症状を整理する。児童福祉施設における性暴力について視聴覚教材をもとに話し合う。			予習課題：乳幼児期から児童期にかけて見られる防衛機制について調べる。(0.5 時間)			
7) 愛着形成の重要性、施設入所や里親委託による子どもへの影響を考える。			予習課題：テキスト (p176～)を読み、「社会的養護における愛着の重要性」について考察する。(1 時間)			
8) 事例から援助方針を策定する。（グループワーク）			予習課題：事例資料をもとに、対象児の課題を整理する。(1.5 時間)			
[使用テキスト] 喜多一憲監修、『みらい×子供の福祉シリーズ第2 版 社会的養護Ⅱ』，2024，みらい。						
[参考文献] 田中康雄，『児童生活臨床と社会的養護』，2012，金剛出版。 尾崎新・福田俊子・原田和幸(訳)，『ケースワークの原則 援助関係を形成する技法』，2008，誠信書房。 上田敏，『ICF の理解と活用』，2011，きょうされん。						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ 40%）		各授業回翌日までに提出された学習日誌によって評価する。				
②実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
①筆記試験（ 60%）		課題事例における支援の内容と方法を、授業で確認した支援上の留意点を踏まえ事実に基づいて提案することができるかどうかで評価する。				
②レポート（ %）						
③実技試験（ %）						

④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 個別面談によって評価のポイントを伝える。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-50

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子育て支援演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 杠 佳子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
資格必修					
☑ 実務経験	保育士・主任・所長として従事し、市・県の代表・教育事務所の職員と行政機関での経験もある。 乳幼児の児童の発達や特性を演習等通して指導する事で保育士の専門性について講義する。				
[授業の目的・ねらい] ＊保育士の行う保育の専門性を背景とした子ども・保護者・地域に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援等の必要性について、その特性と展開を具体的に理解する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ＊保育士、保育教諭の行う子育て支援、子育ての支援について様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ① 子育て支援の意義を講義・演習等を学び理解する。 ② 保育士、保育教諭の行う子育て支援の特性や必要性について理解する。 ③ 自己理解を深める事ができる。各年齢における人との関わり、保護者・地域との関わりについて説明できる。 ④ 子育て支援での関わりの重要性を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園保育要領解説本に基づき 保育所、認定こども園における保育の基本について理解を深める。				・「子ども・保護者・学生が共に育つ保育・子育て支援演習」 ・「保育所保育指針解説本」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説本」 3冊を持参すること。 ○事前に該当箇所を読んでおくこと。 (30分程度)	
2) 保育指針解説本に基づき子育て支援、幼保連携型認定こども園保育要領に基づき子育ての支援について。 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきや多方面な理解する。 子ども・保育者が多様な他者と関わる機会や場の提供				・「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園保育要領」の持参。 ○「子育て支援・子育ての支援」の項目を事前に読んでおくこと。 (30分程度)	
3) 保育士の行う子育て支援を行うことの意義（保育所の社会的役割と責任） ① 入所する子どもの保護者への支援（家庭とのパートナーシップと保護者支援） ② 地域社会との交流と連携（顔の見える連携と地域社会の貢献） ② 職員研修（職員の共通理解と共同・職員研修の重要性）				・「毎回、子ども・保護者・学生が共に育つ保育・子育て支援演習」の持参。 ・3コマ～7コマまでは 本・DVD・絵本などを通しての講義を実施するので、講義内容を理解し発表・記録用紙を通して復習・予習をしておくこと。（30分程度） ・提出締め切りは守る。 ・読みやすい字を書く。 ・発表する時の態度、誰にでもわかるように話す。	
4) 子どもを理解しよう（グループワーク） ① 子どもの理解の意味 ② 子どもの理解の方法 ③ エピソードを通しての理解					
5) 保護者を理解しよう（グループワーク） ① 保護者とは ② 保護者の思い ③ 保護者を力づける支援とは ④ エピソードを通しての理解					
6) 地域のことを理解しよう（グループワーク） ① 地域資源を知ろう ② 保育者養成校と専門機関・関係機関との連携 ③ エピソードを通しての理解					
7) 子育て支援演習まとめ①（グループワーク）（プレゼンテーション） 子ども理解・保護者理解・地域理解について				・おたより作成事前準備について理解する。（30分程度）	
8) 子育て支援のまとめ②				・講義内に完成しなかった場合後日	

大阪健康福祉短期大学在籍の思い出作り（おたより作成）	提出可とするが、減点となる。
----------------------------	----------------

[使用テキスト]	
子ども・保護者・学生が共に育つ保育・子育て支援演習 保育所保育指針解説本 萌文書林 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説本	
[参考文献]	
講義内容においてプリントの配布	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (65 %)	・意味の理解 ・文章化の理解 ・丁寧な記録書 ・疑問点の質問 ・持参物、提出締め切りを守る。
② 実技・作品発表等 (35 %)	・思いをまとめ文章にする。・カット等いれて楽しいおたより作成。 ・丁寧な文章、きれいなイラスト目指す。(ペン・色鉛筆・水性ペン・写真等) ・思い出作りと今後の目標を持つ。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
提出された課題について、講義内で解説したりコメントしたりしてフィードバックを行う。	
[備考]	
DVD 使用 (保育所保育指針を映像に！) (保育所は、命育み、学ぶ意欲を育てます)	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-51

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教育制度論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 川内 紀世美	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
☐ 実務経験		幼児必修/資格必修			
[授業の目的・ねらい] ・基礎知識として、教育制度に係る歴史・法制度等を知り、幼稚園教諭の社会的役割を理解する。 ・学校の制度、教職員の制度、教育行政の制度等の学校教育にかかわる制度を理解し、制度を活用するための仕組み、組織を知る。 ・教育基本法、学校教育法等の教育関連の法規を踏まえ、幼児教育の制度上の枠組みを知る。 以上の学んだ知識に基づいて幼児教育の実践ができるようになる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] ・教育制度について解説し、日本の教育を巡る動向を図解や統計資料を用いて説明する。 ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園など、学校、保育施設の制度上の位置づけについて解説する。 ・特別支援教育とのかかわりで視覚障がい当事者の講演を実施。（外部講師による）					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・幼稚園並びに幼保連携型認定こども園の制度上の位置付けを理解し、説明できる。 ・幼稚園教諭及び保育教諭の役割について、学んだ知識に基づいて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 教育制度で学ぶ意義 幼稚園、保育所制度の歴史。教育制度の基本原理。			テキスト(①p1-11)を読み、予習すること。 (30 分間)		
2) 学校の制度 学校の定義と種類。学校の起源と学校系統。			テキスト(①p12-26)を読み、予習・復習すること。 小テストの学習をすること。(1 時間)		
3) 教職員の制度 教職員の種類と職務。教諭等による充当職。教師の義務（服務）。			テキスト(①p27-38)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。(1 時間)		
4) 教員養成の制度・教員研修の制度 教員養成の理念と教員免許状。教員研修。			テキスト(①p39-58)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。(1 時間)		
5) 教育行政の制度・教員の福利厚生制度 文部科学省。中央教育行政。教育委員会。教員の働き方。			テキスト(①p59-81)を読み、復習すること。 (1 時間)		
6) 子ども・子育てにかかわる各種事業 特別支援教育の学校制度にかかわって、視覚障がい当事者の講演を実施。 （外部講師招聘）			研修時の配布資料を読み、復習すること。 小テストの学習をすること。(1 時間)		
7) 学校経営の制度・学校給食の制度・教科書の制度・危機管理の制度 学校組織マネジメント。評価システム。学校給食と「食育」。 教科書制度の特徴。学校安全の考え方。			テキスト(①p82-145)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。(1 時間)		
8) 奨学金の制度・学校関係者による学校支援の制度・入試制度 奨学金制度の法的枠組み。学校と地域の連携・協働。大学入学者選抜制度。			テキスト(①p146-192)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。 (1 時間)		
[使用テキスト] ① 高妻紳二郎 編著『新・教育制度論 [第2版] 』2023 年、ミネルヴァ書房。 ② 渡部昭男著『改訂新版 障がいのある子の就学・進学ガイドブック』2022 年、日本標準。					
[参考文献] ① 全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書 2024 年版』2024 年 8 月発売予定、ちいさいなかま社。 ② 汐見稔幸ほか著『日本の保育の歴史：子ども観と保育の歴史 150 年』2017 年、萌文書林。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（14 %）		授業時間内実施テスト及び授業後提出のワークシートで確認。			
② 実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					

① 筆 記 試 験 (86 %)	
② レ ポ ー ト (%)	
③ 実 技 試 験 (%)	
④ 面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・適時小テストを実施し、かつ、グループ討議を行う。 ・小テストの代わりに、ワークシート課題の場合がある。	
[備考]	
・テキスト『改訂新版 障がいのある子の就学・進学ガイドブック』は、授業時間内に関連箇所を指示して使用する。 ・第6回の「あいサポーター研修」は、第1回～第5回、第7回、第8回のいずれかに変更する場合がある。 「あいサポートメッセンジャー」は松江市社会福祉協議会の講師派遣による。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-14

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 幼児理解		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 平野 美緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☒ 実務経験		・医療、教育、福祉領域における心理職としての経験を生かし、具体的な実践例を通して講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 生活や遊びの実態に即した子どもの発達や学び、またその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための方法について理解し、具体的な対応・支援を説明できるようになる。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 保育現場の具体的な事例に基づき、子どもの発達の特徴を理解し、子ども理解の視点と方法をテーマに取り上げる。また家庭と連携した幼児理解を行うため、保護者が抱えている子どもの育ちに対する思いを理解し、それを共有しあう方法について演習を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・子ども理解についての知識や基礎的態度を理解し、実践できる。 ・子ども理解の方法を具体的に理解でき、実践できる。 ・子ども理解に基づく保育者の援助や態度の基本を身に付ける。 ・子どもを取り巻く環境について捉え、保護者への基礎的な対応方法について理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 保育における子ども理解の意義					
2) 子ども理解を深めるための保育者の基礎的態度や姿勢					
3) 子ども理解における発達の観点					
4) 子ども理解の視点① 個と集団の関係の理解について、事例をもとにグループディカッションを行う。					
5) 子ども理解の視点② 仲間関係と葛藤について、事例をもとにグループディスカッションを行う。				第1～4講の講義で扱ったテーマについて小レポートの作成。（30分程度）	
6) 子ども理解の方法① 観察・対話・検査					
7) 子ども理解の方法② 保育カンファレンス					
8) 保護者理解と協働 ・これまでの学習のまとめと振り返り ・到達度確認テストの実施				第5～7講の講義で扱ったテーマについて小レポートの作成。（30分程度）	
[使用テキスト] 無藤隆他（編著）『子どもの理解と援助～育ち・学びをとらえて支える』光生館					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 課題について、第8回講義時に解説し、フィードバックを行う。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-24

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 幼児と人間関係		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 藤井 香里	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 乳幼児期の人間関係における理論や重要な育ちの要素について、学び理解することを目的とする。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 人間関係における基礎的な理論、各年齢における発達と育ってほしい姿をもとに、人との関わりについて講義やワークを通して学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 乳幼児期の人間関係に影響を与える現代の社会的要因について理解できる。 他者との関わりと集団との関わりの中で、重要な育ちの要素や人と関わる力が育っていく過程を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 乳幼児を取り巻く現代社会と人間関係					
2) 乳幼児期の人間関係の基盤 愛着理論を中心に				指定した教科書のページに目を通しておく (15 分程度)	
3) 遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち				指定した教科書のページに目を通しておく (15 分程度)	
4) 幼児期における自立心の育ち～自我の芽生え・自己への肯定感				指定した教科書のページに目を通しておく (15 分程度)	
5) 幼児期における協同性の育ち				指定した教科書のページに目を通しておく (15 分程度)	
6) 幼児期における道徳性・規範意識の芽生えと育ち				指定した教科書のページに目を通しておく (15 分程度)	
7) 幼児期の人間関係の広がり 家庭・園生活・地域社会とのつながり				指定した教科書のページに目を通しておく (15 分程度)	
8) 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 学童期以降へのつながり				学んだ内容を総復習しておく (15 分程度)	
[使用テキスト] 演習保育内容 人間関係 基礎的事項の理解と指導法 2019 建帛社 幼稚園教育要領 文部科学省					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（100%）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 試験終了後、正答を開示する					
[備考] なし					

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育内容（環境）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 高橋 泰道・舟越 美幸・加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験		幼免必修／資格必修			
[授業の目的・ねらい] ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」を基に、子どもと人・自然とのかかわりを理解させ、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶことができるようにする。子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶことができるようにする。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] (1) 日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。 (2) 各年齢段階の設定保育や自由遊びの中での「環境」に関わる指導計画を立案できる。 (3) 小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる指導計画を立案できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育内容における「環境」・領域「環境」のねらい、内容、取り扱い（ディスカッション）（高橋） ・子どもの「環境と関わる力」の理解と発達を支えているもの、身近な自然・生き物・文字や記号・数量と形・園内外の行事について概要を理解する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
2) 乳幼児期の探索意欲と好奇心を促す保育（ディスカッション）（高橋） ・子どもと人・自然とのかかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
3) 子どもと自然遊び（1）実際の様子（ディスカッション）（高橋） ・季節の特徴を生かした自然物を活用した保育から気づいたことについて話し合い、共有する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
4) 子どもと自然遊び（2）教材研究（ディスカッション）（高橋） ・季節の特徴を生かした自然物を活用した保育について考える。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
5) 子どもの数量理解と保育教材研究（ディスカッション）（高橋） ・身近な文字や記号・数量と形を生かした保育から気づいたことについて話し合い、共有する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
6) 小学校教育への連続性をふまえた「環境」の位置づけ（グループワーク）（高橋） ・小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる保育のあり方について考える。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
7) 教材研究と指導案作り（グループワーク）（舟越） ・身近な自然や素材を使った遊びを生かした指導案を作成する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。（1 時間）		
8) 指導案の発表（グループワーク）（舟越） ・グループで作成した指導案を発表し合い、話し合う。 ・話し合いを基に指導案を修正し、まとめる。			指導案を完成させる。（1 時間）		
[使用テキスト] 上中 修編（2018）『保育実践に生かす保育内容「環境」（第2版）』教育情報出版					
[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（20％）		授業内で課した振り返りシートの提出とその内容で評価をします。			
②実技・作品発表等（40％）		授業内で課した課題の提出物とその内容で評価をします。			

【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（40％）	領域「環境」について、子どもと人・自然とのかかわりについての理解や、「環境」に関わる保育のあり方についての理解度等について評価します。
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポート課題について、そのポイントを授業後に解説する。	
[備考] 質問，相談等ある場合には，GoogleClassroom で連絡する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-41

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (人間関係)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 藤井 香里	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 主にワークを通して、自己を見つめ、幼児の人と関わる力を育てるための実践的な能力を養うことをねらいとする。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 子どもにとっての「人間関係」の意味と自我形成、生活との関わり、遊びや集団との関わり、人との関わりと保育者の指導・援助などの事項について、事例を手がかりに検討・考察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 自らがグループ討議やワークに積極的に取り組むことで人間関係の重要性を理解できる。 子ども一人一人を大切にしながら、子ども集団の中で人と関わる力を育てる保育者の役割について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：ワークを通して自己を知ろう					
2) 「生きる力」を育む人との関わり 幼稚園教育要領の理解			ワークにおける課題を振り返っておく (10 分程度)		
3) 幼児期の発達と人との関わり 自我の芽生え、自己主張と自己抑制、社会性・道徳性について			ワークにおける課題を振り返っておく (10 分程度)		
4) 遊びの中で育む人間関係① パーテンの遊びの発達段階、遊びと発達・仲間関係、触れ合うことの喜びと楽しさ			ワークにおける課題を振り返っておく (10 分程度)		
5) 遊びの中で育む人間関係② 葛藤・友だちとの仲直りを通しての人間関係の深まり、保育者の望ましい援助とは			ワークにおける課題を振り返っておく (10 分程度)		
6) 人間関係の広がり 園、家庭、地域の人々との交流の意義			ワークにおける課題を振り返っておく (10 分程度)		
7) 人間関係の実践 (グループ活動) ①人と関わる力を育てる保育指導案の作成			ワークにおける課題を振り返っておく (10 分程度)		
8) 人間関係の実践 (グループ活動) ②模擬保育実践とディスカッション					
[使用テキスト] 演習保育内容 人間関係 基礎的事項の理解と指導法 2019 建帛社					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (100%)		ワークにおける提出物をもって評価する			
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 最終講義日にまとめの解説を行う					
[備考]					

なし

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-42

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育内容（健康）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 中谷 昌弘		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	幼免必修／資格必修
☑ 実務経験	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。					
[授業の目的・ねらい] 保育内容領域「健康」におけるねらいや内容を理解し、乳幼児が心身ともに健やかに成長するための指導方法や援助を導き出すことができる。						主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、子ども自ら多様な活動に意欲的に取り組み、健康で安全な生活をつくり出し、生活を営む力を身につけていく保育・教育のあり方を学ぶ。授業では模擬保育とその振り返りを通して保育を構想する方法を身に付ける。また、模擬保育で必要な指導案作成や保育指導で有効な情報機器及び教材の活用法も理解し、授業内のみならず教育実習や就職後を見据えた活用の仕方について理解を深める。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] （１）保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」についてのねらい及び内容を理解し、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を修得することができる。 （２）子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」について具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることができる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]	
1) 領域「健康」のねらいと内容理解、子どもの遊び、安全管理と安全教育						
2) 領域「健康」における模擬保育の題材設定と保育指導案の作成						
3) 運動遊びの理論と指導法①(模擬保育を含む)						
4) 運動遊びの理論と指導法②(模擬保育を含む)						
5) 運動遊びの実践と指導援助の検討①(模擬保育を含む)						
6) 運動遊びの実践と指導援助の検討②(模擬保育を含む)						
7) 運動遊びの実践と指導援助の検討③(模擬保育を含む)						
8) 模擬保育の振り返り、子どもの健康を取り巻く現状と課題～まとめ						
[使用テキスト] ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
[参考文献] 必要に応じてプリントなどを配布						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
① 到達度の確認（ %）						
② 実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
① 筆記試験（ %）						
② レポート（50%）		指導案の作成				
③ 実技試験（50%）		模擬保育の実践				
④ 面接試験（ %）						
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ・模擬保育の実践後、全体でディスカッションを行う。						
[備考]						

- ・グループワーク、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。
- ・集中講義 2024 年 8 月 27. 28. 29. 30(各日 2 コマ)

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-43

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育・教職実践演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 橋本 祐治・舟越 美幸・川内 紀世美		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	幼免必修/資格必修
☑ 実務経験	・元小学校教員（橋本）・保育士（舟越）の経験を活かし、具体的な事例を通して保育観や教育観の深化と実践力向上に資する演習にする。					
[授業の目的・ねらい] 自らの保育観や教育観を深化させ、実践力を高めるために、これまでの学修内容や各実習を振り返り、保育・教育・子育て支援の実践に必要な知識や技能について有機的に統合する中で、自らの課題や目標を明確にし、目標達成に向けて努力する。						主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 授業は複数の教員で行う。これまでの全ての授業で学んだことをもとに、自らが保育者として子どもと向き合うための実践的な知識や保育技術の統合を目指し、テキストを活用したPCによるプレゼンテーションやディスカッション等を通じて、保育実践力の基礎を養う。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・2年間の学びを通して、自らの使命感や責任感、教育的愛情等の資質を確認し、保育者としての自己課題が発見できる。 ・保育・教育課題や保育・教育関係機関等の連携などの、保育・教育に係る社会状況を把握し、自らの課題を発見する。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 授業科目全体の概要を知り、見通しを持つ。 ・保育に関する疑問や自己課題をまとめる。				・1～3 セメスターの履修カルテを作成する。 (各セメスター成績発表後に3時間)		
2) 保育者への歩みと足跡 その1 ・「保育者を目指す私」と「思い描く保育者像」について考え、グループや全体で交流する。				・テキスト第1章「保育者への歩みと足跡」を読む。(1時間)		
3) 保育者への歩みと足跡 その2 ・理想の保育者像や保育者になることへの不安について考え、グループや全体で交流する。				・テキスト第1章「保育者への歩みと足跡」を読む。(30分)		
4) 保育者への歩みと足跡 その3 ・保育者に求められる資質・専門性について考え、グループや全体で交流する。				・ワークシート「履修カルテによる振り返り」を記述する。(2時間)		
5) 子ども理解の方法と実際 ・保育における子ども理解の方法と実際について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。				・授業担当者の助言を得ながら、グループの担当テーマについて学修し、発表の準備をする。(4時間) ・次回の学修テーマについて、テキストの該当章を読む。(1時間)		
6) 気になる子どもの行動の理解と対応 ・気になる子どもの行動を理解し、一人一人とのかかわるために、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。				〃		
7) 教育課程及び全体的な計画を考える ・広義・狭義のカリキュラムの理解とマネジメントについて、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。				〃		
8) 保育内容と保育方法の研究 ・子ども一人一人の発達に応じ、その主体性が発揮される保育内容と方法について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。				〃		
9) 協同的な学びと育ちへ ・協同的な学びとその実際について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。				〃		
10) 保育の振り返り ・保育実践を振り返る意義とその方法について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。				〃		

11) 保護者及び地域との関係づくり ・保護者や地域、関係機関との協働と、保育者同士の協働について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
12) 保幼小の接続 ・保幼小の接続やその課題、接続期カリキュラム等について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
13) 園の安全管理 ・園の安全管理の考え方や内容について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
14) 保育者の専門性 ・保育者の専門性と成長、倫理について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
15) 自分の保育者像を目指して ・保育者像を持つことの意味や保育者像を形成する視点について学び、自らの保育者像を明確にする。	〃
【使用テキスト】 小櫃智子・矢藤誠慈郎編、『改訂 2 版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み』,2023,わかば社	
【参考文献】 秋田喜代美,『保育の心もち 2.0』,2021,ひかりのくに、ほか 26 冊ー初回授業において一覧表を配付する。	
【試験の方法と学修成果の評価基準】	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (80 %)	・授業内容を自らの視点でまとめ、考えと課題を述べる。(各回「学修のまとめ」提出)
② 実技・作品発表等 (20 %)	・グループの発表担当テーマについて、協力して資料を作成し発表する。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
【フィードバックの方法】 ・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。 ・グループ発表については、「発表計画及び評価票」によって評価言と評価点を返却する。 ・グループ発表やディスカッションの様子について、その都度授業内で解説したり、コメントしたりする。	
【備考】 各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-74

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育・教育相談演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 平野 美緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☒ 実務経験		・医療、教育、福祉領域における心理職としての経験を生かし、具体的な実践例を通して講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付け、実践できる。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 保育・教育相談に関する基礎的な心理学的知識及び技能に関する講義内容を取り扱う。また、相談援助の技法については、ロールプレイ等を通して授業を進める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・保育・教育相談の意義と課題を理解し、説明できるようになる。 ・保育・教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論、技法を含む）を理解し、説明できるようになる。 ・子どもや保護者をとりまく多様な課題に対して、専門的な知識に基づいて多面的に把握し、支援が実践できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育・教育相談の意義と役割					
2) 保育・教育相談に関わる心理学的基礎的理論					
3) 子どもの発達と臨床（1） 愛着と対人関係の発達					
4) 子どもの発達と臨床（2） 発達上の課題と不適応					
5) 保育・教育相談の技法（1） カウンセリングの基礎理論及び技能についてロールプレイを通して学ぶ。			第1～4講の講義内容についての小レポートを作成する。（30分程度）		
6) 保育・教育相談の技法（2） 保護者支援についてロールプレイを通して学ぶ。					
7) 保育・教育場面での相談体制や他職種・他機関との連携					
8) これまでの学習のまとめと振り返り 到達度確認テストの実施			第5～7講の講義内容についての小レポートを作成する。（30分程度）		
[使用テキスト] 石井正一郎、藤井素（編著）『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 課題について、第8回講義時に解説し、フィードバックを行う。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-29

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教育方法論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 堅田 弘行・小山 優子 (オムニバス)		
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	幼免必修／選択必修
□ 実務経験						
[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育を通して育てたい幼児の資質・能力と幼児期の終わりまでに育てたい力を理解し、その力を育てるための教育方法を学修する。また、幼稚園で行なわれる教育実践を具体的に知り、指導と評価の方法に役立てることを目標とする。						主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どもと教師をつなぐ具体的な手立てとして、どのような方法があり、その方法が生み出されるにはどのような歴史的変遷、あるいは思想的な背景があるのかを解説しながら、教育方法とは何かについて考える。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 子どもを主体とした教育方法の原理を理解し、幼児への指導法について実践事例を通して具体的に理解する。 (2) 学校教育における情報機器の活用状況から、幼児期にふさわしい教育方法を考える。 (3) 個別理解や学級経営などの子どもの育ちを支える指導方法や評価方法を理解する。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 幼児期の教育の目的と目標、幼児の発達特性の理解【堅田】						
2) 「環境を通して行なう教育」、教育方法と保育形態【堅田】						
3) 遊びと生活を通じた保育の実際【堅田】						
4) 小学校就業前までの発達課題と幼児に育みたい資質・能力【堅田】						
5) 幼児の発達に合わせた遊び【堅田】						
6) 生活の場でのグループ・集団活動、当番活動や行事などにおける教育方法【堅田】						
7) 保育における個別理解と集団理解【堅田】						
8) 幼児への指導・援助の具体的方法【堅田】						
9) 幼児の協同的な学びと実践【堅田】						
10) 幼児教育と小学校教育との連携【堅田】						
11) 幼児教育における情報機器の活用と課題【小山】						
12) 教育方法上の配慮事項と指導計画の作成【小山】						
13) 幼児理解と保育の記録・保育の評価【小山】						
14) 保育実践研究と保育カンファレンス【小山】						
15) 指導者としての資質の向上【小山】				(事後学習)第 11 回～15 回の授業中に視聴した DVD について、ワークシートの「まとめ」に自分の感想や意見を記述する(約 30 分)		
[使用テキスト] 北野幸子・小山(小野)優子『乳幼児カリキュラム論』建帛社 2010 年 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』 チャイルド本社						
[参考文献] 参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ %）						
②実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
①筆記試験（ 60%）		筆記による試験をおこなう（堅田）。				
②レポート（ 40%）		授業終了後に期日をもうけ、指定された場所やレポートを提出する（小山）。				
③実技試験（ %）						
④面接試験（ %）						

平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-52

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 地域福祉論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 余村 望	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
☑ 実務経験	元知的障害者援護施設職員の経験も踏まえて地域にあるべき共に創る福祉の姿を伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 地域福祉は、住民が主体となり、自ら参加して行う社会福祉実践である。本授業では、地域福祉の社会的意味、理念と実践展開及びその方法論等について学び、福祉専門職として自らがその主体者として実践できることを目的とする。					主に対応するDP 3+4
[授業全体の内容の概要] 地域福祉が生まれるに至った社会背景、その実践のための地域福祉計画、推進主体と推進方法及び実践例を学び、求められる地域共生社会の構築とそこへの参加の意味を考える。特に地域包括ケアシステム推進事例について理解を深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間の存在の価値の下に、あらゆる人たちが自らの人生を全うすることができる地域社会の形成に必要な、社会福祉援助職としての基本的な知識と技能を身に付け、援助実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業ガイダンス～地域福祉とは何か			・当該コマ学習資料の読み込み（各回1時間） ・当該コマ学習資料（前回配布）の自己ノート作成（各回1時間） ・当該コマで提示する小レポート作成（各回1時間）		
2) 現代社会と地域福祉～生活変容と地域福祉の対象					
3) 地域福祉の推進主体					
4) 地方分権と地域福祉					
5) コミュニティの変容と福祉コミュニティ					
6) 地域包括ケアシステムの視点と実践（理論と政策）					
7) 地域包括ケアシステムの視点と実践（隠岐圏域の実践）					
8) 地域共生の新たな実践（まとめ）					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 『人口減少時代の地域福祉』 野口定久 ミネルヴァ書房 2016 年 『地域福祉の源流と創造』 三浦文夫 右田紀久恵 大橋謙策 中央法規出版 2003 年 『地域包括ケアの実践と展望』 大橋謙策 白澤 政和 中央法規出版 2014 年					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 30%）		授業態度、提出物の提出状況、授業参加度及び提出された課題レポートを評価。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ 70%）		筆記試験を実施			
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] ・到達度確認のための小課題について評価後にコメントする。 ・筆記試験解答についての解説を開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-34-21

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 臨床心理学		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 平野 美緒		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター	選択必修
☑ 実務経験		精神科・心療内科の心理職としての経験を活かし、実践的な心理臨床について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 人間理解について深めるために必要な臨床心理学的視点や基礎的理論について理解し、説明できるようになる。また、相談・援助活動の基礎となる、臨床心理学的援助の基礎技能について実践できるようになる。さらに、コミュニティや環境への臨床心理学的なアプローチをふまえて、心の健康の維持・増進・予防について説明できるようになる。						主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 福祉・教育・医療現場の事例を中心に取り入れ、授業を構成する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・臨床心理学に関する基礎知識（精神的不適応観、心理療法、心理アセスメントなど）や臨床心理学的視点について理解し、説明できるようになる。 ・子どもや保護者などのより健康的な生活を支援するために保育者として必要な知識と技術を習得し、実践できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ・ ころについて ・ 臨床心理学の定義と意義						
2) 臨床心理学的人間理解① ・ 「正常観」と「異常観」について						
3) 臨床心理学的人間理解② ・ 「適応」と「不適応」						
4) 臨床心理学的人間理解③ ・ 防衛機制について						
5) 心理アセスメント① ・ 心理査定面接ついてロールプレイを行い学習する。				第1～4講の講義内容に関する小レポートを作成する。（30分程度）		
6) 心理アセスメント② ・ 行動観察と心理検査						
7) 臨床心理学的援助 ・ 心理療法の理論モデル ・ 心理療法の技法モデルについてロールプレイを行い学習する。						
8) 授業のまとめと振り返り ・ これまでの授業のまとめを行った後、課題レポートを作成する。 ・ 課題レポートをグループで共有し、他者の考え方や学びにふれ、自分の考えを整理し深める。				第5～7講の講義内容に関する小レポートを作成する。（30分程度）		
[使用テキスト] 高尾兼利、平山諭（編著）『保育と教育に生かす臨床心理学』ミネルヴァ書房						
[参考文献]						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（100%）						
②実技・作品発表等（ %）						
【定期試験】						
①筆記試験（ %）						
②レポート（ %）						
③実技試験（ %）						
④面接試験（ %）						

平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
課題について、第 8 回講義時に解説し、フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-26

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 障がい児保育Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 舟越 美幸		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター	選択必修
☑実務経験	保育者の実践経験をもとに障がいのある子どもの育ちと支援方法についてお伝えします。					
[授業の目的・ねらい] ・障がいのある子どもの思いや願い、共に育つ環境づくりを理解し、説明できるようになる。					主に対応するDP 1+2	
[授業全体の内容の概要] ・合理的配慮や発達保障の観点から子どもが育つ環境について理解する。 ・障がいのある子どもの育ちを支える保育環境、就学後の姿について実践的に学ぶ。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・障がいのある子どもの思いや願いから共に生活や遊びを楽しみ、学び合う環境作りについて理解する。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 保育者にとって気になる子ども・気にする必要のある子ども ・子どもと保育者相互を主題とする保育のあり方について学ぶ。 ・障がいのある子どもが集団の中でかけがえのない自分を感じ、自分らしさを発揮できる保育のあり方について考える。						
2) 発達の源泉となる環境について① ・インターネットや文献から調査し、資料を作成する。				・インターネットや文献から題材を選び、資料を作成する（2～3h）。		
3) 発達の源泉となる環境について② ・第2講で作成した資料を基に発表する。						
4) 発達の源泉になる環境について③ ・発表した資料を基に、子どもの育ちを支える環境について理解する。						
5) 障がいのある子どもに必要な環境づくり ・事例を基に、学生相互に意見を出し話し合い、障がいのある子どもに必要な環境（ヒト・モノ・コト）について理解する。						
6) 外部施設の活動に参加する① ・外部施設の実践について事例を基に理解する。						
7) 外部施設の活動に参加する②（フィールドワーク） ・外部施設の施設見学や講話に触れ、その意義や内容について理解する。						
8) 外部施設の活動に参加する③（フィールドワーク） ・外部施設の活動に実際に参加し、子どもや支援者に触れることでその意義や内容について理解する。						
[使用テキスト] ・適宜プリントを配布します。						
[参考文献] ・「最新保育講座 15・障害児保育」鯨岡峻，ミネルヴァ書房。 ・「障害児保育 30 年～子どもたちと歩んだ安来市効率的保育所の軌跡～」，ミネルヴァ書房。 ・「どの子にもあ～楽しかった！の毎日」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美，ひとなる書房。 ・「『気になる子』が変わるとき - 困難をかかえる子どもの発達と保育」木下孝司，かもがわ出版						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
① 到達度の確認（ 30%）	第1講（10%）・第3・4講（10%）・第5講（10%）振り返りシート					
② 実技・作品発表等（ 40%）	第2講発表資料（20%）・第7講レポート（20%）					
【定期試験】						
① 筆記試験（ %）						
② レポート（ 30%）	第8講レポート作成					
③ 実技試験（ %）						
④ 面接試験（ %）						
平常点評価	☑受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する					

	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業内で、コメントをしたり、関連する資料を配布します。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-48

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 障がいのある人の発達保障		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 余村 望・川内 紀世美 (オムニバス)		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター	選択必修
☑ 実務経験	知的障がい者援護施設での実務経験をもとに、地域社会が持つべき発達保障機能について伝えます。 (余村)					
[授業の目的・ねらい] 発達保障理論を学ぶことにより、障がい児者の発達について理解し、説明できるようになる。また障がい児者への社会福祉制度を把握しつつ、共生社会の仕組みを理解し、そのあり方について考え・実践する保育者となる。						主に対応するDP 2+3
[授業全体の内容の概要] 発達保障とはなにか、またそれはどのようにして生まれたのかを概観する。加えて、障がいのある人たちの権利と生活保障の理念を踏まえた上で、将来の社会的自立を見据えた障がい者支援のあり方について、制度・実践面から概観しつつ考察を深める。また、成人期の支援についても、制度化された社会的サービスの概要を把握しつつ、より具体的な支援方法について理解し、検討を加える。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 発達とは何か、発達保障の歴史について学び、説明できる。 障がい児者福祉の根拠となる理念や考え方について理解し、説明できる。 障がい者に対する児童期から成人期に至る切れ目のない支援のあり方を学び、説明できる。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 授業ガイダンス・発達保障の思想と実践（川内） 日本の福祉教育の先駆者である糸賀一雄らの思想と実践から「発達保障」、「ヨコへの発達」について学ぶ。				・テキスト『〈ヨコへの発達〉とは何か』、『糸賀一雄の最期の講義—愛と共感の教育—』を読んでくること。（1時間） ・映像視聴あり。		
2) 特別支援教育と障がい児者福祉の歴史と思想（川内） 山陰の視覚障がい及び聴覚障がい教育の礎を築いた福田与志、遠藤董の功績を学ぶ。また、福田平治の生涯から障がい児者福祉の思想を学ぶ。				・配布資料を読んでくること。（1時間） ・映像視聴あり。		
3) 特別支援学校の教育（川内） 「固有ニーズに応ずる教育」、「特別ニーズ教育」、「特別支援教育」、「特別支援学校・通常学校」それぞれの概念を理解し、特別支援教育および特別支援学校の教育課程ならびに教育実践を学ぶ。				・配布資料を読んでくること。（1時間）		
4) インクルーシブ教育（川内） 分離教育から包摂教育（インクルーシブ教育）への転換について学び、保育所・幼稚園、学校、地域における支援策の現状について理解する。				・配布資料を読んでくること。（1時間）		
5) 障がいのある人の生活から学ぶ①（余村） 学習対象である NPO 法人こだまの事業理念、事業内容等について学ぶ。				・当該事業所の事業概要等について HP 等で情報収集し、ノートにまとめる。（1時間）		
6) 障がいのある人の生活から学ぶ②（余村） NPO 法人こだまに行き、利用者や職員と交流する中で障がいを持つ人の生活課題について理解を深める。				・事業所の事業に関して明らかにしたいテーマを設定する。（1.5時間）		
7) 障がいのある人の生活から学ぶ③（余村） NPO 法人こだまに行き、利用者や職員と交流する中で障がいを持つ人の生活課題について理解を深める。						
8) 障がいのある人の生活課題を特定し、その解決に向けたアクションについてレポートを作成する。（余村）				・得られた情報を、テーマに沿って整理する。（1.5時間）		
[使用テキスト] 『〈ヨコへの発達〉とは何か』垂髪あかり 日本標準 2020 年						
[参考文献] 『この子らを世の光に』糸賀一雄 柏樹社 1965 年						

『福祉の思想』糸賀一雄 NHK 出版 1968 年	
『糸賀一雄の最期の講義—愛と共感の教育—』糸賀一雄 中川書店 2009 年	
『夜明け前の子どもたちとともに（復刻版）』田中昌人 全国障害者問題研究会出版部 2006 年	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認（ 50 %）	授業態度、提出物の提出状況、授業参加度及び提出された課題レポートを評価。
② 実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
① 筆記試験（ %）	
② レポート（ 50 %）	授業課題についてのレポート作成。
③ 実技試験（ %）	
④ 面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回検討課題について考察レポートを作成又はグループワークを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-34-49

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教材研究（絵本）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☑ 実務経験		保育士の経験を活かして、絵本の魅力および保育における活用方法について教示します。			
[授業の目的・ねらい] ・子どもの豊かな心を育むため、絵本の魅力と子どもの成長にもたらす効果について理解し、自分なりの考えを説明することができるようになる。 ・保育の実践と関連させて考えることによって、絵本の可能性を知り、お話から子どもの生活や遊びへの展開をイメージしながら、絵本を活用した活動の計画ができるようになる。					主に対応するD P 3
[授業全体の内容の概要] ① “Share books”（＝絵本で時間を共有し、人と人とを繋げる絵本）の視点から、絵本の多様性について考える。 ② 絵本から遊びへの展開を知り、グループごとに実践する活動を計画する。 ③ フィールドワークでは地域の保育所から招いた子どもに向け、グループごとに計画した絵本ワークショップを行う。 ④ フィールドワークの振り返りから、絵本を活用した保育実践について学びを深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・絵本の読み方や絵本から発展する遊びについての知識を深め、考案・実践することができる。 ・絵本の読み聞かせから活動への発展を考えた簡単な指導案を作成し、実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ “Share books”（＝絵本で時間を共有し、人と人とを繋げる絵本）について講話から理解を深める ・ 絵本を保育の活動に繋げる（講話・活動例の紹介） ・ グループごとにワークショップの活動内容検討～内容・流れの決定 ・ 役割分担と製作物の決定					
2) ワークショップに向けた事前準備① 当日子どもたちと使用する物品の教材研究および準備			第1回で取り組んだ「活動の流れと内容・分担表」をグループごとに、期日までに提出すること。（0.5時間程度）		
3) ワークショップに向けた事前準備② 当日子どもたちと使用する物品の準備					
4) ・ リハーサル ・ 相互評価とグループ検討			第2～3回で準備が整わなかったグループは授業外の時間で準備し、第4回リハーサルまでに準備を完了させておくこと。（1～3時間）		
5) ワークショップの事前準備（リハーサルからの見直し・改善）					
6) ワークショップ①〈フィールドワーク〉 直前準備を終え、来校した地域の保育所に在籍する子どもたちに対し、グループごとに計画したワークショップの活動を展開する。					
7) ワークショップ②〈フィールドワーク〉 ワークショップを展開し、子どもたちとともにその活動を展開し、振り返る。 片付け					
8) ・ ワークショップの振り返り ・ まとめ（総評）			第7回で課題提示した振り返りシートを時間外学習にて完成させ、第8回授業で活用できるよう持参すること。（0.5時間）		
[使用テキスト] 適宜、資料を配布します。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（60%）		グループごとの「活動の流れと内容・分担表」の提出および内容（10%）、ワークショップに向けた準備への取り組み姿勢（30%）、振り返りシートの提出と内容（20%）にて評			

	価します。
②実技・作品発表等（40%）	リハーサルの取り組み姿勢（15%），ワークショップ当日の取り組み姿勢（25%）にて評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] リハーサル後に助言指導を行い，ワークショップ後の第8回に全体に向けた総評を行います。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-54

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 教材研究（おもちゃ・製作遊び）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、保育・幼児教育や造形の知識にもとづき、子どもの発達と表現材料の特性に応じた玩具の製作や製作遊びを通して、保育・幼児教育における技能を身につけ、造形表現活動の意義を考察する。					主に対応する D P 1
[授業全体の内容の概要] 紙類、粘土類、自然素材、人工素材などの造形表現材料の特性を理解し、子どもの発達と表現材料に応じた玩具と製作遊びを構想し、製作し、保育・幼児教育の技能を習得し、製作物を鑑賞する。以上のことを通して、保育・幼児教育における造形表現活動の意義を考察する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ①造形表現材料の特性と加工方法を分類し説明できる。 ②子どもの発達を踏まえ、表現材料の特性に応じた玩具と製作遊びを考え、製作できる。 ③製作物を鑑賞し、発想のよさや表現の工夫を感じ取ることができる。 ④保育・幼児教育における「もの」を用いた表現活動について考察し、レポートを作成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 表現材料の特性をワークシートにまとめる。			テキストの該当ページを読んでおく。（1 時間）		
2) 粘土類（粘土あそび）：土粘土を用いて感触遊びを楽しみ、遊びの中から主題を発想して立体で表現する。活動の振り返りを記述し、製作工程・完成作品は画像に記録する（以下、6 回まで同様）。			スマートフォンで撮った画像を PC に取り込み、画像の大きさやレイアウトの操作をできるようにしておく。（1 時間）		
3) 紙類：紙製品（紙コップ、紙皿など）を用いて玩具を製作する。			書籍やインターネットを活用して、製作する玩具を考え、アイデアスケッチをしておく。ておく。（1 時間）		
4) 人工素材（樹脂類）：ペットボトル人形を製作する。			モチーフを考え、アイデアスケッチをしておく。（1 時間）		
5) 自然素材（木工あそび）：木片を主な材料とし、釘やネジ類も活用して、木工遊びの中から主題を発想して立体で表現する。			ノコギリで木を切断したり、カナヅチで釘を打ったりする練習をしておく。（1 時間）		
6) 人工素材（繊維類）：毛糸を用いてゆびあみをし、フェルトを用いてゆびにんぎょうを製作する。			モチーフを考え、アイデアスケッチをしておく（ゆびにんぎょう）。（1 時間）		
7) 鑑賞：製作物を鑑賞し、発想のよさや表現の工夫などを話し合い、ワークシートにまとめる。			活動の振り返りをまとめておく。（1 時間）		
8) まとめ：学習を振り返り、記録した画像を用いたレポートを作成する。			PC に取り込んだ画像の整理をしておく。（1 時間）		
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林					
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 100%）		ワークシート（10% 第 1、7 回） 作品（75% 第 2～6 回） 授業内レポート（15% 第 8 回）			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					

④面接試験（　％）	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 第7回の鑑賞活動で製作物について講評する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-55

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子どもの音楽表現Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもの保育と音楽的な表現活動との関係について実践をとおして理解を深めることを目的とする。保育現場で実践する活動内容を検討、計画し、それらを実践発表することを通して、子どもの音楽表現に関する考えを各々が説明することができるようになることをねらいとする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 保育や幼児教育の現場で使われる音楽的な表現活動の内容とその方法について説明する。第7、8回目の保育園での実践発表に向けて、学生らが考案した計画内容をもとに、活動方法の助言を行う。また、実践プログラムの中に、ダンスの項目も取り入れることを前提に、子ども向けのダンスの指導方法を講義と実演を交えて説明する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①子どもの保育と音楽的な表現活動との関係についての知識を深め、音楽表現活動のプログラムを考案し、実践することができる。 ②音楽表現活動の展開方法を考案し、実践することができる。 ③子ども向けのダンスの指導方法を体得し、実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション：子どもの保育と音楽的な表現活動の関係について理解し、学修の見通しを持つ。 構想〈グループ活動〉：実践発表の活動内容を検討し、ワークシートにまとめる。					
2) 実践発表に向けた事前準備①				ワークシートが完成しなかった場合は、指定期日までに完成させ、提出をする（1時間）	
3) 実践発表に向けた事前準備②※子どもの歌を用いたダンスの実践も行う				不十分なことがあれば、課外で練習する（1～2時間）	
4) 実践発表に向けた事前準備③※手遊び歌も行う				不十分なことがあれば、課外で練習する（1～2時間）	
5) リハーサル、相互評価				第5回目のリハーサルまでに準備を完了させておく。（1～3時間）	
6) 実践発表に向けた事前準備④リハーサルで行った内容の改善をする。				リハーサルでの学びをもとに、不十分なことがあれば、課外で練習する（1～2時間）	
7) 実践発表：保育園へ出向いて実践発表をする。				実践発表に向けて、課外で練習し、発表に備える（1～3時間）	
8) 実践発表と振り返り：実践発表での活動を振り返る。 まとめ（総評）					
[使用テキスト] 適宜、資料を配布します。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（40%）		ワークシート（20%）、振り返りシート（20%）にて評価します。			
②実技・作品発表等（60%）		リハーサルの取り組み姿勢（20%）、実践発表当日の取り組み姿勢（40%）にて評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験（%）					
②レポート（%）					
③実技試験（%）					

④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 学生個々の取り組み姿勢、状況および進行状況を鑑み、授業者からコメント・助言をする。リハーサルおよび本番後に振り返りを行うとともに、授業者から講評を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-61

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 子どもの音楽表現Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい] 一台のピアノによる 4 手または 6 手の連弾による音楽体験を通して、音楽表現力の向上を図ることを目的とする。連弾は、ピアノを演奏する技術や表現力のほか、他者と一緒に演奏するためのコミュニケーションスキルが必要である。協力して楽曲を創り上げ、完成させて演奏するという視点から、保育者として必要な協調性や人への思いやりなど、周りの人もうまくかわる能力も向上させることをねらいとする。					主に対応する D P 4
[授業全体の内容の概要] ・連弾ではグループレッスンを行う。習熟度に合わせて段階を得てレッスンを行う。 ・最終回ではピアノ連弾の発表会を実施する。 ・発表会後は振り返りを行う。学生は、人前で演奏することを通して、発表の場における子どもの気持ちを体感し、保育者としてどのような配慮が必要かについてグループワークで考察してもらう。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・お互いの音を聴き、息遣いを感じながら、共同演奏の能力を向上することができる。 ・表現したいイメージや感情を共有し、それを音楽として表現することができる。 ・ピアノを演奏する技術と、連弾するためのコミュニケーションスキルを伸ばすことができる。 ・他者と協力しながら楽曲を完成させるチームワークを身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション ・連弾の基本的な弾き方について（指の位置、パートの役割など） ・ペア（あるいは 3 人）の決定、曲目の選定					
2) グループレッスン①：ピアノ連弾のレッスンをメンバーごとに受ける。				授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと（1～2 時間）。	
3) グループレッスン②：ピアノ連弾のレッスンをメンバーごとに受ける。				〃	
4) グループレッスン③：ピアノ連弾のレッスン内に発表会の曲目の決定をする。				〃	
5) グループレッスン④：ピアノ連弾のレッスンを受ける。 プログラムの考案①：発表会に向けて、簡単な曲目解説も作成する。 演奏順や進行の仕方も考案する。				〃	
6) グループレッスン⑤：ピアノ連弾のレッスンを受ける。他者と協力しながら楽曲を完成させるための練習方法を学ぶ。 プログラムの考案②：発表会の演奏順の決定。各メンバーの曲目解説をまとめる。プログラム用紙を作成する。				・授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと（1～2 時間） ・曲目解説の作成が間に合わなかった場合、課外で完成させること（30 分～1 時間）	
7) リハーサル：発表会のリハーサルを行う。リハーサル後、ピアノ連弾のレッスンを受ける。完成度を高めるために、各自が工夫し表現する方法を身につける。				・授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと（1～2 時間） ・プログラム用紙が完成できなかった場合、完成させ、指定期日までに提出すること（30 分～1 時間）。	
8) 発表会、振り返り（グループワーク）				・楽曲の完成に向け練習を行うこと（1～2 時間）	
[使用テキスト] 適宜、資料を配布します。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認 (40 %)	レッスン毎に楽曲の到達度の確認をします。
②実技・作品発表等 (60 %)	リハーサル (課題への取り組み姿勢 10%、課題の習熟度 10%)、発表会 (課題への取り組み姿勢 10%と、課題の習熟度 30%) で評価します。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回の授業において受講者の課題に対するフィードバックを行う。発表会では総評および振り返りを行う。	
[備考]	
履修者数を定員 12 名とし、上限を超える履修希望が出た場合、抽選を行います。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-62

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅱ（保育所）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☑ 実務経験	保育士経験を活かして子ども理解や指導案作成の方法，保育者の意図を持った保育について教示するとともに，実習に向けた準備等についてお伝えします。				
[授業の目的・ねらい] ・保育所の役割や機能，保育者の果たす役割を理解し，実習の目的，自己課題を明確化する。 ・指導案の作成方法を理解し，具体的に作成することで実践のイメージと繋げる。 ・保護者および地域支援や交流について総合的に学びを深める。 ・実習を通して感じた思いや疑問について，実習報告会を通して学び合う。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・内容を確認し，留意事項や心構えについて理解する。 ② これまでの実習を振り返り，各年齢の発達と遊びを理解し，各年齢の保育活動を計画する。 ③ ②の学びを踏まえて指導案を作成する。 ④ 発達の理解や興味関心など子どもの実態を基に設定した内容について，年齢に見合った教材を研究する。 ⑤ 実習報告会を通して，自他の振り返りにより学びを深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・保育実習のまとめとして，指導案の作成から実践を通し，自己課題・達成方法を見出すことができる。 ・実習報告会から他者と実習での学びを深め合い，保育士としての保育観を表明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・オリエンテーション：講義概要の確認と本科目の説明 ・子ども理解：子どもの内面に寄り添う，共感，受け止めとは（グループワーク・ディスカッション） ・「実習課題と取り組み」の作成にあたって			※本科目では <u>計画的な課題への取り組みと提出を重視するため，取り組み姿勢および提出期限の厳守を心がけること。</u>		
2) ・実習前オリエンテーションに向けての電話および当日の受け方について ・保育の計画から設定保育の実施について：子どもの実態を土台とした指導案の作成方法と保育の実践 ・指導案作成：子どもの様子・クラスの実態から考え，行事との結びつきを考える。事前準備と使用教材の検討を行う。作成にあたっては下記のいずれかを選択する。 ①保育実習Ⅰaの実習日誌または「子どもの実態」カードから子どもの姿に即した計画を立て，指導案を作成する。（1～5歳児） ②幼稚園実習で出逢った子どもの様子を思い起こして指導案を作成する。（3～5歳児）			・指導案の作成については主に家庭学習にて取り組み，指定された期日までに提出すること。最終提出までに教員の添削指導が数回にわたって行われるため，最終提出期限から逆算して計画的に取り組むことを勧める。（1～3時間程度） ※科目担当教員および臨時講師による指導案の添削指導を行う。		
3) ・「実習様式集」および「実習ファイル」の配布と説明，留意事項の確認 ・実習日誌の記録方法（確認） ・保護者支援と地域支援・交流					
4) ・指導案に基づいた実践①：学生同士で保育者役と子ども役に分かれ，模擬保育を行う。模擬保育中は科目担当教員および臨時講師が分かれて監督・指導を行う。			※模擬保育に向け，指定した期日までに指導案を完成させ，最終提出すること。 <u>（到達度の確認）</u> （1～3時間程度）		
5) ・指導案に基づいた実践②：学生同士で保育者役と子ども役に分かれ，模擬保育を行う。模擬保育中は科目担当教員および臨時講師が分かれて監督・指導を行う。 ・実践の振り返りから，実習における設定保育の在り方について考える。			※第4～5回で模擬保育を実施するため，使用したい物品（主に消耗品）を事前に購入・収集し，必要に応じて事前準備しておくこと。（0.5～3時間程度）		
6) ・模擬保育の実施からの振り返り ・お礼状および実習報告書の作成方法（確認）保育実習Ⅱに向けた最終確認					
7) ・実習の振り返り：設定保育，保育技術，保護者および地域支援について					

8) 【実習報告会】	
[使用テキスト] 実習運営委員会『実習ガイドブック』，2023，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）	
[参考文献] ・小櫃智子ら，『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社 ・小櫃智子ら，『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（80％）	実習準備および実習後指導として出す課題（子ども理解ワークシート，模擬保育および実習の振り返りシート等）の提出期限厳守および提出物の内容について評価します。また，第2回から模擬保育実施日に向けて作成する指導案の提出および記述内容にて評価します。
②実技・作品発表等（20％）	第4～5回の模擬保育について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（％）	
②レポート（％）	
③実技試験（％）	
④面接試験（％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・指導案については授業時間外の個別対応にて指導およびフィードバックを行います。 ・模擬保育については，第5回終了後にコメントします。	
[備考] この科目を履修するためには，「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修しなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-68

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅲ（児童福祉施設）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☑ 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員としての実務経験を活かし、日常生活支援の方法や内容と伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅲ（児童福祉施設）の事前準備を行い、実習課題の達成を目指す。また、実習後の振り返りを通して、子どもの最善の利益を追求した保育について考えることができることをねらいとする。保育実習指導では、これまで学習した様々な教科目と実習との関連を意識した内容になるため、すべての DP と共通する。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] これまでの学習の振り返りをもとに、保育実習Ⅲの学習内容を確認する。様々なデータから児童福祉施設の抱える課題について学習し、子どもや利用者の自立に向けた社会の取り組みについてグループワークを交えながら授業を行う。第1講から第2講の間に実習施設決定のための面談を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設等における計画に基づいた実際の関わりや様々な活動について説明できる。 2. 実習や実習報告会に取り組み、子どもや利用者のニーズを推測することができる。 3. 実習や実習報告会に取り組み、自分の今度の課題や目標を明確にできる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション			希望する実習施設候補を挙げる。（1時間）		
2) 実習に向けた準備①（子ども・利用者理解） ・視聴教材をもとに子どもや利用者の様々な側面を捉える。			実習の目的を明確に説明する。（1時間）		
3) 実習に向けた準備②（子ども・利用者理解） ・視聴教材をもとに自立を目指した連携の在り方を学ぶ。					
4) 実習に向けた準備③（実習書類の作成） ・実習ファイル、「実習課題と取り組み」、「個人票」を作成する。			「実習課題と取り組み」の下書きをおこなう。（2時間）		
5) 実習に向けた準備④（子ども・利用者理解） ・事例をもとに、子どもや利用者のニーズを考察する。					
6) 実習の振り返り① ・実習の自己評価をもとに、振り返りをおこなう。 ・実習報告書を作成する。					
7) 実習の振り返り② ・実習報告書を確認し、質問を検討する。			履修者全員の実習報告書を一読する。（2時間）		
8) 実習報告会 ・実習を通して学んだこと、気づいたこと、感じたことを発表する。 ・質疑応答を積極的におこない、今後の自己課題を明確にする。			発表原稿を準備する（2時間）		
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科、『実習ガイドブック』，2023.					
[参考文献] 田中利則（監），『事例を通して学びを深める施設実習ガイド』，2018，ミネルヴァ書房.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（60%）		各回における課題の提出状況と内容によって評価します。			
②実技・作品発表等（40%）		実習報告会での発表によって評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験（%）					
②レポート（%）					
③実技試験（%）					
④面接試験（%）					

平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回の授業時に提出課題の振り返りを行います。	
[備考]	
1. 保育実習Ⅲ(児童福祉施設)と同時に履修することが必要です。	
2. この科目を履修するためには、保育実習指導Ⅰb(児童福祉施設)の単位を修得していなければなりません。	
3. classroomを使用しますので、授業中を含めアクセスできる端末を準備してください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-69

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅱ（保育所）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
選択必修	選択必修				
実務経験	元保育士の視点から、保護者支援、保育の計画等、実習における学びについて指導します。				
[授業の目的・ねらい] ・保育所の社会的役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・観察や関わりの視点を明確にすることによって子ども理解を深める。 ・本学で学んだ内容や保育実習Ⅰa（保育所）の経験を踏まえ、保育全体への理解を深めるとともに、その場に応じた実践を行う。 ・保護者や家庭への支援、地域社会との連携について学ぶ。 ・保育の観察から計画、実践、記録及び自己評価について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・保育者としての自己課題を明確化する。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅰa（保育所）の学びや子ども理解を深めると共に、主体的にその場に応じた実践を行う。保護者や家庭への支援・地域社会との連携について知る。保育課程に基づいて指導案を作成し、実践する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・保育所の社会的役割について理解を深めると共に、保護者や家庭への支援、地域社会との連携について説明できる。 ・保育者の行動を参考に主体的に行動し、その場に応じた行動・配慮ができる。 ・集団と個の理解をした上で設定保育に臨み、保育を省察することができる。 ・実習から自己課題を明確化し、自らの保育観について表明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
① 保育所の社会的役割や機能についての理解 ・保育所の社会的な役割、機能について、実践的に理解を深める。 ・保育は養護と教育が一体となって行われるものであることを実践的に学ぶ。 ② 子ども理解 ・クラス集団の様子や全体的な発達、興味関心を捉えることによって、クラスの実態について理解を深める。 ・子ども一人一人の心身の状態や発達過程、興味関心を捉えることで子ども理解を深める。 ・保育者の関わりや配慮からその意図を考え、子ども理解につなげるとともに自身の関わりに結び付ける。 ③ 保育の理解とその場に応じた実践 ・保育所及びクラスの生活の流れや展開を把握することによって、その場に応じた行動をする。 ・「生活や遊びを通して総合的に行う保育」について保育者の姿や子どもとの関わりの場面から理解を深める。 ④ 保護者や家庭への支援と、地域社会との連携 ・保護者への支援及び地域の子育て家庭への支援について、保育所の取り組みや保育者の日々の姿、事例等を通して学ぶ。 ・地域社会との連携について、保育所の取り組みから様々な連携や交流について知る。 ⑤ 計画、実践、記録及び自己評価 ・保育におけるPDCA サイクル（計画—実践—省察—評価）を理解する。 ・クラスの実態に応じて指導案を作成の上、保育を実践し、自己評価を行う。（設定保育） ⑥ 自己課題の明確化 ・保育士資格を取得し、保育者となるための、自己の課題を明確にし、達成のための方法を考える。					※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導Ⅱ（保育所）で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから更に学びを深めることを求めます。また、期間中は実習から帰宅後に実習日誌を作成します。（各日2～3時間程度） ※指導案作成のために、子どもの興味・関心のある多種多様な遊びについて学んでおくことを求めます。また、指導案を作成し、必要な準備材料を揃え、設定北に向けた事前準備を行います。（2～4時間程度）
[使用テキスト] ・実習運営委員会、『改訂 実習ガイドブック』、2023、大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス） ・厚生労働省、『保育所保育指針解説』、2018、フレーベル館					
[参考文献]					

・小櫃智子ら『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社 ・小櫃智子ら『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40％）	実習前指導における課題の提出および内容（課題と取り組み，身だしなみ検査）と，実習後指導における課題の提出および内容（お礼状，実習報告書，実習ファイル）によって評価します。
②実技・作品発表等（60％）	実習施設より「実習態度」「子ども理解・対応」「知識・技術・判断」において全14項目から評価していただきます。
【定期試験】	
①筆記試験（％）	
②レポート（％）	
③実技試験（％）	
④面接試験（％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後，実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考]	
・この科目を履修するためには，「保育実習Ⅰa（保育所）」の単位を修得していなければなりません。 ・この科目を履修するためには，「保育実習指導Ⅱ（保育所）」を履修しなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-72

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅲ（児童福祉施設）			授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田 弘行		
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	選択必修	
□ 実務経験							
[授業の目的・ねらい]						主に対応するDP	
1. 多職種と連携して行う保育者や職員の生活支援に対する観察や生活への参加を通して、子どもや利用者の理解を深める。						5	
2. 施設の生活や保育の流れを把握し、個々に応じた支援の実際への観察と参加を通してその方法を学ぶ。							
3. 子どもや利用者、その家族の抱える課題や社会的背景について理解し、様々な連携について学ぶ。							
[授業全体の内容の概要]							
以下の施設のいずれかで実習をおこなう。感染症等の状況によって実習施設を変更する場合がある。 松江赤十字乳児院、米子聖園ベビーホーム、米子聖園天使園、光徳子供学園、聖煌寮、青谷こども学園、櫻苑、こだま、四ツ葉園、さざなみ学園、こくぶ学園、あかしや、みらい、喜多原学園、ぽっぽ							
[授業修了時の達成課題（到達目標）]							
1. 実習施設の社会的役割、機能、職務内容、子どもや利用者の生活の様子について説明できる。							
2. 子どもの最善の利益を追求した自身の保育観を深め、討論できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						[準備学修の内容]	
① 各実習施設の社会的役割と機能について理解を深める。 ・各実習施設が地域や社会から求められている役割と機能について、実習を通して総合的に理解する。						実習に向けて、および実習期間中は、実習指導Ⅲ（児童福祉施設）で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習時間外に実習日誌を作成します。（各日2～3時間程度）	
② 子どもや利用者の個人差について理解し、生活支援や生活援助の方法を習得する。 ・生活の様子や態度から様々な個人差のありようを理解する。 ・一人一人に応じた生活技能の習得や学習支援、職業訓練の計画について、実際的な関わりを通して理解する。							
③ 子どもや利用者のニーズ、思いや意図を汲み取りながら、当たり前の日常を保障するための関わりについて保育者や職員の姿から学びを深め、自らの実践に繋げる。 ・保育者や職員の行動をよく観察し、多岐にわたる業務を把握する。 ・子どもや利用者の自立のために行う業務について知り、理解を深める。 ・実習指導者の指導及び指示の下、指導員や保育者の補助的立場として子どもや利用者への対応を行う。							
④ 個別支援計画や自立支援計画などの計画に基づく援助や支援のありようを理解する。 ・個別の計画に基づく具体的な援助や支援に参加する。また、計画の作成と実践との関連性を理解する。 ・子どもや利用者、その家族への支援や対応のありようを理解する。							
⑤ 児童福祉施設等の周辺の地域資源の利用や地域社会との連携の方法を具体的に学ぶ。 ・地域や地域社会との連携や協働の様子について体験的に理解する。							
⑥ 最善の利益への配慮について学ぶ。 ・子どもや利用者の生活に参加し、最善の利益について考察する。 ・自らの受容と共感の態度について、参加や観察を通して自覚し、実践する。							
[使用テキスト]							
保育・幼児教育学科、『実習ガイドブック』，2023.							
[参考文献]							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（60%）		実習施設による「実習態度」「知識・技術・判断」に関する項目について評価する。					

②実技・作品発表等（ 40%）	実習日誌と実習報告書によって評価します。
【定期試験】	
①筆 記 試 験（ %）	
②レ ポ ー ト（ %）	
③実 技 試 験（ %）	
④面 接 試 験（ %）	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考]	
1. 保育実習指導Ⅲ（児童福祉施設）と同時に履修することが必要です。	
2. この科目を履修するためには、保育実習Ⅰb（児童福祉施設）の単位を修得していなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-73

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップ教育Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☐ 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につける。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第3段階と位置づけ、小論文、面接練習を中心に就職試験対策を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①就職あるいは進学先を想定した履歴書を作成することができる。 ②就職あるいは編入試験問題を想定した小論文を記述することができる。 ③適切な態度で面接を受けることができる。 ④就職先あるいは進学先を想定したキャリアデザインを考え、レポートを作成することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 2023 年度進路就職ガイダンス：進路就職活動の流れを把握し、進路就職関連の諸調査表に記入・記述する。					
2) 就職情報の収集：福祉人材センターの講話を聴き、ワークシートに記述する。			就職希望先の HP を見て情報を収集しておく。（1 時間）		
3) 履歴書：就職先を想定した履歴書（本学科書式）を作成する。 第3回進路就職希望調査：調査票に記入・記述する。			1 年次に作成した履歴書をもとに、就職あるいは進学希望先を想定した志望動機を考えておく。（1 時間）		
4) 小論文①：提示されたテーマをもとに小論文を記述する。			事前に提示されたテーマをもとに回答内容を考えておく。（1 時間）		
5) 面接練習〈グループワーク〉：外部講師（キャリアコンサルタント）から面接の心構えを聴く。グループで面接練習を行う。面接練習後に振り返りをしてワークシートに記述する。			就職あるいは進学希望先を想定した自己PR と志望動機を話すことができるようにしておく。（1 時間）		
6) 小論文②：提示されたテーマをもとに小論文を記述する。			事前に提示されたテーマをもとに回答内容を考えておく。（1 時間）		
7) 就職情報の収集：外部講師（キャリアコンサルタント）から、就職後のトラブル対応について講話を聴き、ワークシートに記述する。					
8) まとめ：学習を振り返り、自己理解と職業理解にもとづいてキャリアデザインを考え、レポートを作成する。			返却されたワークシートをまとめておく。		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 100%）	履歴書（10%、第3回） ワークシート（20%、第5、7回） 小論文（40%、第4・6回） 授業内レポート（30%、第8回）				
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
第8回でフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育研究ゼミⅠ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈		
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	卒業必修
☒ 実務経験						
[授業の目的・ねらい] 科学的な根拠に基づいた保育・幼児教育・子育て支援の在り方を探求する中で、卒業研究に取り組み、「ものごとを整理する」、「文章にまとめる」、「人に説明する」、「人の意見を聞いて自分の意見を発表する」などの力を身に付ける。						主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ・研究計画書をもとに、文献研究や調査、発表、討論などを繰り返しながら、卒業研究のアウトラインを作成する。個々の研究に基づき卒業論文の執筆作業や卒業制作をおこなう。第1回～第6回の授業はゼミに分かれて実施する。第7回～第8回は2グループに分かれて発表会を実施する。						
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 保育・幼児教育・子育て支援の諸課題に関して課題意識を持ち、自ら研究課題を発掘することができる。 2. 主体的に学ぶ姿勢や日々の学修を積み上げていく習慣を身に付ける。 3. 課題解決のために必要な情報を収集し、考察を加え、自分なりの解決策を提案するための見通しを示す。						
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]		
1) 卒業研究提出までの見通しをもつ ・オリエンテーション終了後、ゼミに分かれて活動する。						
2) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論①				卒業研究のための文献研究や調査を実施したり、ゼミ教員との授業外での指導を受けたりする。 (1コマにつき5時間～6時間程度)		
3) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論②						
4) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論③						
5) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論④						
6) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論⑤						
7) 卒業研究中間発表会① ・質疑応答を通して、以後の研究についての示唆を得る。				発表の準備、練習をおこなう。（1時間）		
8) 卒業研究中間発表会② ・質疑応答を通して、以後の研究についての示唆を得る。				発表の準備、練習をおこなう。（1時間）		
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科，『2024 年度卒業研究の手引き』，2023.						
[参考文献] 戸田山和久，『新版 論文の教室』，2018，NHK 出版。 中坪史典他（編），『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』，2021，ミネルヴァ書房。						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認（ 50%）		授業の取り組み姿勢や各回の提出物によって各ゼミ教員が評価する。				
②実技・作品発表等（ 50%）		第7回・第8回の卒業研究中間発表会での発表姿勢や態度、内容によって評価する。				
【定期試験】						
①筆記試験（ %）						
②レポート（ %）						
③実技試験（ %）						
④面接試験（ %）						
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 各ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業外でおこなう場合もある。						
[備考] 初回授業の中で、評価についての詳細を説明する。						

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育研究ゼミⅡ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈	
授業の回数	16 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
☒ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 科学的な根拠に基づいた保育・幼児教育・子育て支援の在り方を探求する中で、卒業研究に取り組み、「ものごとを整理する」、「文章にまとめる」、「人に説明する」、「人の意見を聞いて自分の意見を発表する」などの力を身に付ける。設定した課題への考察を深め、卒業研究論文等を完成させる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 「保育研究ゼミⅠ」の中間発表会での質問や意見等を参考に、ゼミごとに文献研究や調査、発表、討論などを繰り返しながら、卒業研究論文等にまとめる。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 保育・幼児教育・子育て支援の諸課題に関して課題意識を持ち、自ら研究課題を発掘することができる。 2. 主体的に学ぶ姿勢や日々の学修を積み上げていく習慣を身に付ける。 3. 課題解決のために必要な情報を収集し、考察を加え、自分なりの解決策を提案することができる。 4. 研究内容を卒業研究論文等にまとめ、他者にわかりやすく説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 研究活動／執筆活動等①			卒業研究のための文献研究や調査を実施したり、ゼミ教員との授業外での指導を受けたりする。 (1 コマにつき 5 時間～6 時間程度)		
2) 研究活動／執筆活動等②					
3) 研究活動／執筆活動等③					
4) 研究活動／執筆活動等④					
5) 研究活動／執筆活動等⑤					
6) 研究活動／執筆活動等⑥					
7) 研究活動／執筆活動等⑦					
8) 研究活動／執筆活動等⑧					
9) 保育・教育研究発表会①			発表の予行練習や発表原稿の作成をする。他者の発表資料を読み、疑問点や意見をまとめておく。(3 時間程度)		
10) 保育・教育研究発表会②					
11) 保育・教育研究発表会③					
12) 保育・教育研究発表会④					
13) 保育・教育研究発表会⑤					
14) 保育・教育研究発表会⑥					
15) 保育・教育研究発表会⑦					
16) 保育・教育研究発表会⑧					
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科, 『2024 年度卒業研究の手引き』, 2023.					
[参考文献] 戸田山和久, 『新版 論文の教室』, 2018, NHK 出版. 中坪史典他(編), 『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』, 2021, ミネルヴァ書房.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (30 %)		保育・教育研究発表会での発表や他者への質問によって評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (70 %)		期限内に提出された卒業研究論文等によって評価する。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			

	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
各ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業外でおこなう場合もある。	
[備考]	
・第1回～第8回はゼミごとによって授業場所が異なる。 ・2022年度以降の入学生は、「保育研究ゼミⅠ」の単位を修得していない場合、この科目を履修することはできない。 ・評価の詳細は「卒業研究の手引き」による。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-S-50-89

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップ教育Ⅳ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につけることができる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第4段階と位置づけ、ライフステージにおける自己課題を設定し、課題解決のための資料を収集し、資料を分析、考察をし、発表資料を作成し、発表を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①自己課題を設定することができる。 ②課題の解決のために必要な資料を収集しパワーポイントにまとめることができる。 ③まとめたことを発表することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ 自己課題の設定：ライフステージにおける自己課題を設定する。					
2) 自己課題の決定：ライフステージにおける自己課題を決定し、資料収集の準備をする。					
3) 資料の収集①：ライフステージにおける自己課題にもとづき、必要な資料を収集する。					
4) 資料の収集②：ライフステージにおける自己課題にもとづき、必要な資料を収集する。					
5) 分析と考察①：収集した資料にもとづき、課題の分析をする。					
6) 分析と考察②：課題の分析にもとづき、考察をする。					
7) 分析と考察③：考察にもとづき、発表資料を作成する。					
8) 発表：調査・研究の成果を発表する。発表者以外は感想等を述べる。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（70%）		まとめた発表資料（パワーポイント）			
②実技・作品発表等（30%）		発表の様子（発表の態度・質疑応答）			
【定期試験】					
①筆記試験（%）					
②レポート（%）					
③実技試験（%）					
④面接試験（%）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 第8回の発表後にフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-85

